

令和2年度 渋谷区 区民意識調査
報告書

渋谷区

目次

I. 調査の概要	1
II. 回答者の属性	6
III. 調査結果	10
1. 定住性について	10
(1) 居住年数	10
(2) 今後の定住意向	12
(3) 転出意向理由	14
2. 区政について	17
(1) 区政への関心度	17
(2) 区の施策の充実度	20
(3) 区政の情報入手経路	27
3. コロナについて	30
(1) 渋谷区に望む新型コロナウイルス感染症対策	30
(2) 新型コロナウイルス感染症の情報入手経路	33
4. 渋谷区基本構想について	34
(1) 基本構想とスローガンの認知度	34
(2) 基本構想とスローガンの認知経路	36
(3) 基本構想とスローガンの広報手段	39
5. 高齢者施策について	43
(1) 介護に対する不安	43
(2) 介護に対する不安の具体的な内容	44
(3) 渋谷区が優先的に取り組むべき高齢者施策	46
(4) 将来望む介護	48
6. アクティブシニアについて	50
(1) 渋谷区に住む高齢者の社会との関わり	50
(2) シブカツに今後期待すること	52

7. 渋谷区喫煙ルールについて	54
(1) 「渋谷区喫煙ルール」認知状況	54
(2) 渋谷区に期待する喫煙ルール	57
8. ネウボラについて	60
(1) 「渋谷区子育てネウボラ」に期待すること	60
(2) 「妊婦面接」に期待すること	62
(3) 地域の子育てへの参加意向	64
9. スマートフォンについて	66
(1) スマートフォン所有状況	66
(2) スマートフォン未所有理由	68
(3) 利用してみたいスマートフォンの機能	68
10. おとなりサンデーについて	69
(1) 「渋谷区おとなりサンデー」認知度	69
(2) 「渋谷区おとなりサンデー」未参加理由	72
(3) 地域イベントなどに対する考え	74
11. 町会・自治会について	76
(1) 近所付き合いの望ましい姿	76
(2) 町会・自治会の加入状況	78
(3) 町会・自治会の未加入理由	80
(4) 町会・自治会へ期待する役割	83
12. 広報紙「しぶや区ニュース」について	87
(1) 広報紙「しぶや区ニュース」の閲読状況	87
(2) 広報紙「しぶや区ニュース」の非閲読理由	89
13. コミュニティFM・SNSについて	91
(1) 地域コミュニティFM「渋谷のラジオ」の聴取状況	91
(2) 「渋谷のラジオ」非聴取理由	93
(3) 渋谷区SNSの認知・利用度	94
資料編	99
調査票	99

I. 調査の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の名称

区民意識調査

(2) 調査の目的

区民の区政に対する意識等を把握し、今後の区政課題に反映させることを目的とする。

(3) 調査対象

渋谷区在住の18歳以上の人

(4) 調査期間

令和2年11月11日～令和2年12月3日

(5) 調査方法及び回答件数

年齢	配布方法	回収方法	配布数
18～64歳	はがきで URL を案内	インターネット	14,300
65歳以上	調査票を郵送	郵送回収 (インターネットによる回答も可)	700

回収方法	配布数	有効回収数 ^{注)}	回収率
インターネット	14,300	2,153	15.1%
郵送	700	307	43.9%
合計		2,460	

注) インターネットの有効回収数は、郵送配布したもののうちインターネットによる回答も含まれる

(6) 報告書における表及び図表の見方

- ・図表内の「n」は、設問に対する回答すべき人数(基数)である。回答者数(「n」)が30未満のものは誤差が大きくなるため、参考値とする。
- ・集計は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示しているため、比率の合計が100.0%とならない場合がある。同様に、複数の比率の合計も図表の数字が一致しない場合がある。
- ・複数回答を求めた設問では、設問に対する回答者数を基数として算出しているため、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- ・本文や図表内の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。

2. 調査結果の概要

(1) 定住性について

- ・渋谷区の居住年数は、「10年～20年未満」が23.5%で最も高く、次いで「30年以上」(21.6%)が高い。居住年数10年以上が6割を占める。年齢別にみると、18歳・19歳は「10年～20年未満」が75.7%で最も高い。20代は「2年未満」が29.7%で最も高く、次いで、「2年～5年未満」が26.3%と高い。30代は「2年～5年未満」が32.6%で最も高く、次いで、「5年～10年未満」が27.5%と高い。居住年数10年未満は20代が6割半ば、30代が7割半ばを占める。30代以上は年代が上がるにつれ居住年数が長くなる傾向がみられ、「30年以上」は60代で43.5%、70歳以上で64.4%を占める。
- ・今後の定住意向は、「ずっと住み続けたい」が44.7%、「できれば住み続けたい」が49.8%である。「住み続けたい(計)」は94.5%に達する。年齢別にみると、20代以上は年代が上がるにつれ、「ずっと住み続けたい」の割合が高くなる傾向にあり、20～30代は3割強だが、50代で5割を超え、70歳以上は6割弱を占める。しかし、「住み続けたい(計)」は年代による差は小さく、各年代とも9割を超える。
- ・転出意向理由は、「家賃、地代が高いから」が38.5%で最も高く、以下、「現在の住宅が狭いから」「住まい周辺の環境が悪くなってきたから」(共に31.1%)、「買い物が不便だから(近くに商店がない、物価が高いなど)」(27.0%)などが続く。

(2) 区政について

- ・区政への関心度は、「関心がある(計)」が82.7%、「関心がない(計)」が17.0%である。年齢別にみると、「関心がある(計)」は中高年層で高い傾向があり、30代で約8割、40代以上で8割半ばを占める。一方、20代はやや低く7割弱、18歳・19歳は4割強にとどまっている。子どもが「いる」層は「いない」層に比べ、区政への関心度が高く、「関心がある」は42.7%、「関心がある(計)」も87.9%を占める。「いない」層の「関心がある(計)」は77.5%である。
- ・区の施策について、「充実している(計)」が高い施策は「学校教育」(82.2%)、「子育て支援」(73.9%)、「防災対策・避難場所」(69.0%)、「高齢者施策」(67.4%)、「健康のための支援」(64.1%)、「障害者支援」(63.8%)、「街の景観」(63.5%)、「まちの美化」(62.7%)、「広場や公園」(62.6%)などである。一方、「充実していない(計)」が高い施策は、「まちのバリアフリー化」(55.4%)、「路上喫煙・タバコ対策」(54.8%)などである。
- ・区政の情報入手経路は、「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」が83.3%で最も高い。年齢別にみると、「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」は各年代とも最も高いが、年代が上がるにつれ高くなる傾向にあり、40代以上は8割を超える。「渋谷区のホームページ」は40～50代が3割台後半、30代と60代が3割前後で高い。「町会・自治会の掲示板」は60代以上では「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」に次いで高い。「家族や友人・知人などからの口コミ」は18歳・19歳が37.8%で他の年代より高い。

(3) コロナについて

- ・渋谷区に望む新型コロナウイルス感染症対策は、「区独自のPCR検査体制の強化」(55.9%)と「区独自の給付金や助成の拡大」(55.4%)がそれぞれ5割半ばと高く、以下、「スマートフォンや郵送を活用した非来庁による各種申請手続きの拡大」(41.7%)、「医療や福祉分野におけるオンライン技術の活用」(29.1%)などが続く。年齢別にみると、「区独自のPCR検査体制の強化」は年代が上がるにつれ高くなる傾向にあり、60代以上は6割台後半～7割強に達する。「区独自の給付金や助成の拡大」は40代以下の方が高く、20

～30代が6割を超える。「スマートフォンや郵送を活用した非来庁による各種申請手続きの拡大」も40代以下の方が高く、特に20～30代は5割半ば～6割に達する。

- ・新型コロナウイルス感染症の情報入手経路は、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」が85.8%で最も高く、次いで、「SNSやWebのニュースサイトの情報(官公庁公式を除く)」(57.6%)が高い。以下、「家族や友人・知人などからの口コミ」(21.8%)、「東京都のWebサイトの情報」(20.7%)、「厚生労働省等の国のWebサイトの情報」(17.7%)などが続く。年齢別にみると、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」はいずれの年代も最も高いが、特に60代以上は9割を超える。「SNSやWebのニュースサイトの情報(官公庁公式を除く)」は40代以下が6割後半で高い。「家族や友人・知人などからの口コミ」は18歳・19歳が4割強、70歳以上が3割半ばで他の年代より高い。

(4) 渋谷区基本構想について

- ・基本構想とスローガンの認知度は、「両方とも知らない」が63.3%で最も高い。スローガンの認知率は31.9%、基本構想の認知率は12.6%、スローガンまたは基本構想の認知率は36.1%である。区政に対して「関心がある」層は認知度も高く、スローガンまたは基本構想の認知率は区政に「関心がある(計)」が39.9%、「関心がない(計)」が18.2%である。
- ・認知経路は、「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」が断然高く81.7%を占める。「渋谷区のホームページ」は21.4%、その他の経路は10%未満である。
- ・広報手段としては、「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」が68.5%で最も高く、次いで、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」(49.7%)が高い。以下、「SNSやWebのニュースサイトの情報(渋谷区公式以外)」(34.6%)、「町会・自治会の掲示板、回覧板」(34.1%)が3割半ば、「渋谷区のホームページ」(29.2%)が3割弱で続く。認知経路と比較すると、1位はどちらも「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」である。「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」「SNSやWebのニュースサイトの情報(渋谷区公式以外)」 「町会・自治会の掲示板、回覧板」は3割以上が目につれやすいものに挙げているが、現状の認知経路としては1割未満にとどまっている。

(5) 高齢者施策について

- ・介護に対する不安は、「不安がある」が88.2%を占める。「不安はない」は11.7%である。
- ・介護に対する不安の具体的な内容は、「金銭面」が73.0%で最も高く、次いで、「介護の方法」(64.8%)が高い。共働きの有無別にみると、共働きは全体に比べ「仕事との両立」「家事との両立」「育児との両立」が高い。また、「金銭面」は共働きではないに比べると共働きの方が高いことがわかる。共働きではないは「介護の方法」が最も高い。
- ・渋谷区が優先的に取り組むべき高齢者施策は、「在宅介護の支援」(51.5%)が5割を超えて最も高く、次いで、「高齢者施設の拡充」(48.4%)が高い。
- ・将来望む介護は、「高齢者福祉施設(特別養護老人ホームなど)に入所」(33.9%)と「在宅のままで訪問看護やホームヘルプサービスなどを利用」(33.5%)が3割を超える。在宅のままの介護を希望する人と施設への入所を希望する人の割合は拮抗している。

(6) アクティブシニアについて

- ・渋谷区に住む高齢者が社会と関わりを持ちながら生活を送っているかについて、「そう思う(計)」は 39.4%で、「そう思わない(計)」の 41.1%と拮抗している。
- ・シブカツに今後期待することは、「経験や能力を活かせる場の情報提供」が 56.1%で最も高い。次いで、「働くための情報」(31.3%)が高く、情報提供への期待が高い。

(7) 渋谷区喫煙ルールについて

- ・「渋谷区喫煙ルール」の認知状況は、「『指定喫煙所』以外の屋外の公共の場所(区内の道路・公園・広場・その他公共の場所)が終日禁煙であることを知っている」が 52.6%で最も高く、次いで、「屋外の公共の場所での喫煙は過料の対象であることを知っている」(22.0%)が高い。「渋谷区では加熱式たばこもタバコ葉を加熱する製品は規制対象であることを知っている」は 14.2%にとどまっている。「内容は知らないが、ルールがあることだけは知っている」は 19.1%、「知らなかった(この調査で初めて知った)」は 25.7%である。
- ・渋谷区に期待する喫煙ルールは、「喫煙者へのマナー向上のための普及啓発」が 71.2%で最も高い。以下、「受動喫煙防止のために必要な環境の整備」(60.5%)、「指導員の巡回による指導、過料徴収などの着実な運用」(54.6%)、「受動喫煙による健康への悪影響についての普及啓発」(47.0%)などが続く。

(8) ネウボラについて

- ・「渋谷区子育てネウボラ」に期待することは、「保健師に相談することで、適切な窓口につないでもらえること」(39.4%)と「保健師に気軽に相談できること」(39.0%)が高く、相談に関する期待が高い。子どもの有無別にみると、子どもが「いる」層は「妊娠中から子育て中の子育てサービスの紹介」や「訪問して支援してもらえらること」が「いない」層に比べ高い。
- ・「妊婦面接」に期待することは、「出産後の子育てについて相談できること」が 50.2%で最も高い。次いで、「利用できるサービスの紹介」(44.7%)、「妊娠中の体の変化や家族のことを相談できること」(42.8%)が高い。子どもの有無別にみると、子どもが「いる」層は「出産後の子育てについて相談できること」と「利用できるサービスの紹介」が5割を超え高い。
- ・地域の子育てへの参加意向は、「機会があれば参加したい」が 49.1%で最も高い。「参加意向あり(計)」は 57.7%である。長子の年齢別にみると、「4歳未満」～「高校生・高専生」までは長子の年齢が低いほど「参加意向あり(計)」が高くなる傾向にあり、「小学生」以下は8割を超える。「4歳未満」は「参加意向あり(計)」が 90.3%、「ぜひ参加したい」も 30.3%で、参加意向が非常に高い。

(9) スマートフォンについて

- ・郵送回答者にスマートフォンについて質問したところ、スマートフォン所有状況は、「スマートフォンを持っている」が 70.7%を占める。「スマートフォンを持っていない」は 24.8%である。
- ・スマートフォン未所有理由は、「必要がないから」が 53.9%で最も高く、次いで、「費用がかかるから」(43.4%)が高い。
- ・利用してみたいスマートフォンの機能は、「通話や電子メール」が 46.1%で最も高く、次いで、「インターネット」(30.3%)が高い。以下、「LINE」(17.1%)、「キャッシュレス決済」(14.5%)などが続く。

(10) おとなりサンデーについて

- ・「知らなかった」が 67.1%で最も高い。「知っているが、参加したことはない」は 28.4%、「参加したことがある」は 4.1%で、認知率は 32.5%である。
- ・「渋谷区おとなりサンデー」未参加理由は、「事前に内容がよく分からなかったから」が 38.7%で最も高い。以下、「別の用事が入っていたから(時間が合わなかったから)」(20.8%)、「面白くなさそうだったから(興味がなかったから)」(20.5%)などが続く。
 - ・地域イベントなどに対する考えは、「今のところ興味がない」が 58.7%で最も高い。参加意向がある中では、「近所で開催があれば参加したい」が 35.1%で最も高く、次いで、「オンライン開催があれば参加したい」が 7.9%である。

(11) 町会・自治会について

- ・近所付き合いの望ましい姿は、「あいさつを交わす程度だが災害時等は助け合うこと」が 68.9%で最も高い。次いで、「日頃から仲良く交流すること」(14.7%)、「地域の行事や清掃活動などに参加すること」(10.1%)である。
- ・町会・自治会の加入状況は、「加入していない」が 44.3%、「加入している」が 37.9%、「分からない」が 17.8%である。居住年数が長くなるにつれ、加入率は高くなっており、居住年数「2年未満」と「2年～5年未満」は1割台であるのに対し、「30年以上」は6割半ばを占める。居住形態別にみると、加入率が最も高いのは「一戸建て(持ち家)」の 75.1%である。一方、「マンション・アパート(借家)」はわずか 7.1%である。
- ・未加入理由は、「加入する機会がなかったから(加入する方法を知らないから)」が 49.6%で最も高い。以下、「仕事などが忙しく時間がないから」(31.3%)、「活動の内容が分からないから」(23.1%)などが続く。
- ・町会・自治会へ期待する役割は、「防犯活動(見回り活動などを含む)」(43.9%)や「地域防災(避難、災害時の避難場所の設営・運営などを含む)」(41.5%)が高く、防災・防犯への期待が高いことがわかる。

(12) 広報紙「しぶや区ニュース」について

- ・閲読状況は、「ときどき読む」が 45.8%、「毎号読む」が 42.7%、「読まない」が 11.3%である。閲読率は 88.5%を占める。年代が上がるにつれ閲読率も高くなっており、30代で8割を超え、40代以上は9割を超える。
- ・非閲読理由は、「読む時間がない」が 30.2%で最も高く、以下、「読みたい情報がない」(18.0%)、「区政に関心がない」(11.9%)などが続く。

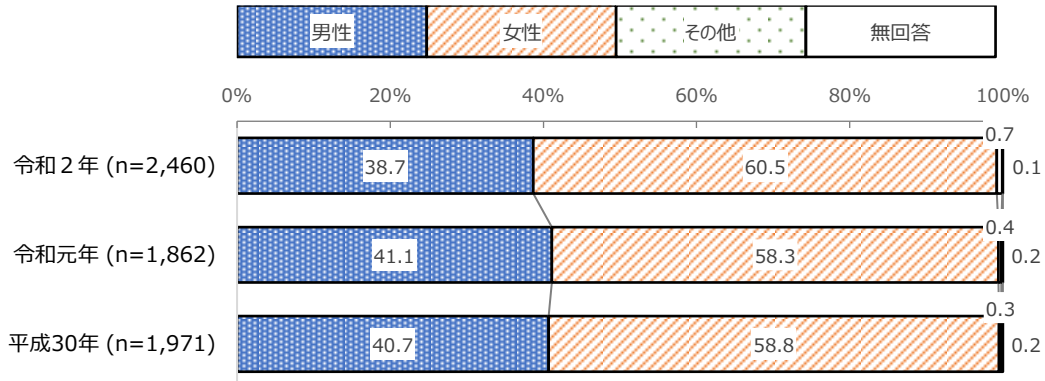
(13) コミュニティFM・SNSについて

- ・地域コミュニティFM「渋谷のラジオ」の聴取状況は、「聴いたことはない」が 89.1%を占める。「聴いたことがある」は 10.8%である。
- ・「渋谷のラジオ」非聴取理由は、「区の広報番組があることを知らなかった」が 43.2%で最も高い。以下、「他の手段で区の情報を得ている」(11.1%)、「電波を受信できない」(9.6%)などが続く。
- ・渋谷区SNSの認知・利用度は、「認知(計)」は、「LINE(渋谷区 LINE 公式アカウント@shibuyacity)」が 41.2%で最も高く、次いで、「ツイッター(渋谷区<@city_shibuya>)」(36.7%)、「フェイスブック(渋谷区<city_shibuya>)」(32.2%)が3割を超える。「閲覧経験あり(計)」は、「LINE(渋谷区 LINE 公式アカウント@shibuyacity)」(20.6%)が2割強、「ツイッター(渋谷区<@city_shibuya>)」(13.0%)が1割半ばである。

Ⅱ. 回答者の属性

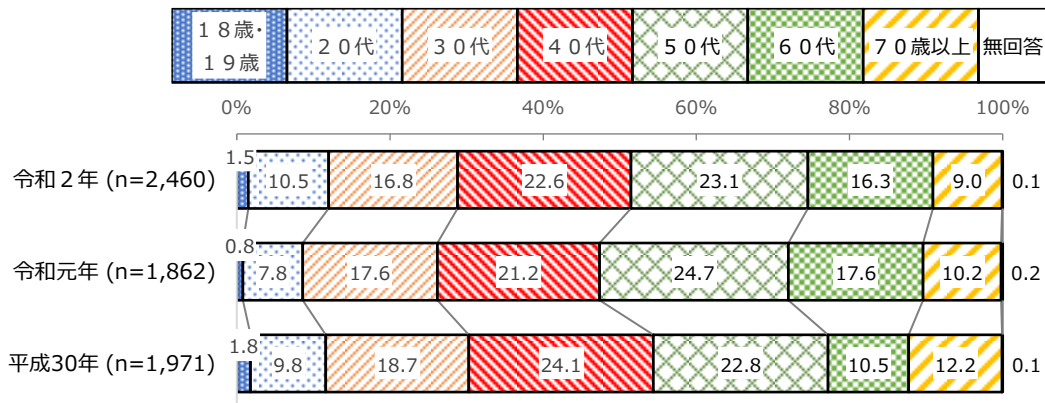
(1) 性別

図Ⅱ-1 性別



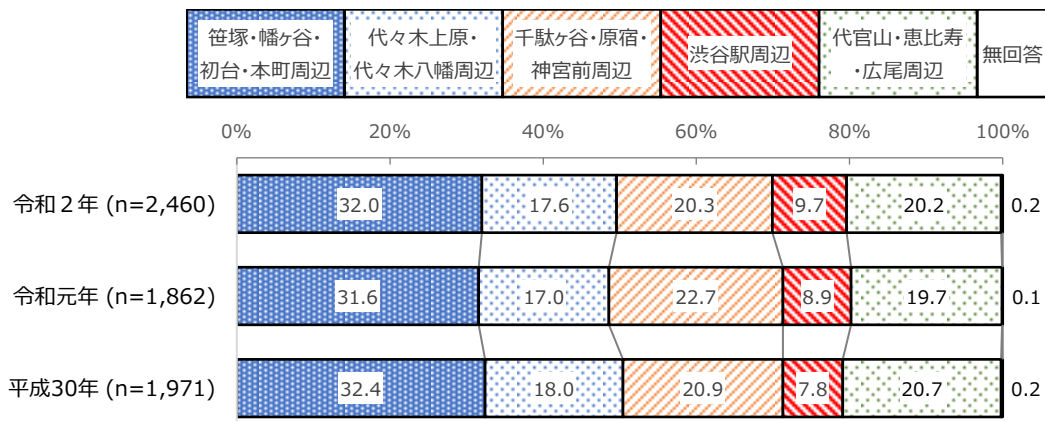
(2) 年齢

図Ⅱ-2 年齢



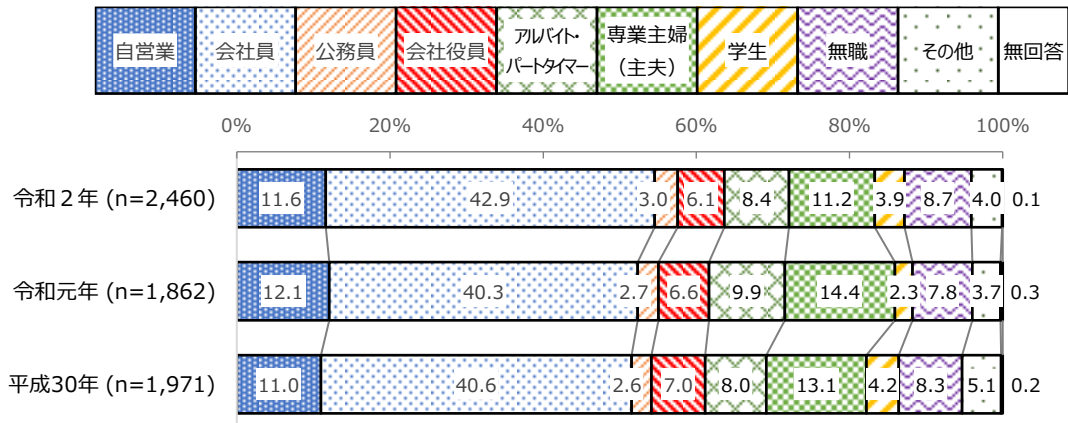
(3) 地区

図Ⅱ-3 地区



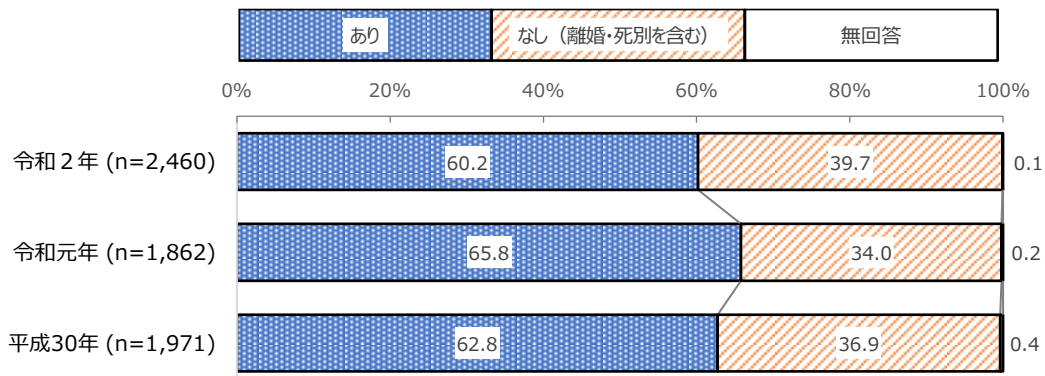
(4) 職業

図 II-4 職業



(5) 配偶者の有無

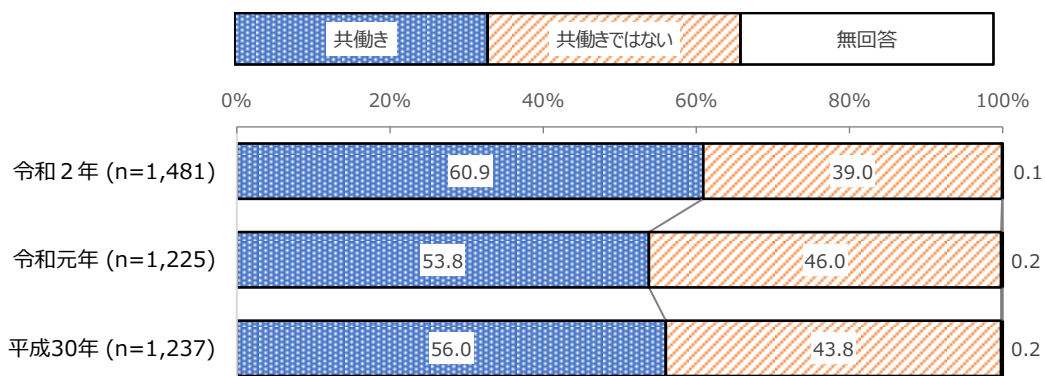
図 II-5 配偶者の有無



(6) 共働きの有無

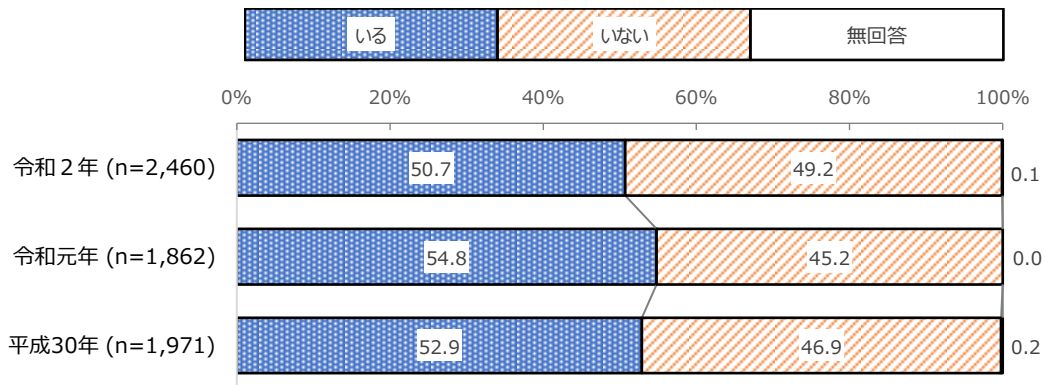
※配偶者ありの方対象

図 II-6 共働きの有無



(7) 子どもの有無

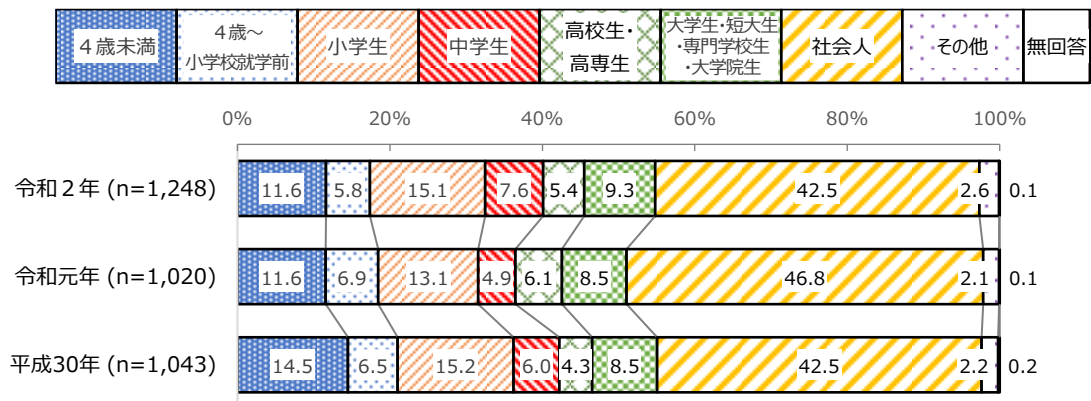
図Ⅱ-7 子どもの有無



(8) 長子年齢

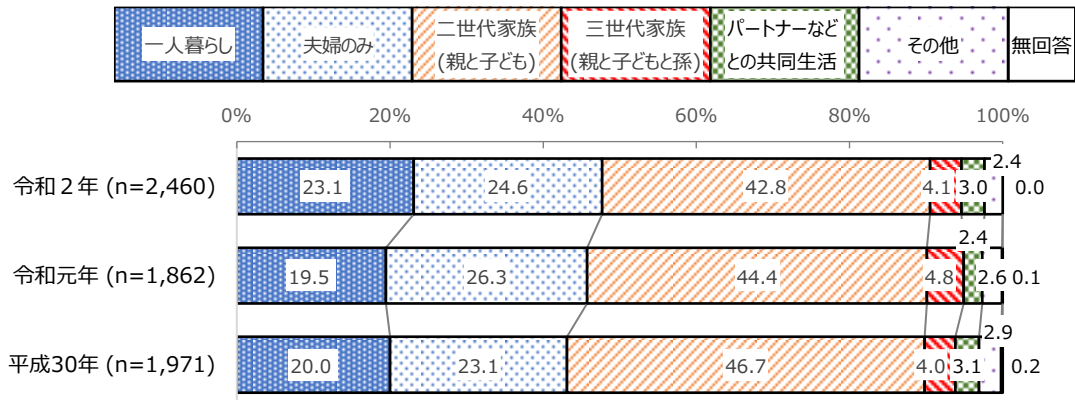
※子供がいる方対象

図Ⅱ-8 長子年齢



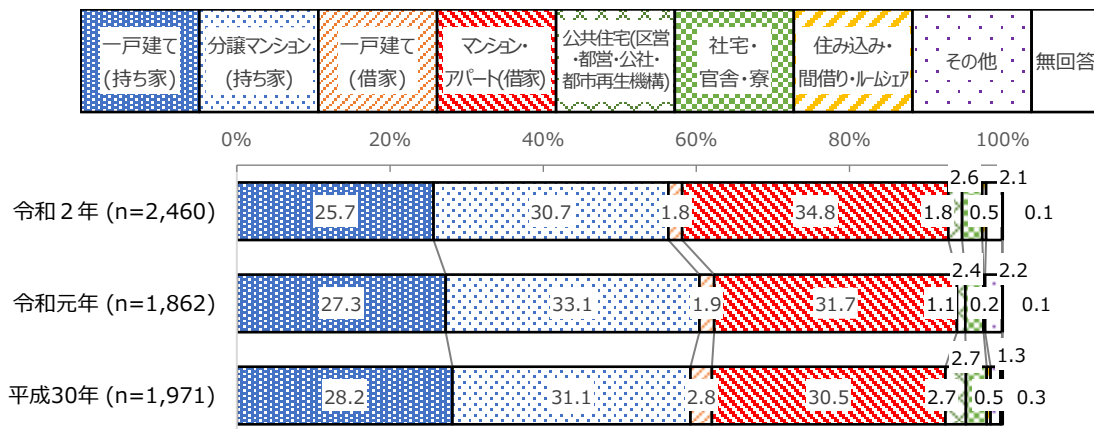
(9) 世帯構成

図Ⅱ-9 世帯構成



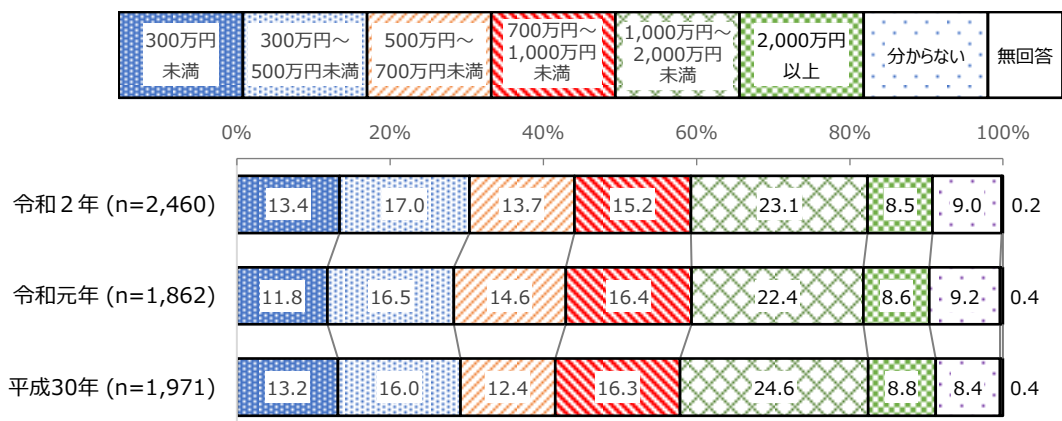
(10) 居住形態

図Ⅱ-10 居住形態



(11) 世帯年収

図Ⅱ-11 世帯年収



Ⅲ. 調査結果

1. 定住性について

(1) 居住年数

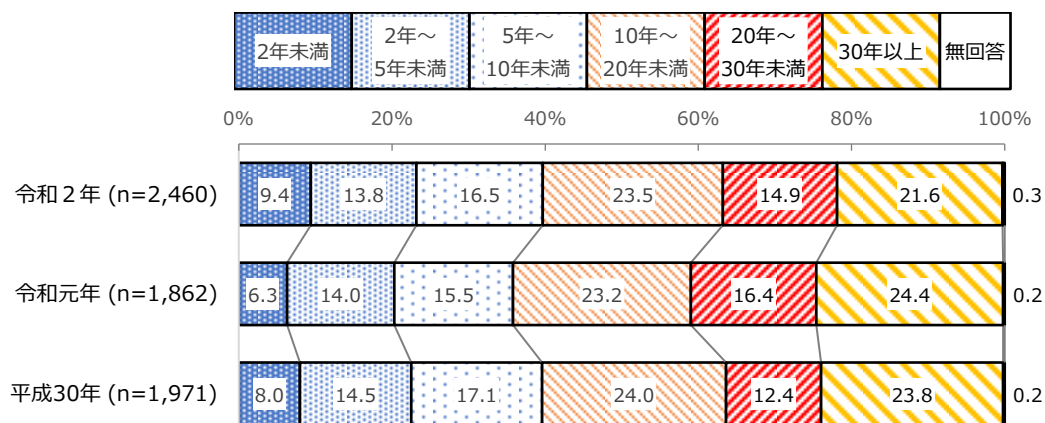
問1 あなたは、渋谷区に住んで何年になりますか。(答は1つ)

※直近の居住年数についてお答えください。過去の居住については含みません。

「10年～20年未満」が23.5%で最も高く、次いで「30年以上」(21.6%)が高い。居住年数10年以上が6割を占める。

過去2年の調査と比較すると、令和元年調査より「2年未満」がやや増え、「30年以上」がやや減っているものの、平成30年調査と構成比はほぼ同じである。

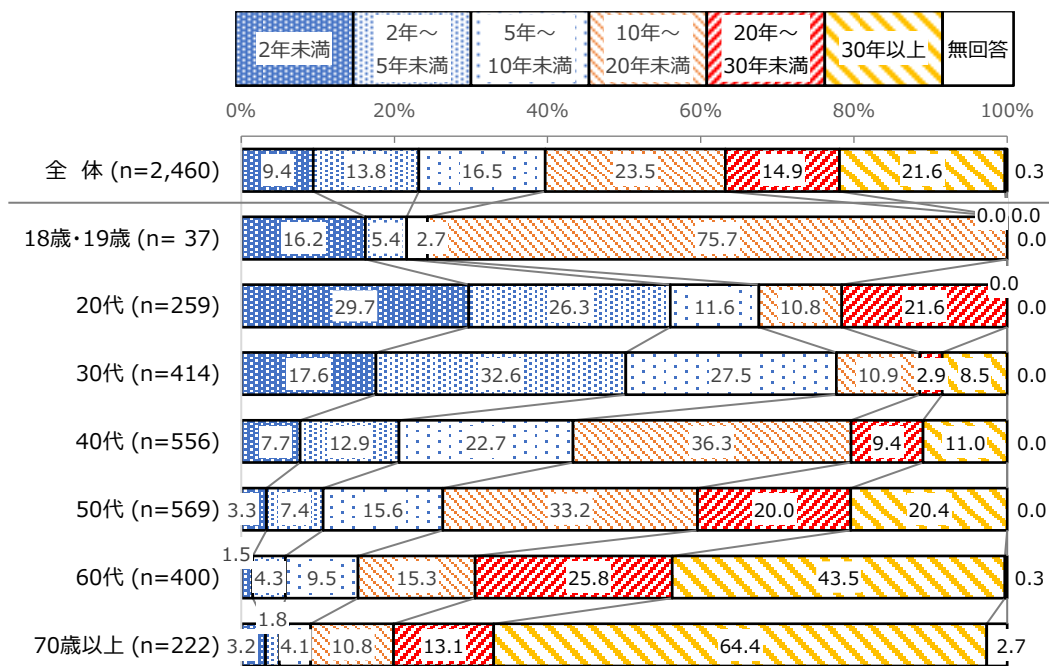
図Ⅲ-1-1 居住年数



【年齢別】

18歳・19歳は「10年～20年未満」が75.7%で最も高い。20代は「2年未満」が29.7%で最も高く、次いで、「2年～5年未満」が26.3%と高い。30代は「2年～5年未満」が32.6%で最も高く、次いで、「5年～10年未満」が27.5%と高い。居住年数10年未満は20代が6割半ば、30代が7割半ばを占める。30代以上は年代が上がるにつれ居住年数が長くなる傾向がみられ、「30年以上」は60代で43.5%、70歳以上で64.4%を占める。

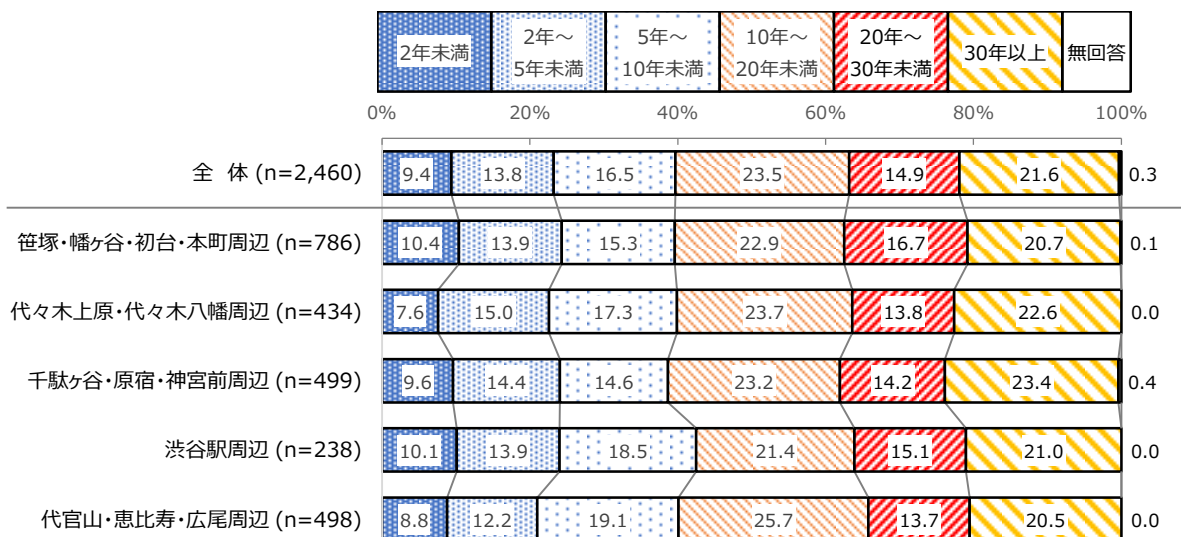
図Ⅲ-1-2 居住年数(年齢別)



【地区別】

「代官山・恵比寿・広尾周辺」は「5年～10年未満」(19.1%)と「10年～20年未満」(25.7%)を合わせると4割半ばを占め、他地域の4割前後に比べやや高い。

図Ⅲ-1-3 居住年数(地区別)



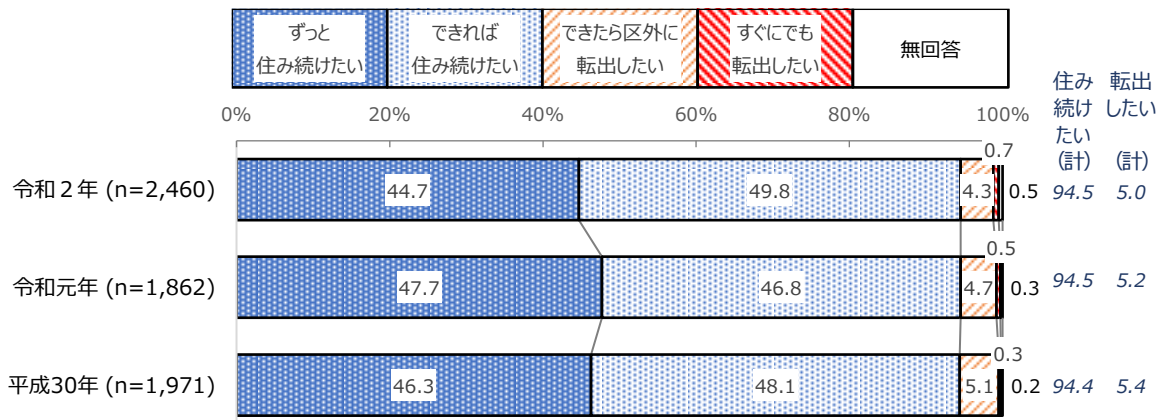
(2) 今後の定住意向

問3 これからも渋谷区に住みつづけたいと思いますか。(答は1つ)

「ずっと住み続けたい」が44.7%、「できれば住み続けたい」が49.8%である。「住み続けたい(計)」(「ずっと住み続けたい」+「できれば住み続けたい」)は94.5%に達する。

過去2年の調査と比較すると、傾向はほとんど変わらない。

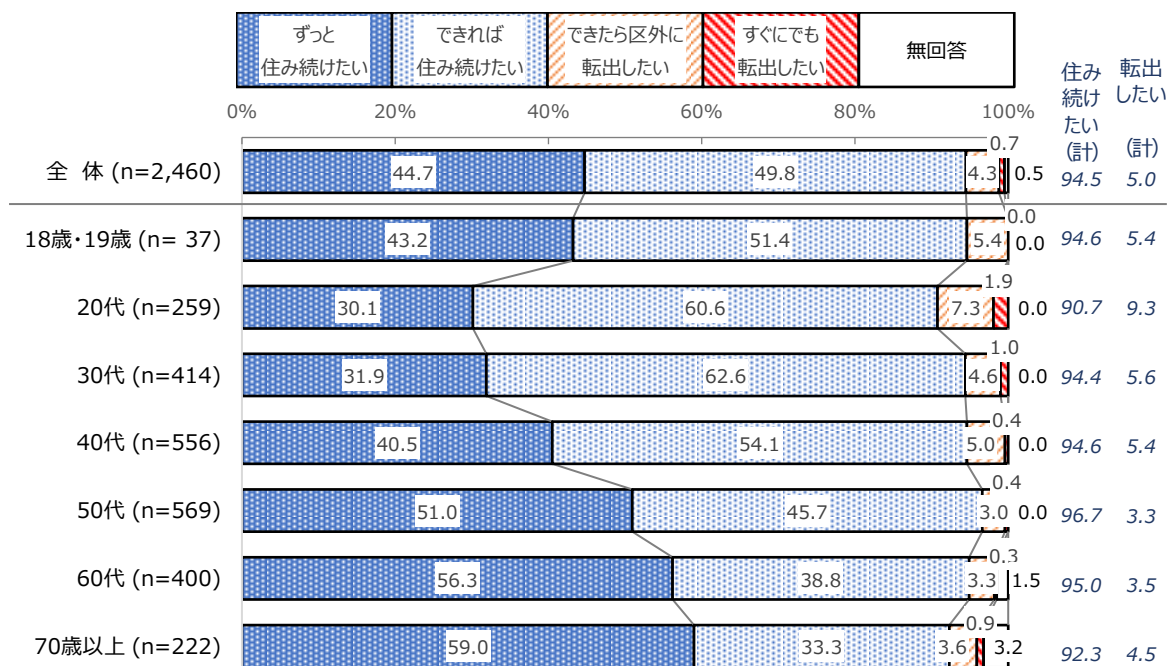
図Ⅲ-1-4 今後の定住意向



【年齢別】

20代以上は年代が上がるにつれ、「ずっと住み続けたい」の割合が高くなる傾向にあり、20～30代は3割強だが、50代で5割を超え、70歳以上は6割弱を占める。しかし、「住み続けたい(計)」は年代による差は小さく、各年代とも9割を超える。

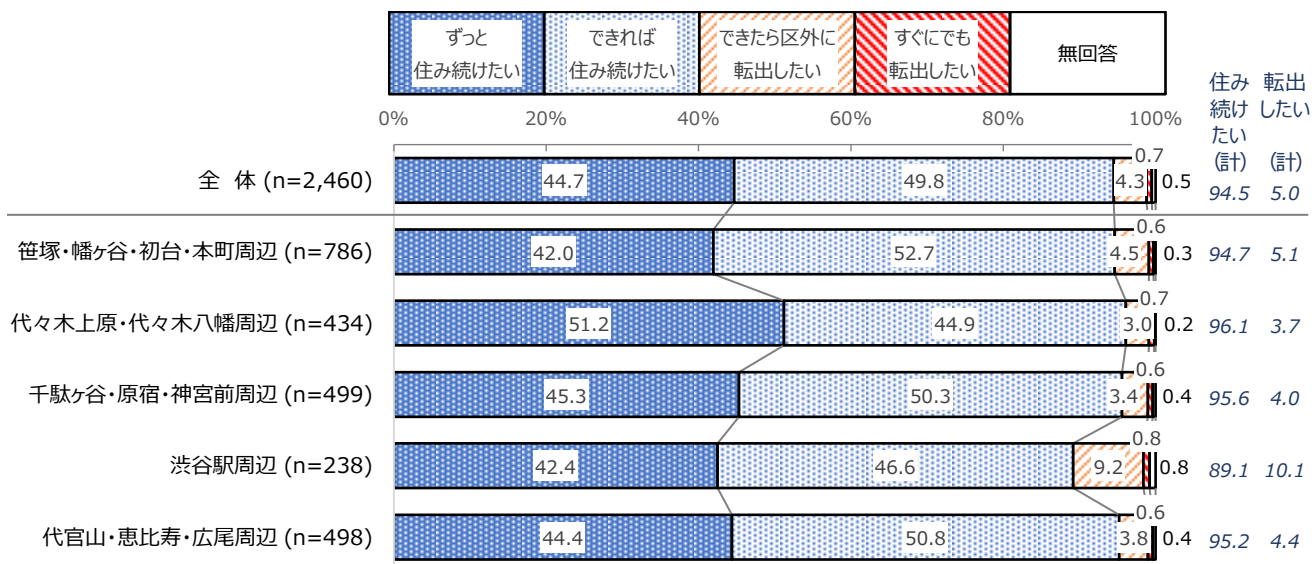
図Ⅲ-1-5 今後の定住意向(年齢別)



【地区別】

「ずっと住みたい」は「代々木上原・代々木八幡周辺」が5割を超え、他地域より高い。「住みたい(計)」は「渋谷駅周辺」が9割弱、その他の地域は9割半ばである。

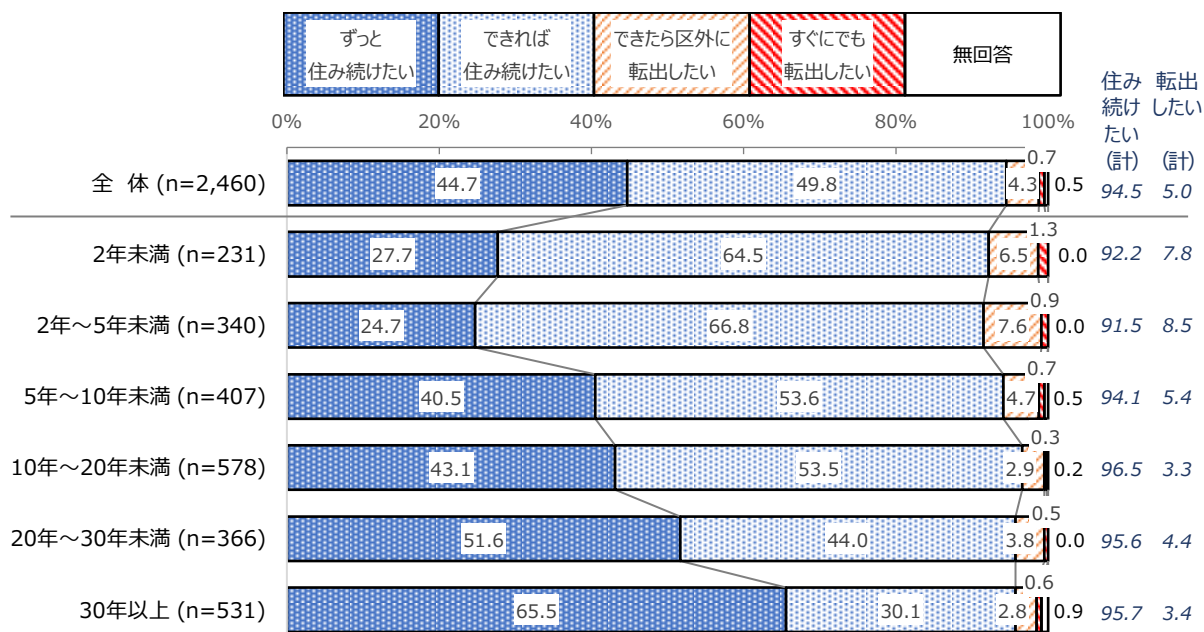
図Ⅲ-1-6 今後の定住意向(地区別)



【居住年数別】

「ずっと住みたい」は「2年未満」と「2年～5年未満」が2割台、それ以降は居住年数が長くなるにつれ高くなる傾向にあり、「5年～10年未満」と「10年～20年未満」が4割台前半、「20年～30年未満」が5割強、「30年以上」は6割半ばを占める。「住みたい(計)」はいずれも9割を超える。

図Ⅲ-1-7 今後の定住意向(居住年数別)



(3) 転出意向理由

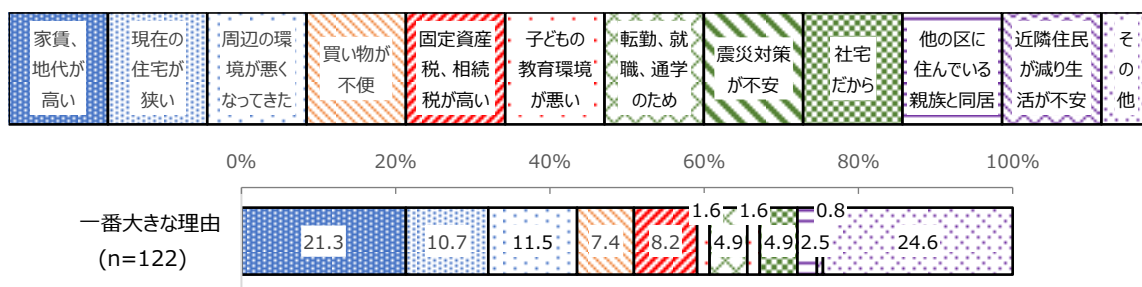
問3-1 あなたが区外に転出したい理由は何ですか。一番大きな理由、次に大きな理由、三番目に大きな理由を、それぞれ教えてください。(答はそれぞれ1つ) [問3で「できれば区外に転出したい」「すぐにでも転出したい」と回答した方対象]

一番大きな理由は「家賃、地代が高いから」が 21.3%で最も高く、次いで、「住まい周辺の環境が悪くなってきたから」(11.5%)、「現在の住宅が狭いから」(10.7%)が高い。

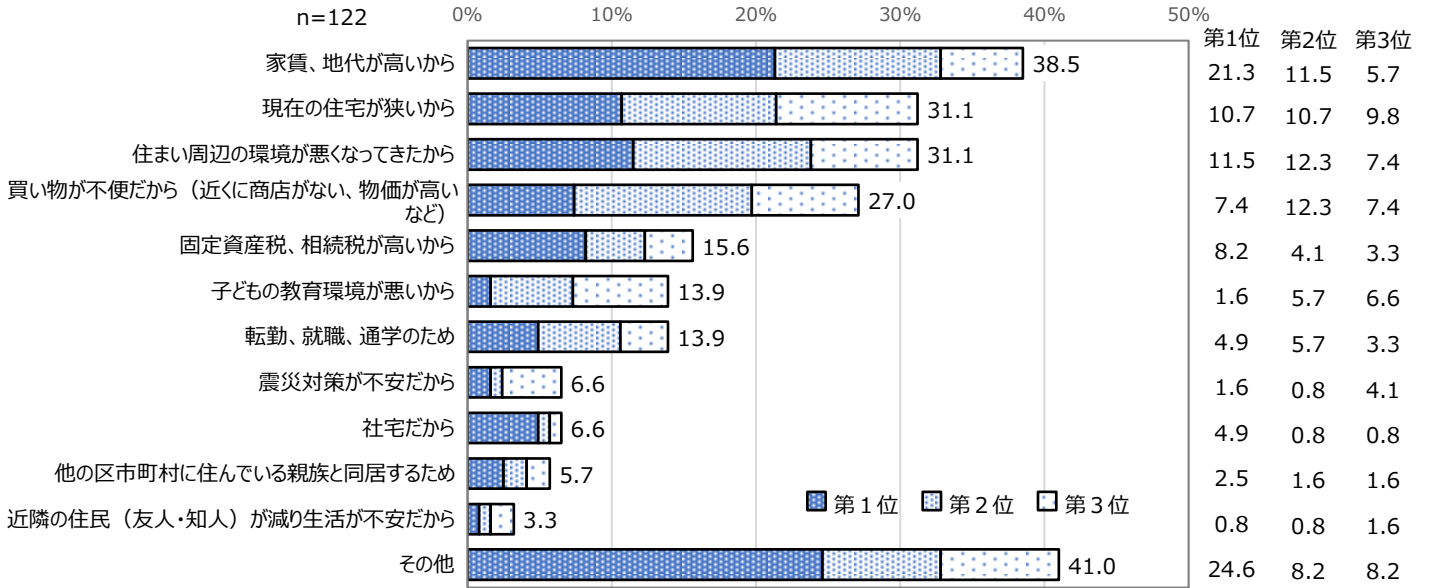
一番大きな理由から三番目に大きな理由までを合わせると、「家賃、地代が高いから」が 38.5%で最も高く、以下、「現在の住宅が狭いから」「住まい周辺の環境が悪くなってきたから」(共に 31.1%)、「買い物が不便だから(近くに商店がない、物価が高いなど)」(27.0%)などが続く。

令和元年調査と比較すると、上位4項目では、令和元年調査1位の「住まい周辺の環境が悪くなってきたから」と3位の「買い物が不便だから(近くに商店がない、物価が高いなど)」が順位を下げ、「家賃、地代が高いから」「現在の住宅が狭いから」の住宅に関する項目が順位を上げている。

図Ⅲ-1-8 転出意向理由(一番大きな理由)

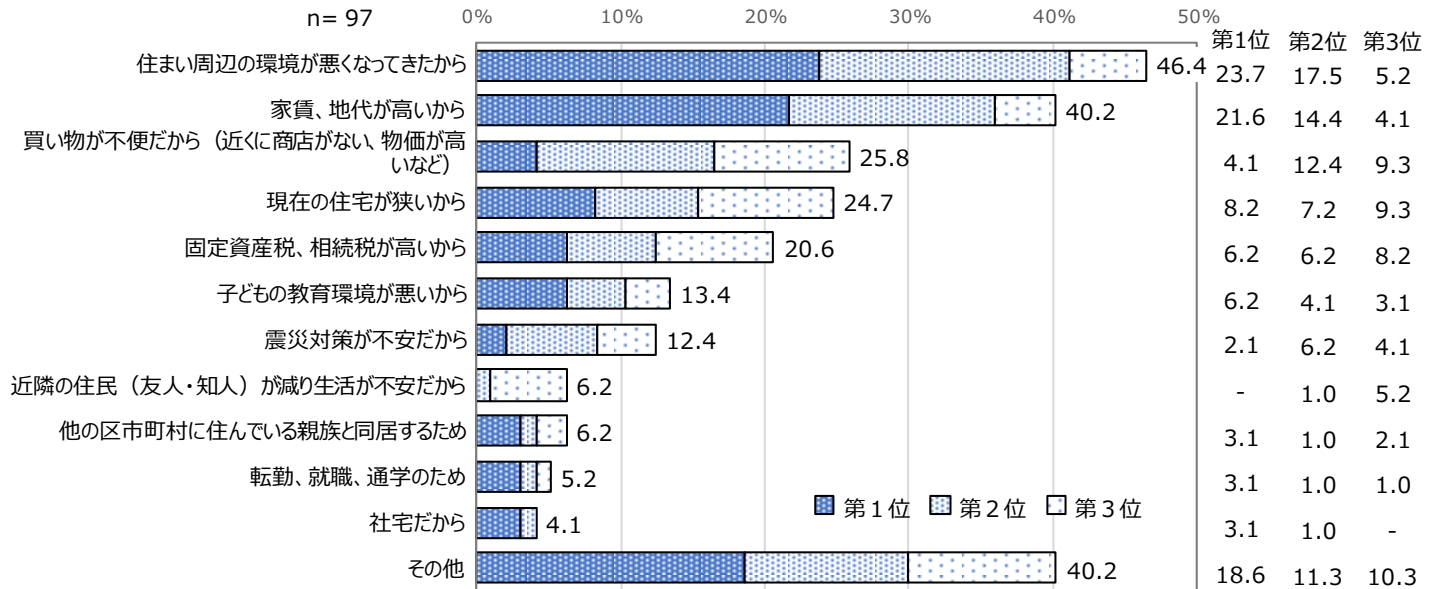


図Ⅲ-1-9 転出意向理由



[その他の回答]
 自然豊かな地域に住みたい、他の区に魅力を感じる/住みたい地域がある、都会から離れたい/都心に住む必要がなくなった、田舎に住みたい、騒音 (航空機、カラス、屋内工事など)、区政に不満 など

図Ⅲ-1-10 令和元年調査 転出意向理由



【地区別】

回答数が30以上の「笹塚・幡ヶ谷・初台・本町周辺」では、「家賃、地代が高いから」(47.5%)と「現在の住宅が狭いから」(40.0%)が4割台で、全体より約9ポイント高い。また、「転勤、就職、通学のため」「社宅だから」も全体に比べ5ポイント以上高い。

表Ⅲ-1-1 転出意向理由(地区別)

(%)

	現在の住宅が狭いから	家賃、地代が高いから	固定資産税、相続税が高いから	住まい周辺の環境が悪くなったから	震災対策が不安だから	近隣の住民(友人・知人)が減り生活が不安だから	子どもの教育環境が悪いから	買い物が不便だから(近くに商店がない、物価が高いなど)	他の区市町村に住んでいる親族と同居するため	転勤、就職、通学のため	社宅だから	その他
全体 (n=122)	31.1	38.5	15.6	31.1	6.6	3.3	13.9	27.0	5.7	13.9	6.6	41.0
笹塚・幡ヶ谷・初台・本町周辺 (n=40)	40.0	47.5	<u>7.5</u>	<u>20.0</u>	10.0	5.0	12.5	<u>10.0</u>	10.0	22.5	12.5	45.0
代々木上原・代々木八幡周辺 (n=16)	43.8	37.5	25.0	<u>25.0</u>	6.3	-	12.5	25.0	-	<u>6.3</u>	6.3	56.3
千駄ヶ谷・原宿・神宮前周辺 (n=20)	<u>10.0</u>	<u>20.0</u>	15.0	35.0	-	5.0	10.0	45.0	-	10.0	-	60.0
渋谷駅周辺 (n=24)	37.5	<u>33.3</u>	16.7	45.8	4.2	4.2	12.5	25.0	8.3	12.5	4.2	<u>29.2</u>
代官山・恵比寿・広尾周辺 (n=22)	<u>18.2</u>	45.5	22.7	36.4	9.1	-	22.7	45.5	4.5	9.1	4.5	<u>18.2</u>

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【世帯構成別】

回答数が30以上の世帯構成についてみると、「一人暮らし」では、「家賃、地代が高いから」が51.4%で最も高く、全体より12.9ポイント高い。「二世世代家族(親と子ども)」では、全体と比較して差が大きい項目は「子どもの教育環境が悪いから」(26.7%)で、全体より12.8ポイント高い。

表Ⅲ-1-2 転出意向理由(世帯構成別)

(%)

	現在の住宅が狭いから	家賃、地代が高いから	固定資産税、相続税が高いから	住まい周辺の環境が悪くなったから	震災対策が不安だから	近隣の住民(友人・知人)が減り生活が不安だから	子どもの教育環境が悪いから	買い物が不便だから(近くに商店がない、物価が高いなど)	他の区市町村に住んでいる親族と同居するため	転勤、就職、通学のため	社宅だから	その他
全体 (n=122)	31.1	38.5	15.6	31.1	6.6	3.3	13.9	27.0	5.7	13.9	6.6	41.0
一人暮らし (n=37)	35.1	51.4	16.2	35.1	5.4	8.1	<u>8.1</u>	<u>18.9</u>	10.8	18.9	13.5	<u>32.4</u>
夫婦のみ (n=22)	<u>22.7</u>	<u>18.2</u>	22.7	31.8	4.5	-	-	54.5	-	<u>4.5</u>	-	54.5
二世世代家族(親と子ども) (n=45)	35.6	37.8	<u>8.9</u>	28.9	8.9	2.2	26.7	26.7	4.4	15.6	6.7	37.8
三世世代家族(親と子どもと孫) (n=6)	-	<u>16.7</u>	33.3	33.3	16.7	-	33.3	-	-	-	-	66.7
パートナーなどとの共同生活 (n=7)	42.9	57.1	-	<u>14.3</u>	-	-	-	<u>14.3</u>	14.3	28.6	-	57.1
その他 (n=5)	<u>20.0</u>	40.0	40.0	40.0	-	-	-	<u>20.0</u>	-	-	-	<u>20.0</u>

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

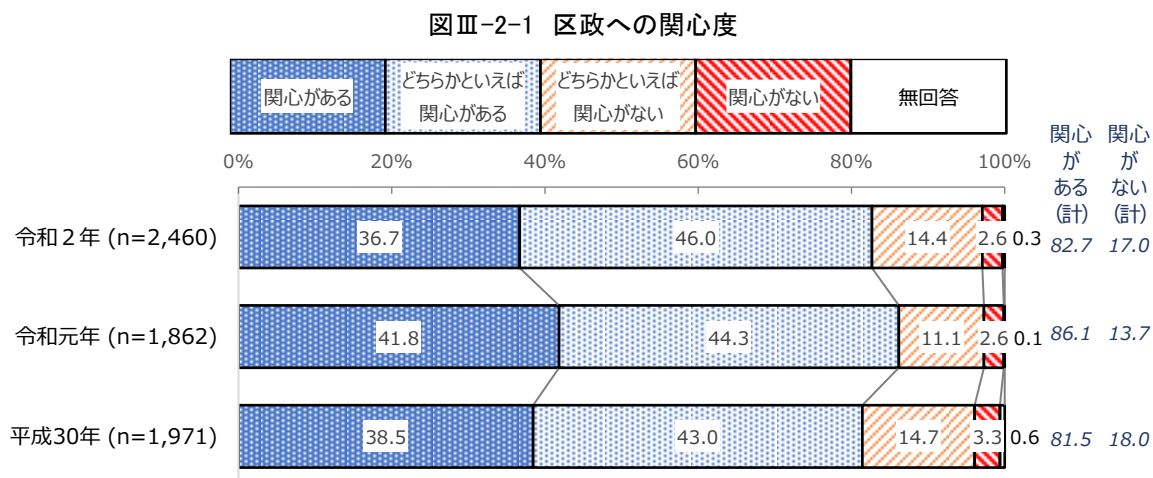
2. 区政について

(1) 区政への関心度

問4 あなたは、渋谷区政に関心がありますか。(答は1つ)

「どちらかといえば関心がある」が 46.0%で最も高い。「関心がある(計)」「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」は 82.7%、「関心がない(計)」「どちらかといえば関心がない」+「関心がない」は 17.0%である。

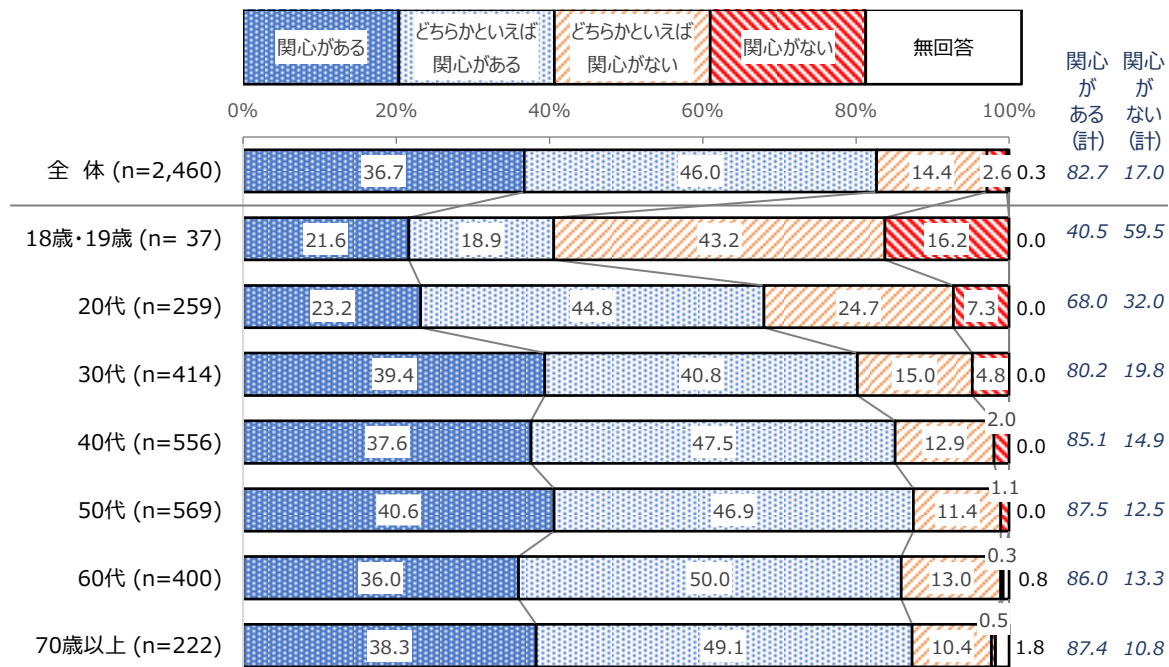
過去2年の調査と比較すると、「関心がある」の割合は令和元年より下がっているが、平成30年と比べると傾向はほぼ同じである。



【年齢別】

「関心がある(計)」は中高年層で高い傾向があり、30代で約8割、40代以上で8割半ばを占める。一方、20代はやや低く7割弱、18歳・19歳は4割強にとどまっている。

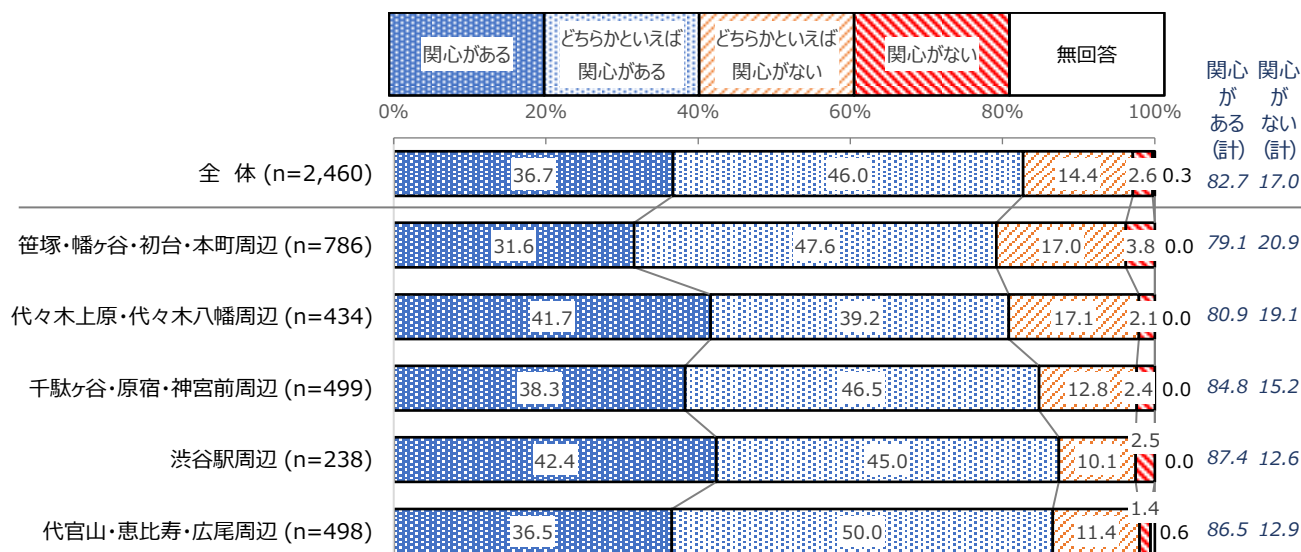
図Ⅲ-2-2 区政への関心度(年齢別)



【地区別】

「関心がある」は「代々木上原・代々木八幡周辺」と「渋谷駅周辺」が4割を超える。「関心がある(計)」は「渋谷駅周辺」と「代官山・恵比寿・広尾周辺」が8割半ばで他地域よりやや高い。「笹塚・幡ヶ谷・初台・本町周辺」は「関心がある」が3割強、「関心がある(計)」が8割弱で他地域よりやや低い。

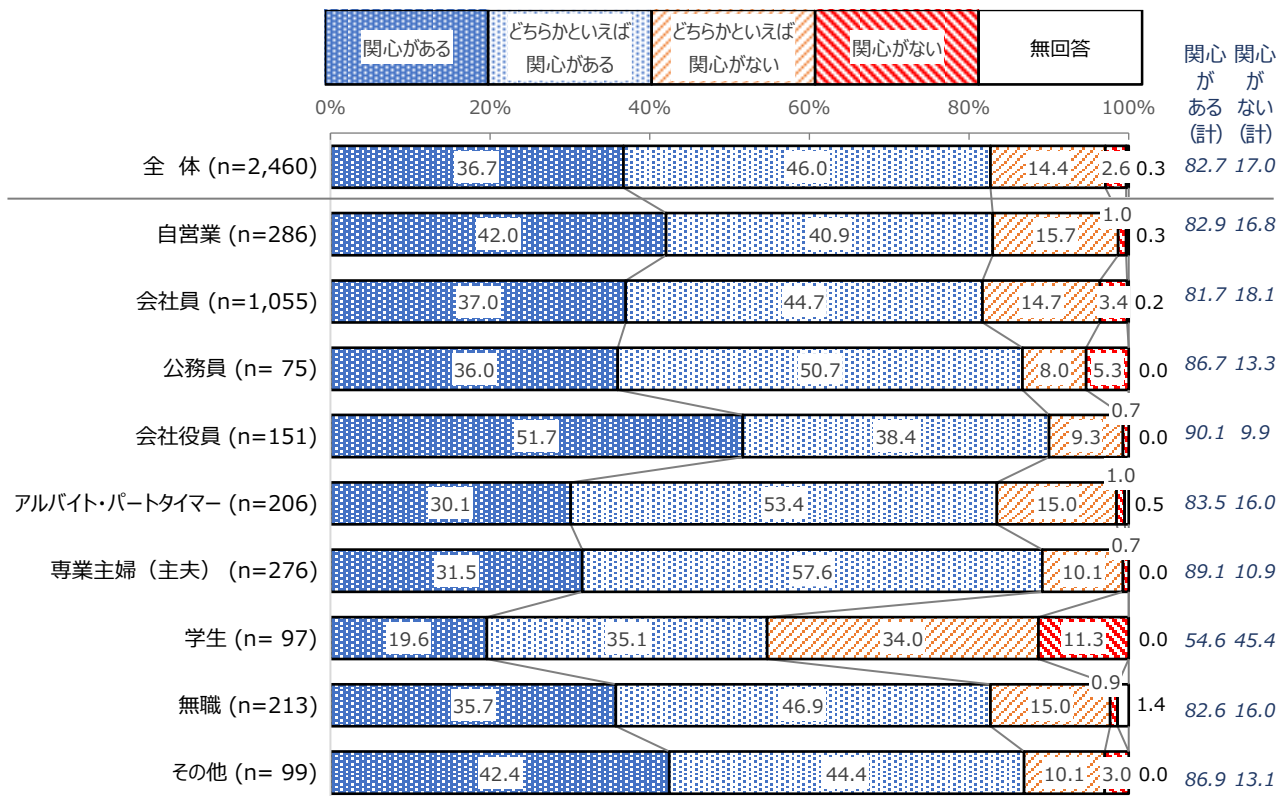
図Ⅲ-2-3 区政への関心度(地区別)



【職業別】

「関心がある」は会社役員が5割強、その他と自営業が4割強で高い。「関心がある(計)」も会社役員が約9割で最も高く、次いで専業主婦(主夫)が9割弱である。一方、学生は「関心がある(計)」が54.6%で、他職業に比べ低い。

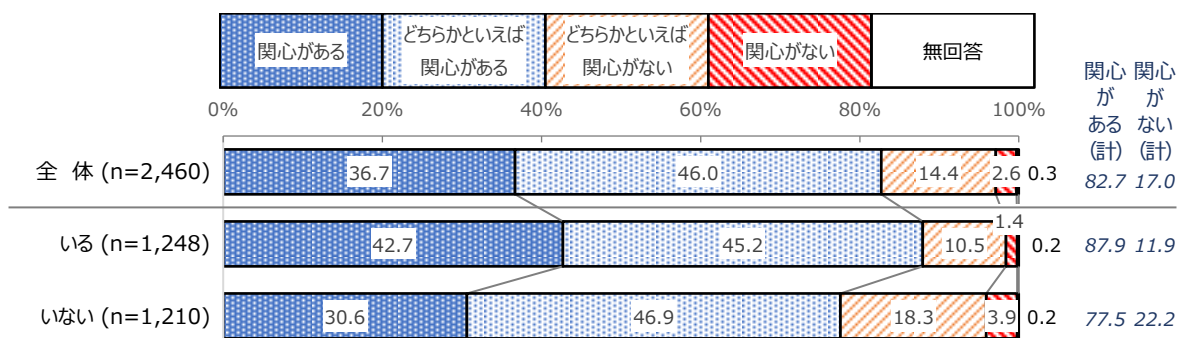
図Ⅲ-2-4 区政への関心度(職業別)



【子どもの有無別】

子どもが「いる」層は「いない」層に比べ、区政への関心度が高く、「関心がある」は42.7%、「関心がある(計)」も87.9%を占める。「いない」層の「関心がある(計)」は77.5%である。

図Ⅲ-2-5 区政への関心度(子どもの有無別)



(2) 区の施策の充実度

問5 あなたは、渋谷区の以下の施策について充実していると思いますか。(答はそれぞれ1つ)

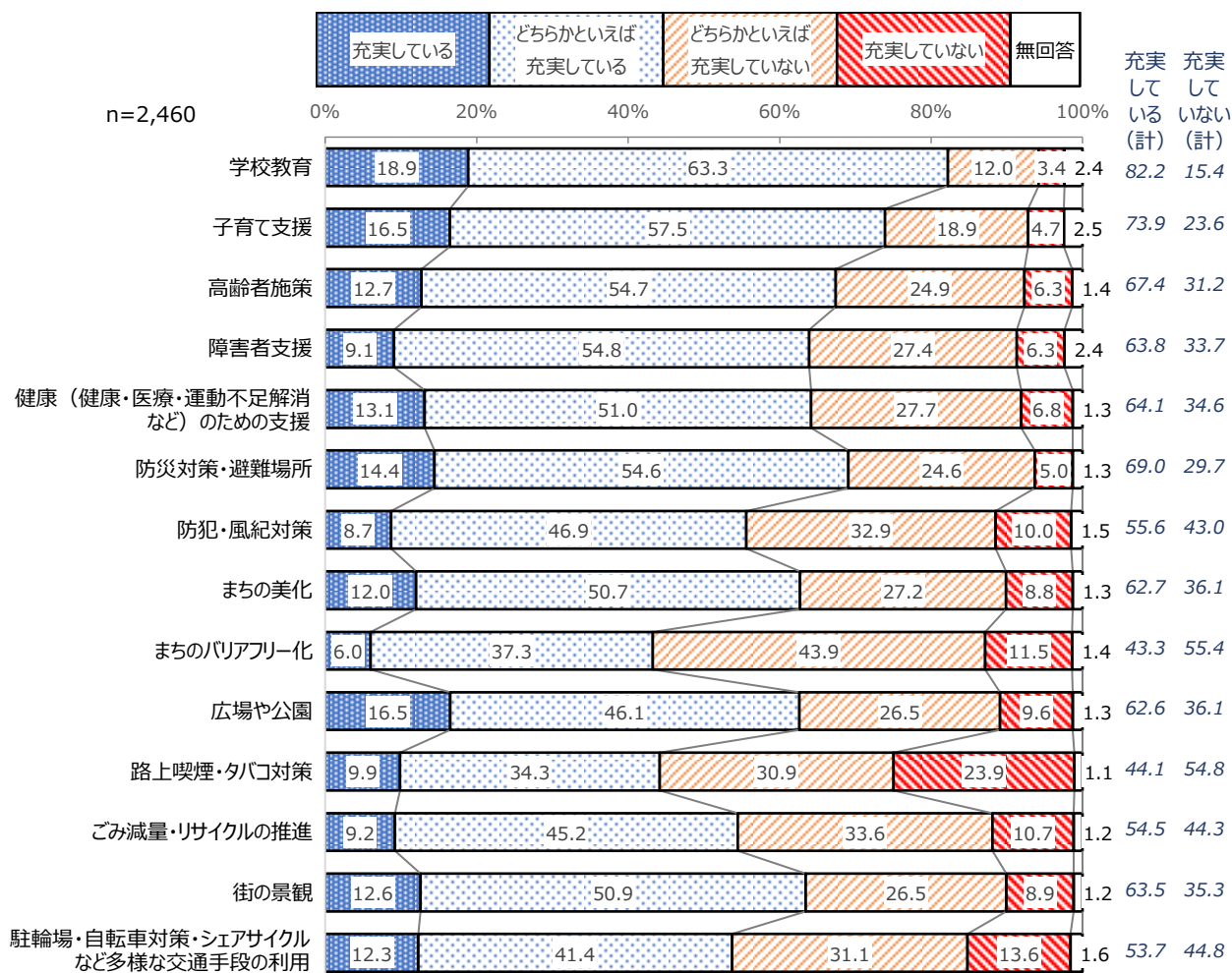
「充実している(計)」「充実している」+「どちらかといえば充実している」が高い施策は「学校教育」(82.2%)、「子育て支援」(73.9%)、「防災対策・避難場所」(69.0%)、「高齢者施策」(67.4%)、「健康のための支援」(64.1%)、「障害者支援」(63.8%)、「街の景観」(63.5%)、「まちの美化」(62.7%)、「広場や公園」(62.6%)などである。

一方、「充実していない(計)」「充実していない」+「どちらかといえば充実していない」が高い施策は、「まちのバリアフリー化」(55.4%)、「路上喫煙・タバコ対策」(54.8%)などである。

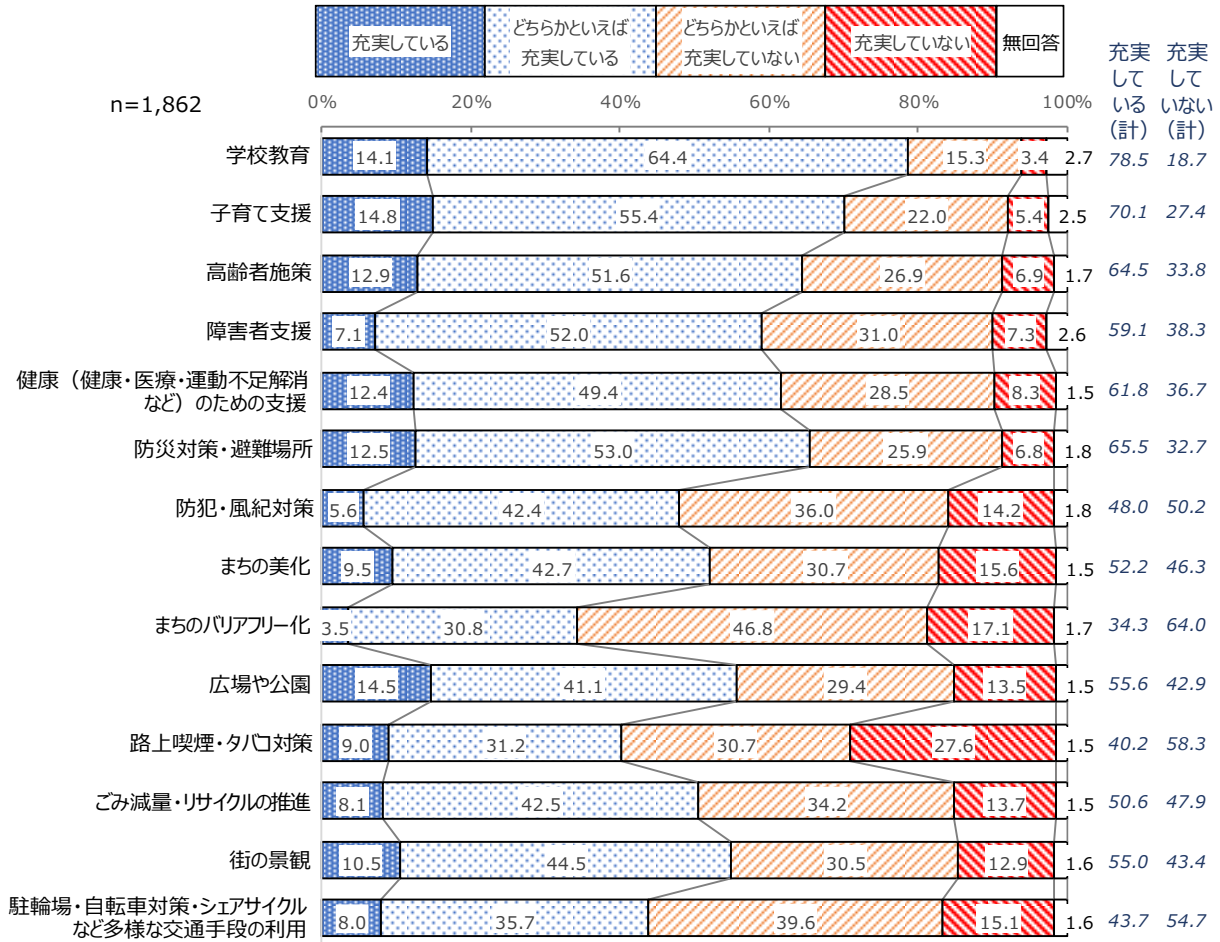
過去2年の調査と比較すると、傾向はほとんど同じであるが、「健康(健康・医療・運動不足解消など)のための支援」以外の項目は過去2年の調査よりも「充実している(計)」が高くなっている。特に、「まちの美化」「まちのバリアフリー化」「駐輪場・自転車対策・シェアサイクルなど多様な交通手段の利用」は令和元年より9ポイント以上高い。

なお、「高齢者施策」は平成30年は聴取していない。

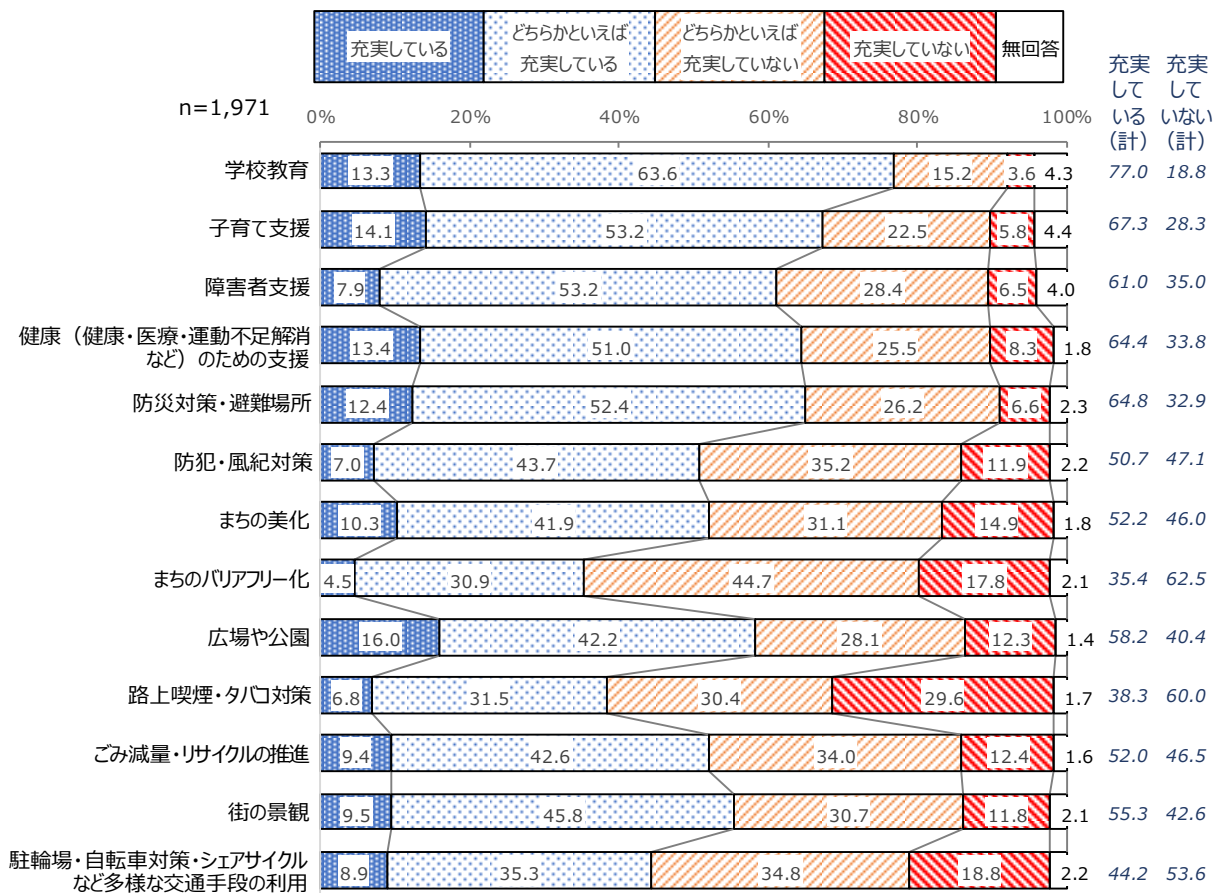
図Ⅲ-2-6 区の施策の充実度



図Ⅲ-2-7 令和元年調査 区の施策の充実度



図Ⅲ-2-8 平成30年調査 区の施策の充実度



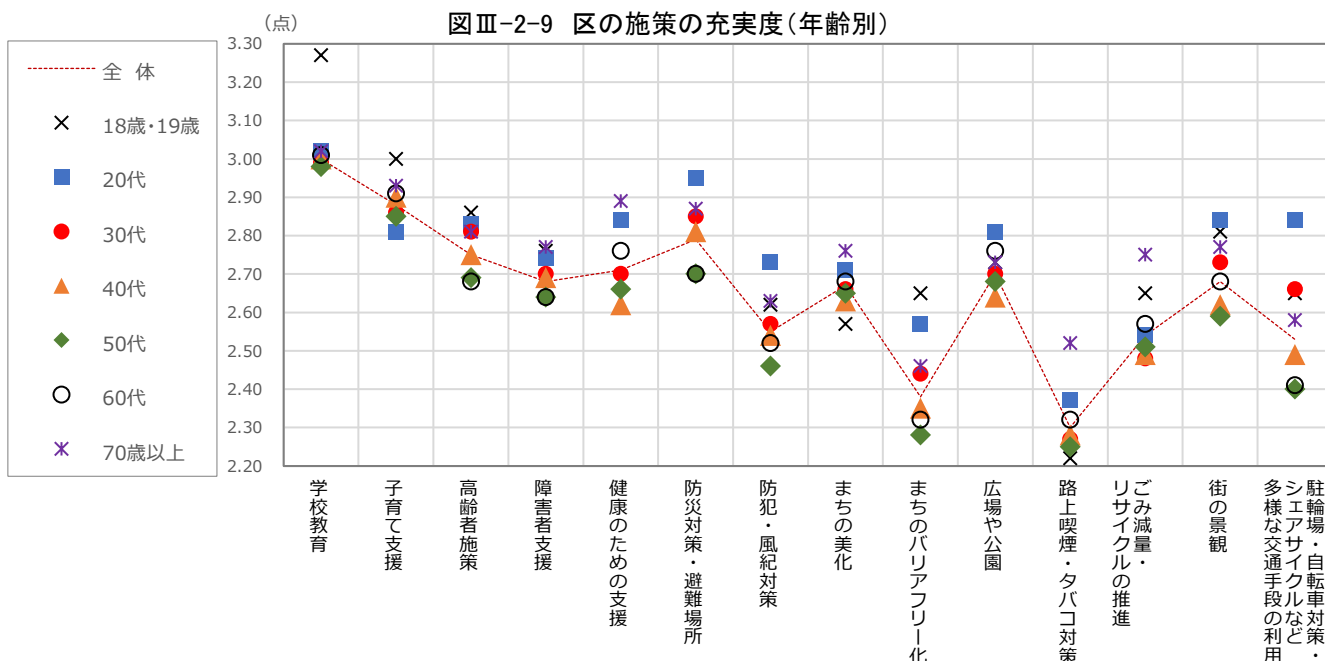
【年齢別】

各回答について以下のような点数を設定して平均点を算出した。

充実している:4点	どちらかといえば充実している:3点
どちらかといえば充実していない:2点	充実していない:1点

18歳・19歳、20代、70歳以上は多くの項目で平均点が高く、50代は全ての項目で平均点が全体より低い。「学校教育」は18歳・19歳が3.27点で他年代に比べ顕著に高い。「健康のための支援」は70歳以上が最も高い。「駐輪場・自転車対策・シェアサイクルなど多様な交通手段の利用」は30代以下が高い一方で、50～60代が低く、年代による差が大きい。「まちのバリアフリー化」も同様に20代以下が高く、50～60代との差が大きい。

図Ⅲ-2-9 区の施策の充実度(年齢別)



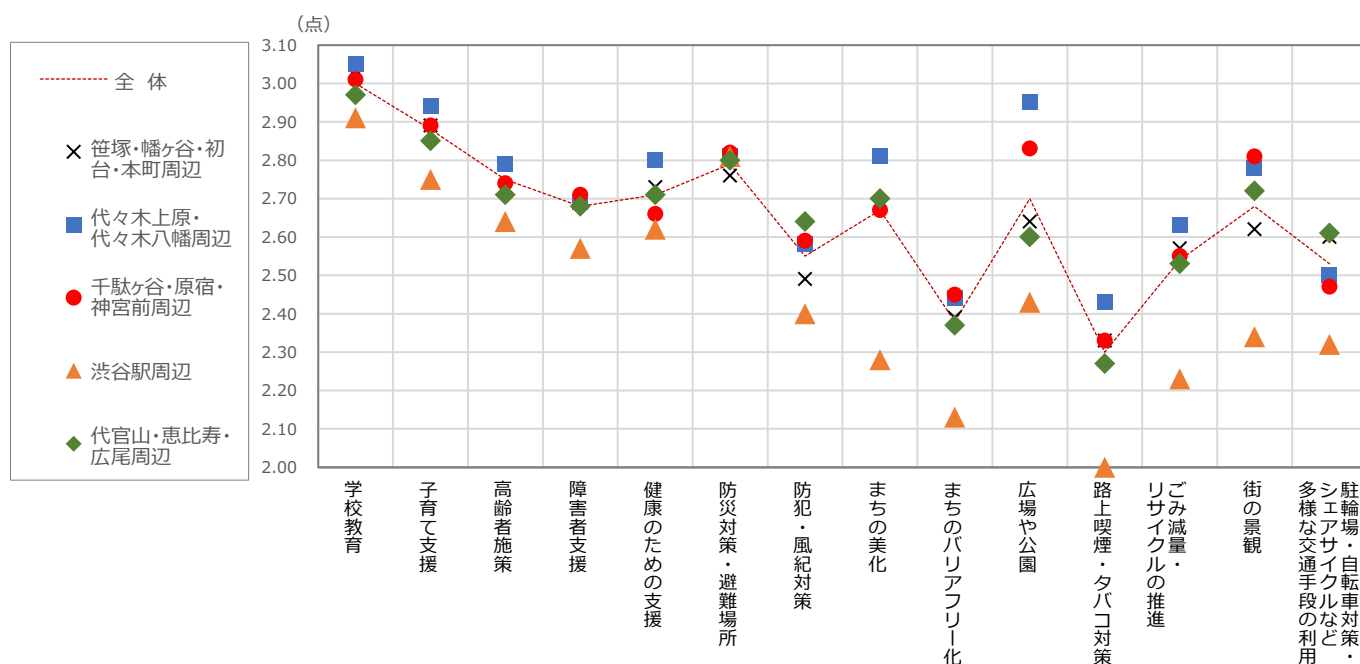
	学校教育	子育て支援	高齢者施策	障害者支援	健康のための支援	防災対策・避難場所	防犯・風紀対策	まちの美化	まちのバリアフリー化	広場や公園	路上喫煙・タバコ対策	ゴミ減量・リサイクルの推進	街の景観	駐輪場・自転車対策・多様な交通手段の利用
全体 (n=2,460)	3.00	2.88	2.75	2.68	2.71	2.79	2.55	2.67	2.38	2.70	2.30	2.54	2.68	2.53
18歳・19歳 (n= 37)	3.27	3.00	2.86	2.76	2.84	2.95	2.62	2.57	2.65	2.73	2.22	2.65	2.81	2.65
20代 (n=259)	3.02	2.81	2.83	2.74	2.84	2.95	2.73	2.71	2.57	2.81	2.37	2.54	2.84	2.84
30代 (n=414)	2.99	2.86	2.81	2.70	2.70	2.85	2.57	2.66	2.44	2.70	2.27	2.48	2.73	2.66
40代 (n=556)	3.00	2.90	2.75	2.69	2.62	2.81	2.54	2.63	2.35	2.64	2.28	2.49	2.62	2.49
50代 (n=569)	2.98	2.85	2.69	2.64	2.66	2.70	2.46	2.65	2.28	2.68	2.25	2.51	2.59	2.40
60代 (n=400)	3.01	2.91	2.68	2.64	2.76	2.70	2.52	2.68	2.32	2.76	2.32	2.57	2.68	2.41
70歳以上 (n=222)	3.02	2.93	2.81	2.77	2.89	2.87	2.63	2.76	2.46	2.73	2.52	2.75	2.77	2.58

【地区別】

各回答について年齢別と同様の手法で平均点を算出した。

「渋谷駅周辺」は「防災対策・避難場所」以外の全ての施策で平均点が地区別で最も低い。「防災対策・避難場所」は地区別の差はあまりみられない。「笹塚・幡ヶ谷・初台・本町周辺」は「防犯・風紀対策」が「渋谷駅周辺」に次いで低い。「代々木上原・代々木八幡周辺」と「千駄ヶ谷・原宿・神宮前周辺」は「広場や公園」が全体より高い。

図Ⅲ-2-10 区の施策の充実度(地区別)



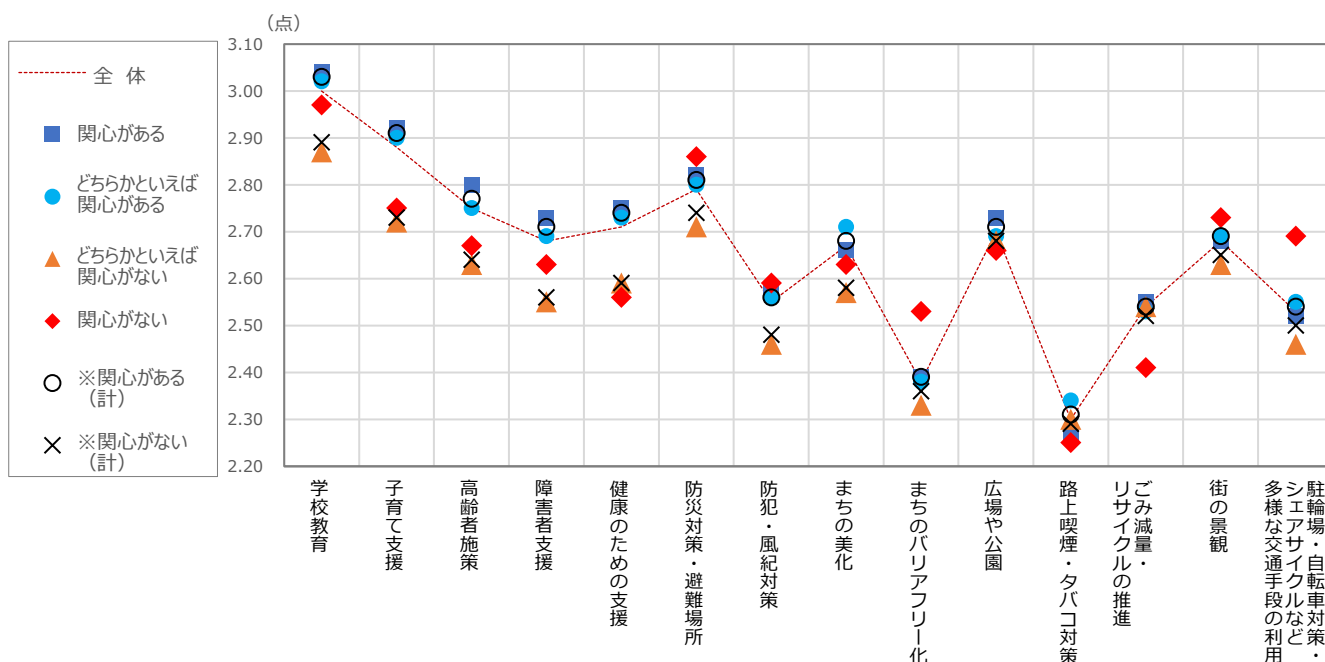
全体 (n=2,460)	3.00	2.88	2.75	2.68	2.71	2.79	2.55	2.67	2.38	2.70	2.30	2.54	2.68	2.53
笹塚・幡ヶ谷・初台・本町周辺 (n=786)	3.02	2.89	2.79	2.70	2.73	2.76	2.49	2.68	2.39	2.64	2.33	2.57	2.62	2.60
代々木上原・代々木八幡周辺 (n=434)	3.05	2.94	2.79	2.69	2.80	2.81	2.58	2.81	2.44	2.95	2.43	2.63	2.78	2.50
千駄ヶ谷・原宿・神宮前周辺 (n=499)	3.01	2.89	2.74	2.71	2.66	2.82	2.59	2.67	2.45	2.83	2.33	2.55	2.81	2.47
渋谷駅周辺 (n=238)	2.91	2.75	2.64	2.57	2.62	2.81	2.40	2.28	2.13	2.43	2.00	2.23	2.34	2.32
代官山・恵比寿・広尾周辺 (n=498)	2.97	2.85	2.71	2.68	2.71	2.80	2.64	2.70	2.37	2.60	2.27	2.53	2.72	2.61

【区政への関心度別】

各回答について年齢別と同様の手法で平均点を算出した。

「関心がある(計)」層の方が「関心がない(計)」層よりも全体的に平均点が高いが、「路上喫煙・タバコ対策」や「ごみ減量・リサイクルの推進」は平均点の差が小さい。「路上喫煙・タバコ対策」は「関心がある」が2.27点で「関心がない」(2.25点)に次いで低い。

図Ⅲ-2-11 区の施策の充実度(区政への関心度別)

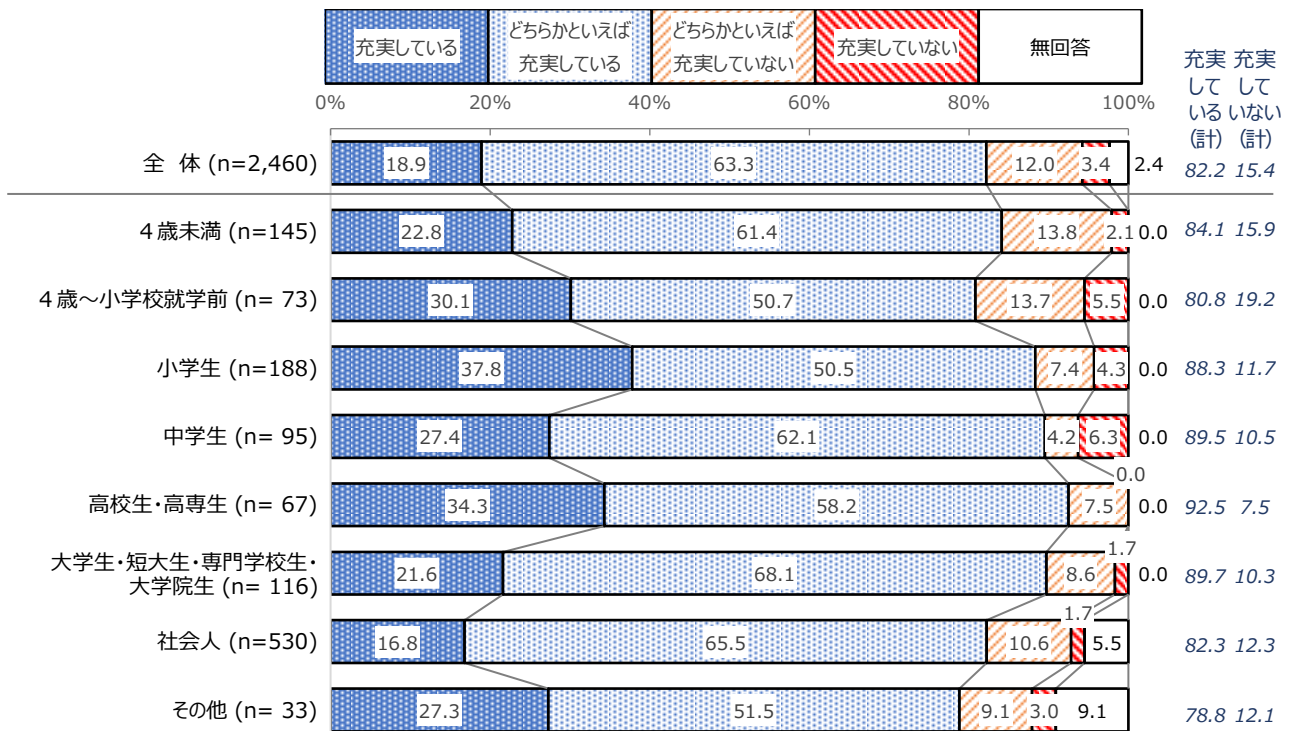


全体 (n=2,460)	3.00	2.88	2.75	2.68	2.71	2.79	2.55	2.67	2.38	2.70	2.30	2.54	2.68	2.53
関心がある (n=903)	3.04	2.92	2.80	2.73	2.75	2.82	2.57	2.66	2.39	2.73	2.27	2.55	2.68	2.52
どちらかといえば関心がある (n=1,132)	3.02	2.90	2.75	2.69	2.73	2.80	2.56	2.71	2.38	2.69	2.34	2.53	2.69	2.55
どちらかといえば関心がない (n=354)	2.87	2.72	2.63	2.55	2.59	2.71	2.46	2.57	2.33	2.68	2.30	2.54	2.63	2.46
関心がない (n=64)	2.97	2.75	2.67	2.63	2.56	2.86	2.59	2.63	2.53	2.66	2.25	2.41	2.73	2.69
※関心がある(計) (n=2,035)	3.03	2.91	2.77	2.71	2.74	2.81	2.56	2.68	2.39	2.71	2.31	2.54	2.69	2.54
※関心がない(計) (n=418)	2.89	2.73	2.64	2.56	2.59	2.74	2.48	2.58	2.36	2.68	2.29	2.52	2.65	2.50

【長子年齢別の学校教育の施策評価】

「充実している(計)」は「4歳～小学校就学前」と「その他」以外はいずれも全体より高く、特に、「高校生・高専生」(92.5%)、「大学生・短大生・専門学校生・大学院生」(89.7%)、「中学生」(89.5%)、「小学生」(88.3%)などが高い。一方、「充実していない(計)」が全体より高いのは「4歳～小学校就学前」(19.2%)、「4歳未満」(15.9%)である。

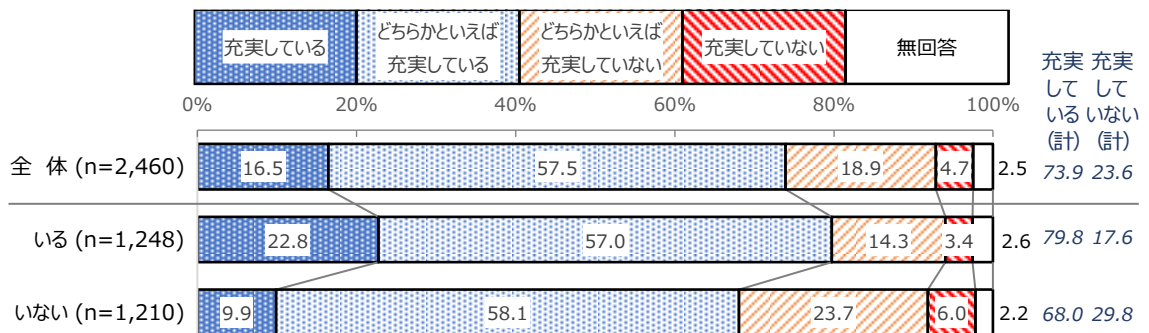
図Ⅲ-2-12 区の施策の充実度(長子年齢別の学校教育の施策評価)



【子どもの有無別の子育て支援の施策評価】

「充実している」は子どもが「いる」層が 22.8%で、「いない」層の 9.9%より倍以上高い。子どもが「いる」層の「充実している(計)」は 79.8%、「充実していない(計)」は 17.6%である。

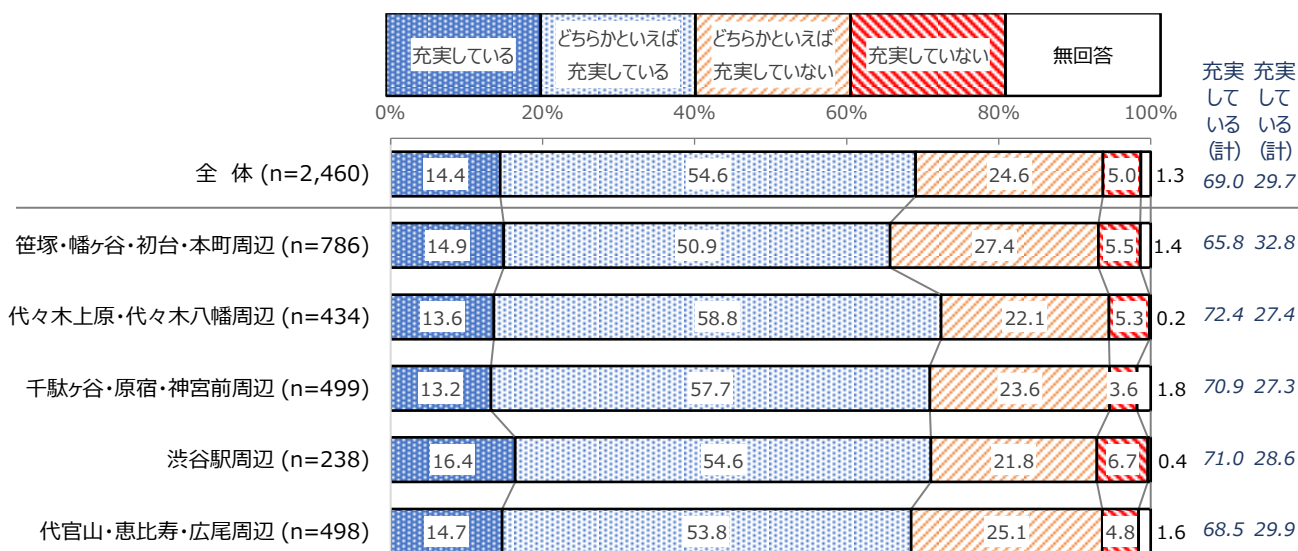
図Ⅲ-2-13 区の施策の充実度(子どもの有無別の子育て支援の施策評価)



【地区別の防災対策・避難場所の施策評価】

「充実している(計)」は「代々木上原・代々木八幡周辺」「渋谷駅周辺」「千駄ヶ谷・原宿・神宮前周辺」が7割を超えて高い。一方、「充実していない(計)」は「笹塚・幡ヶ谷・初台・本町周辺」が32.8%で最も高い。

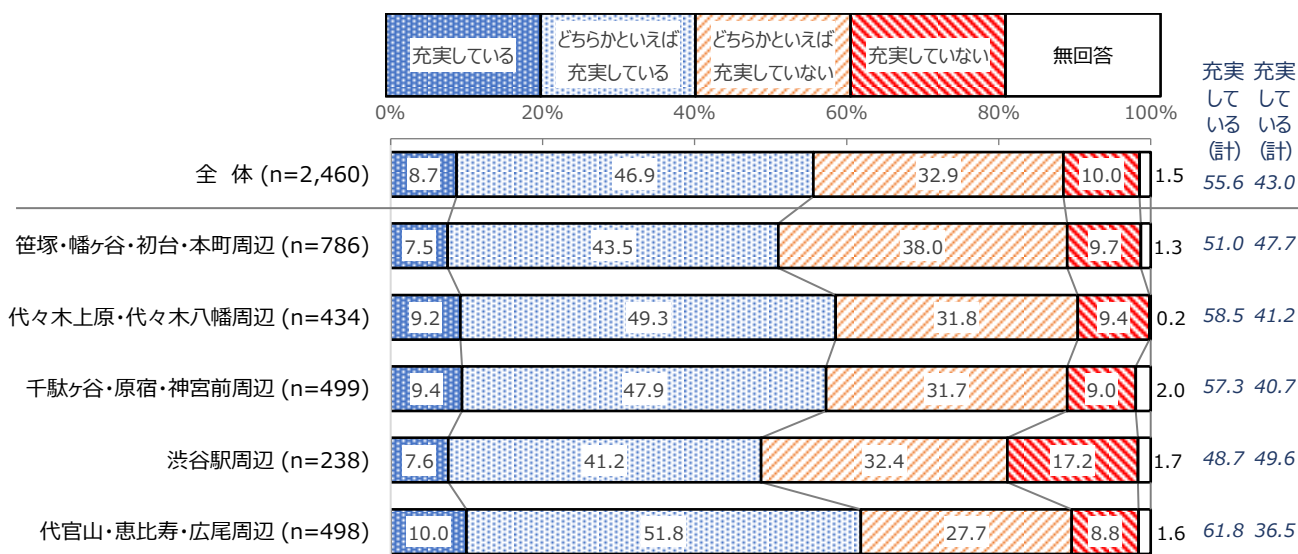
図Ⅲ-2-14 区の施策の充実度(地区別の防災対策・避難場所の施策評価)



【地区別の防犯・風紀対策の施策評価】

「充実している(計)」は「代官山・恵比寿・広尾周辺」が61.8%で最も高い。一方、「充実していない(計)」は「渋谷駅周辺」(49.6%)、「笹塚・幡ヶ谷・初台・本町周辺」(47.7%)が他地域よりやや高い。

図Ⅲ-2-15 区の施策の充実度(地区別の防犯・風紀対策の施策評価)



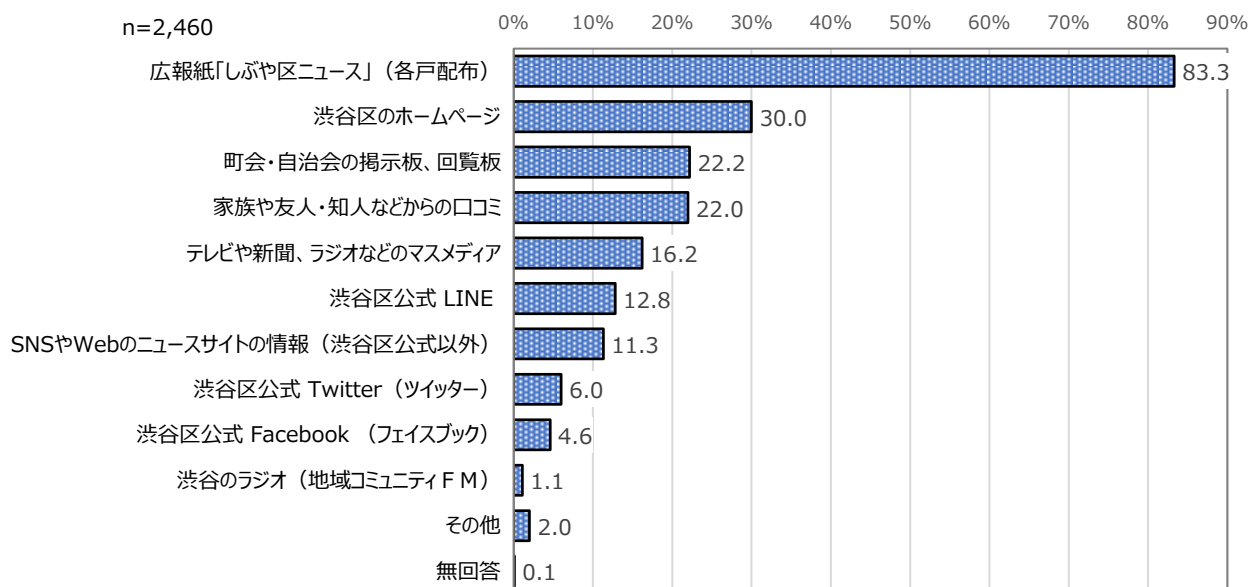
(3) 区政の情報入手経路

問6 あなたは日頃、区政に関する情報をどのような方法で入手していますか。(答はいくつでも)

「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」が 83.3%で最も高い。以下、大きく差があつて「渋谷区のホームページ」(30.0%)、「町会・自治会の掲示板、回覧板」(22.2%)、「家族や友人・知人などからの口コミ」(22.0%)などが続く。

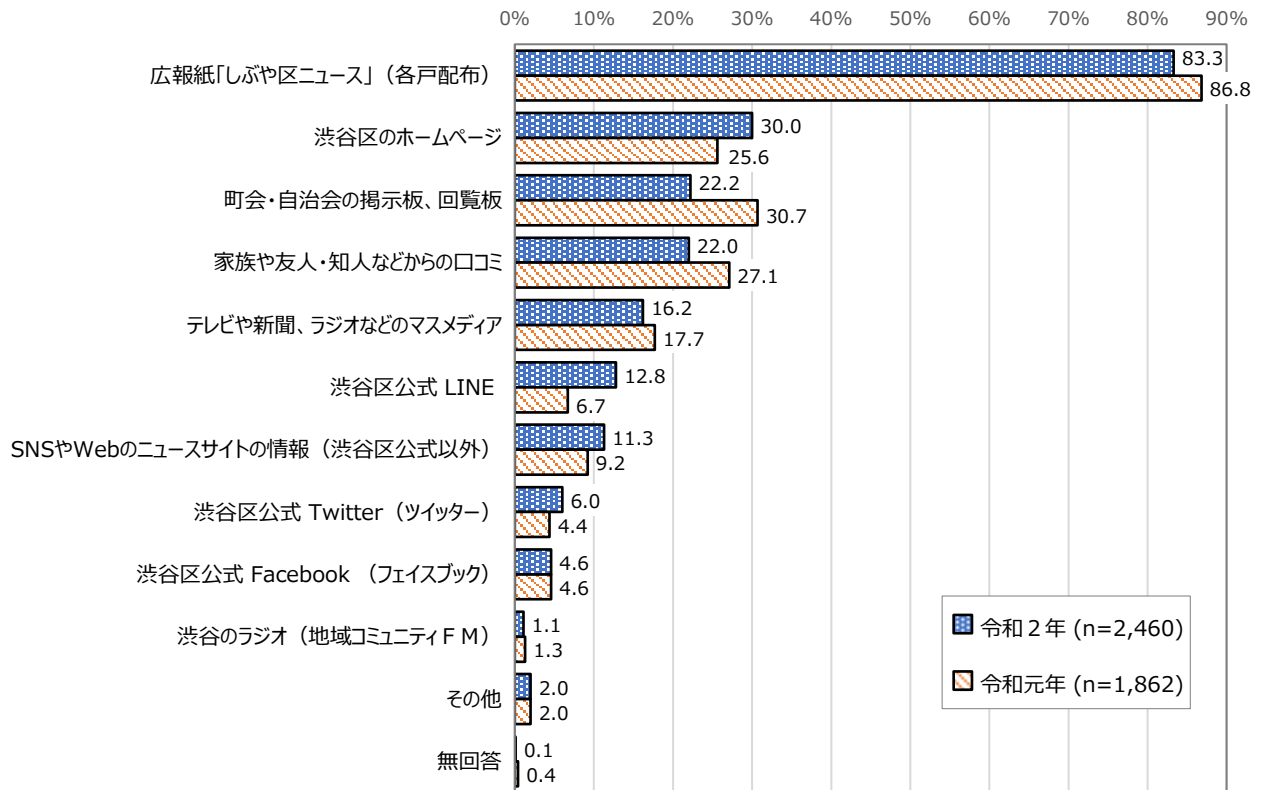
令和元年調査と比較すると、「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」が8割を超えて高いことは変わらないが、「渋谷区のホームページ」「渋谷区公式 LINE」が令和元年より高くなっている。

図Ⅲ-2-16 区政の情報入手経路

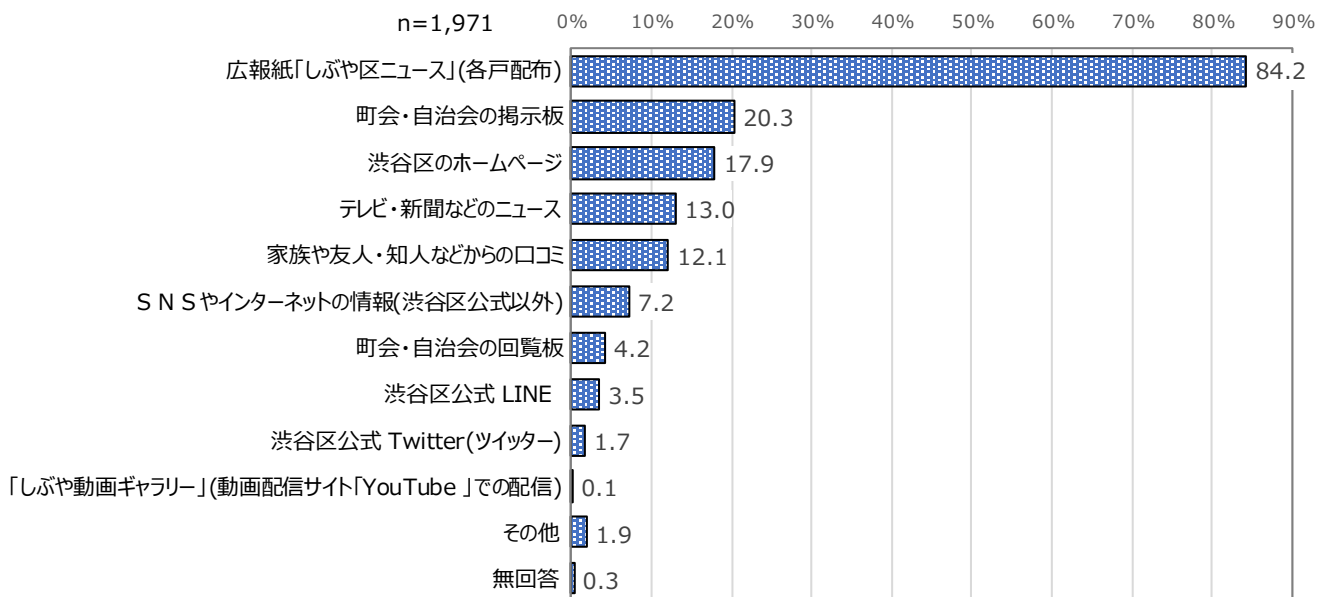


【その他の回答】
 入手していない、区議会議員の活動・Facebook・Twitter、街を歩いて・観察して、渋谷区公式Instagram、街・公園の掲示板、しぶや安全・安心メール/防災アプリ、長谷部区長の Twitter など

図Ⅲ-2-17 区政の情報入手経路(令和元年調査との比較)



<参考資料>平成30年調査 区政の情報入手経路(答えは2つまで)



【年齢別】

「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」は各年代とも最も高いが、年代が上がるにつれ高くなる傾向にあり、40代以上は8割を超える。「渋谷区のホームページ」は40～50代が3割台後半、30代と60代が3割前後で高い。「町会・自治会の掲示板、回覧板」は60代以上では「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」に次いで高い。「家族や友人・知人などからの口コミ」は18歳・19歳が37.8%で他年代より高い。

表Ⅲ-2-1 区政の情報入手経路(年齢別)

(%)

	広報紙「しぶや区ニュース」(各戸配布)	渋谷区のホームページ	渋谷区公式Twitter(ツイッター)	渋谷区公式LINE	渋谷区公式Facebook(フェイスブック)	渋谷のラジオ(地域コミュニティFM)	町会・自治会の掲示板、回覧板	テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア	SNSやWebのニュースサイトの情報(渋谷区公式以外)	家族や友人・知人などからの口コミ	その他	無回答
全体(n=2,460)	83.3	30.0	6.0	12.8	4.6	1.1	22.2	16.2	11.3	22.0	2.0	0.1
18歳・19歳(n=37)	48.6	16.2	10.8	-	-	2.7	21.6	21.6	21.6	37.8	2.7	-
20代(n=259)	61.4	17.0	8.1	10.8	1.5	0.4	7.7	19.3	18.1	20.1	2.7	-
30代(n=414)	75.1	30.4	9.7	27.8	5.3	1.2	12.1	12.8	15.2	20.3	4.1	-
40代(n=556)	86.0	37.9	8.1	17.8	7.0	1.4	19.1	10.4	11.9	25.2	1.6	-
50代(n=569)	88.0	35.5	4.4	8.4	5.1	1.2	22.8	17.2	11.8	22.7	1.4	-
60代(n=400)	92.8	29.0	2.8	5.8	3.8	1.0	31.8	18.5	5.5	17.3	1.3	0.3
70歳以上(n=222)	93.2	15.3	0.9	1.4	1.4	0.9	46.4	25.7	1.8	23.9	0.5	0.9

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【区政への関心度別】

「関心がある」層は「渋谷区のホームページ」が40.1%で他層に比べ高い。「関心がない(計)」は「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」(68.7%)の次に「家族や友人・知人などからの口コミ」(19.6%)が高い。

表Ⅲ-2-2 区政の情報入手経路(区政への関心度別)

(%)

	広報紙「しぶや区ニュース」(各戸配布)	渋谷区のホームページ	渋谷区公式Twitter(ツイッター)	渋谷区公式LINE	渋谷区公式Facebook(フェイスブック)	渋谷のラジオ(地域コミュニティFM)	町会・自治会の掲示板、回覧板	テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア	SNSやWebのニュースサイトの情報(渋谷区公式以外)	家族や友人・知人などからの口コミ	その他	無回答
全体(n=2,460)	83.3	30.0	6.0	12.8	4.6	1.1	22.2	16.2	11.3	22.0	2.0	0.1
関心がある(n=903)	86.4	40.1	8.6	16.2	6.9	2.1	26.9	17.6	13.0	24.8	2.2	0.1
どちらかといえば関心がある(n=1,132)	86.2	27.9	5.1	12.4	4.0	0.6	22.3	15.7	10.7	20.8	0.6	0.1
どちらかといえば関心がない(n=354)	74.3	15.5	2.3	7.3	1.1	0.3	11.9	13.6	10.2	20.9	3.1	-
関心がない(n=64)	37.5	9.4	6.3	4.7	1.6	1.6	3.1	17.2	4.7	12.5	15.6	-
関心がある(計)(n=2,035)	86.3	33.3	6.7	14.1	5.3	1.3	24.4	16.6	11.7	22.6	1.3	0.1
関心がない(計)(n=418)	68.7	14.6	2.9	6.9	1.2	0.5	10.5	14.1	9.3	19.6	5.0	-

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

3. コロナについて

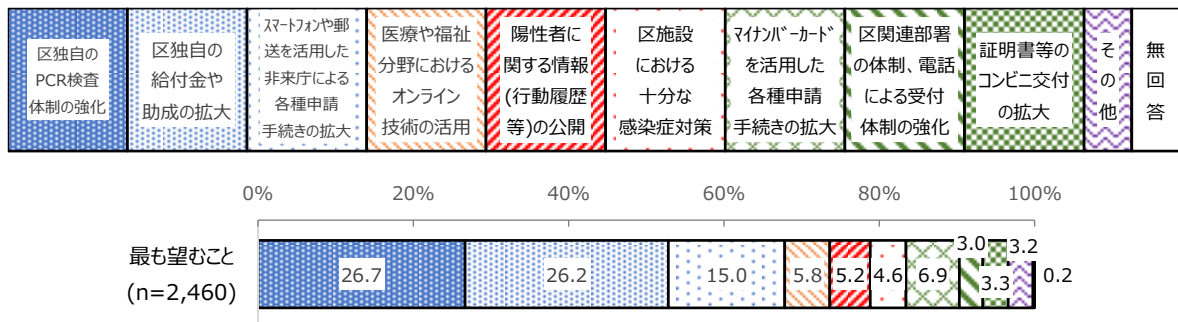
(1) 渋谷区に望む新型コロナウイルス感染症対策

問7 現在、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症について、今後、対策として渋谷区に望むこと
はどのようなことですか。最も望むこと、次に望むこと、三番目に望むことを、それぞれ教えてください。（答は
それぞれ1つ）

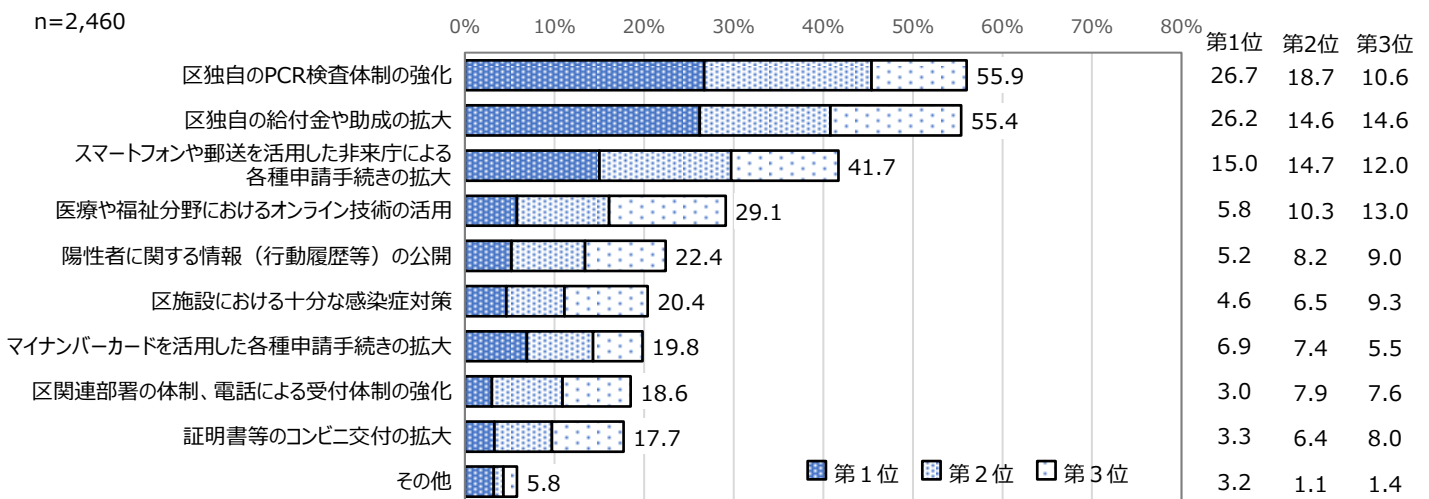
最も望むことは「区独自の PCR 検査体制の強化」(26.7%)と「区独自の給付金や助成の拡大」(26.2%)
がそれぞれ2割半ばを占め、次いで、「スマートフォンや郵送を活用した非来庁による各種申請手続きの拡
大」(15.0%)が1割半ばを占める。

最も望むことから三番目に望むことまでを合わせると、「区独自の PCR 検査体制の強化」(55.9%)と「区独
自の給付金や助成の拡大」(55.4%)がそれぞれ5割半ばと高く、以下、「スマートフォンや郵送を活用した非
来庁による各種申請手続きの拡大」(41.7%)、「医療や福祉分野におけるオンライン技術の活用」(29.1%)
などが続く。

図Ⅲ-3-1 渋谷区に望む新型コロナウイルス感染症対策(最も望むこと)



図Ⅲ-3-2 渋谷区に望む新型コロナウイルス感染症対策



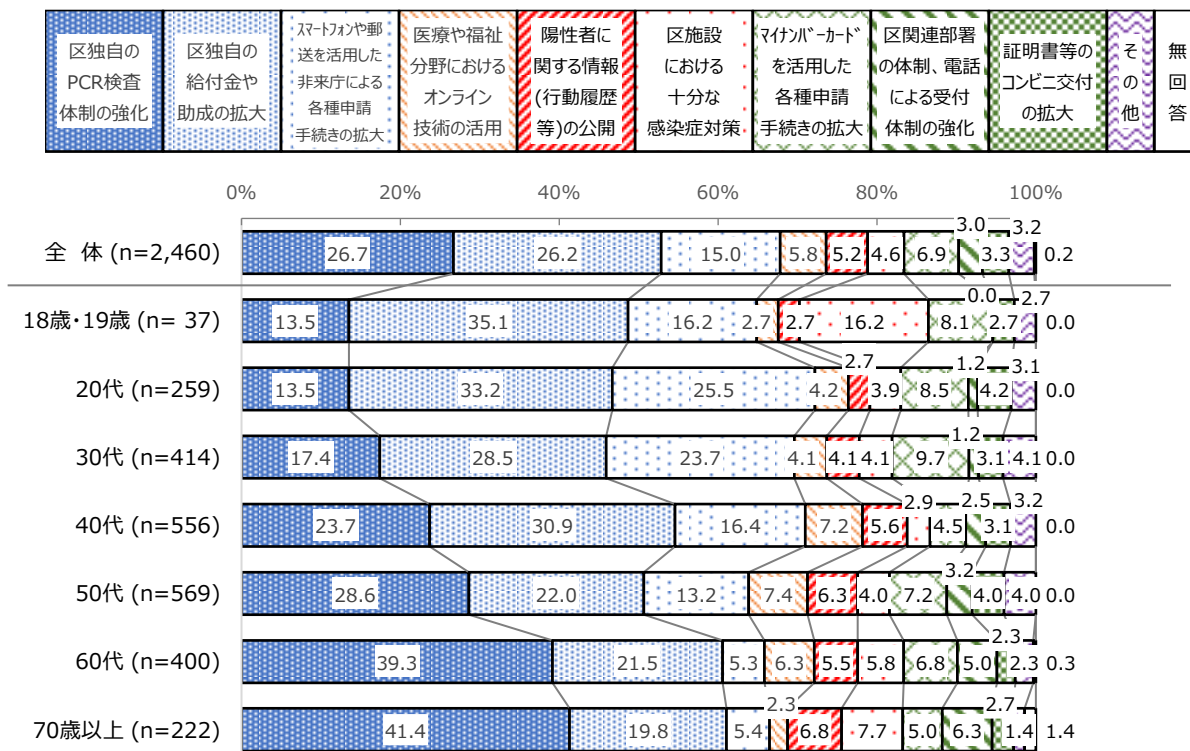
【その他の回答】

医療体制の充実/医療従事者へのサポート、情報公開・情報発信（感染症対策、混雑状況、検査数など）、啓発（飲食時のマナー、手洗い、マスク指導など）、手続きのオンライン化・短縮化、小売店支援・地域クーポン発売、商業施設や飲食店などへの指導・取締り、教育支援、ワクチンの早期接種・助成、感染者へのサポート/差別・風評被害の防止 など

【年齢別】

「区独自の PCR 検査体制の強化」は年代が上がるにつれ高くなる傾向にあり、60 代以上は最も望むことでは4割前後、三番目に望むことまでを合わせると6割台後半～7割強に達する。「区独自の給付金や助成の拡大」は40 代以下の方が高く、三番目に望むことまでを合わせると20～30 代が6割を超える。「スマートフォンや郵送を活用した非来庁による各種申請手続きの拡大」も40 代以下の方が高く、特に20～30 代は最も望むことで2割を超え、三番目に望むことまでを合わせると5割半ば～6割に達する。

図Ⅲ-3-3 渋谷区に望む新型コロナウイルス感染症対策(最も望むこと)(年齢別)



表Ⅲ-3-1 渋谷区に望む新型コロナウイルス感染症対策(年齢別)

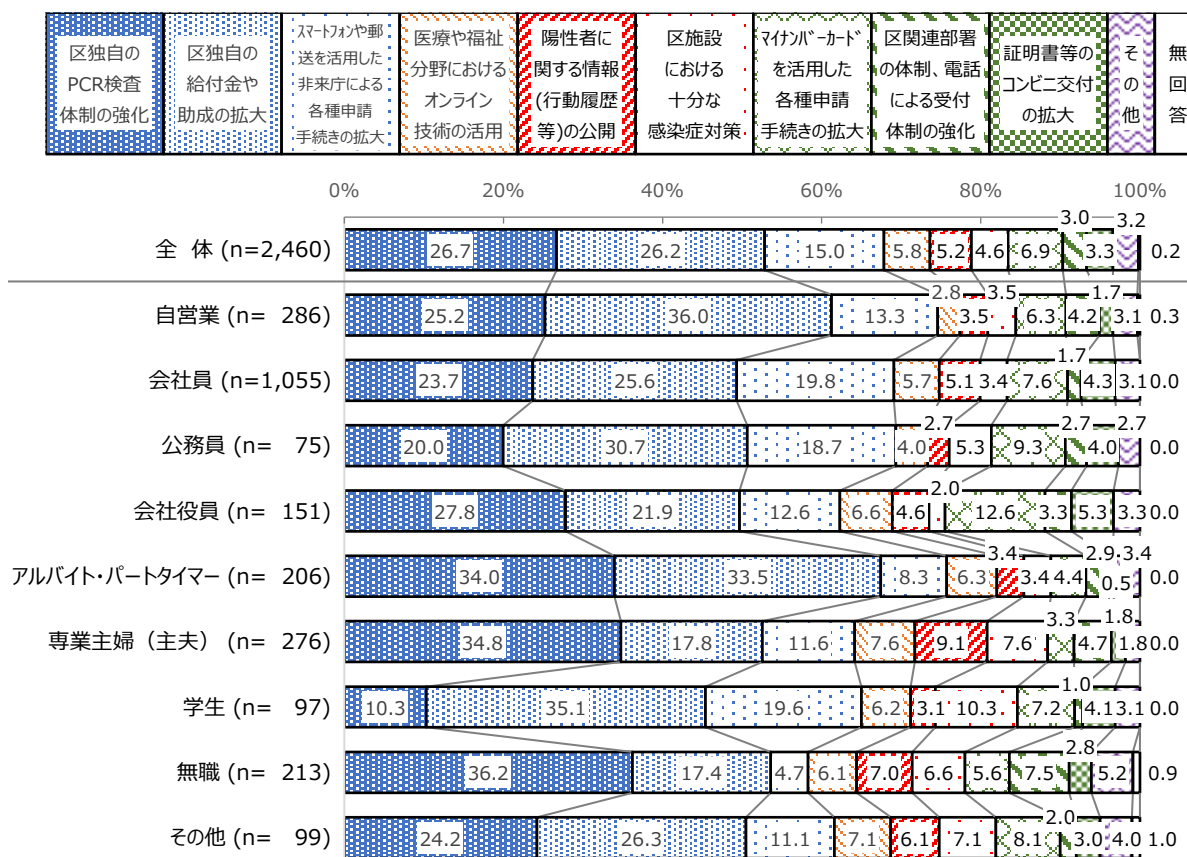
	スマートフォンや郵送を活用した非来庁による各種申請手続きの拡大	マイナンバーカードを活用した各種申請手続きの拡大	証明書等のコンビニ交付の拡大	医療や福祉分野におけるオンライン技術の活用	区独自の給付金や助成の拡大	区独自のPCR検査体制の強化	陽性者に関する情報(行動履歴等)の公開	区関連部署の体制、電話による受付体制の強化	区施設における十分な感染症対策	その他	無回答
全体 (n=2,460)	41.7	19.8	17.7	29.1	55.4	55.9	22.4	18.6	20.4	5.8	0.2
18歳・19歳 (n=37)	43.2	27.0	<u>10.8</u>	29.7	51.4	<u>40.5</u>	18.9	<u>10.8</u>	43.2	2.7	-
20代 (n=259)	55.2	23.9	25.9	28.2	65.6	<u>40.5</u>	<u>16.2</u>	<u>8.5</u>	20.5	4.6	-
30代 (n=414)	60.4	24.9	21.7	26.1	62.6	<u>43.7</u>	17.6	<u>8.2</u>	15.7	6.5	-
40代 (n=556)	47.3	18.5	17.6	31.5	58.5	53.8	23.6	14.6	17.4	6.8	-
50代 (n=569)	38.7	18.1	16.9	34.1	52.4	60.8	22.5	22.8	18.3	7.4	-
60代 (n=400)	<u>25.8</u>	19.8	13.5	30.8	<u>47.8</u>	67.8	25.5	26.8	23.8	4.0	0.3
70歳以上 (n=222)	<u>13.5</u>	<u>12.6</u>	<u>11.7</u>	<u>14.0</u>	<u>45.0</u>	70.7	30.2	34.7	32.0	2.7	1.4

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【職業別】

「区独自の給付金や助成の拡大」は自営業、学生が最も望むことで3割半ばを占める。三番目に望むことまでを合わせるとアルバイト・パートタイマーが6割半ば、学生と自営業も6割を超える。

図Ⅲ-3-4 渋谷区に望む新型コロナウイルス感染症対策(最も望むこと)(職業別)



表Ⅲ-3-2 渋谷区に望む新型コロナウイルス感染症対策(職業別)

	スマートフォンや郵送を活用した非来庁による各種申請手続きの拡大	マイナンバーカードを活用した各種申請手続きの拡大	証明書等のコンビニ交付の拡大	医療や福祉分野におけるオンライン技術の活用	区独自の給付金や助成の拡大	区独自のPCR検査体制の強化	陽性者に関する情報(行動履歴等)の公開	区関連部署の体制、電話による受付体制の強化	区施設における十分な感染症対策	その他	無回答
全体 (n=2,460)	41.7	19.8	17.7	29.1	55.4	55.9	22.4	18.6	20.4	5.8	0.2
自営業 (n=286)	41.3	20.3	16.1	26.6	61.2	59.8	20.6	17.1	16.8	6.6	0.3
会社員 (n=1,055)	50.0	22.8	20.1	31.8	57.6	51.8	20.6	<u>12.7</u>	17.8	5.6	-
公務員 (n=75)	49.3	26.7	26.7	<u>20.0</u>	<u>49.3</u>	56.0	<u>12.0</u>	24.0	21.3	2.7	-
会社役員 (n=151)	47.7	25.2	24.5	35.1	<u>46.4</u>	51.0	23.8	17.9	<u>11.9</u>	6.6	-
アルバイト・パートタイマー (n=206)	<u>32.0</u>	<u>13.1</u>	14.1	<u>22.8</u>	65.5	65.0	23.3	25.7	21.4	6.3	-
専業主婦(主夫) (n=276)	<u>29.3</u>	<u>10.5</u>	<u>10.9</u>	33.3	44.9	65.2	30.8	30.1	25.0	5.4	-
学生 (n=97)	50.5	23.7	15.5	30.9	63.9	<u>36.1</u>	<u>16.5</u>	<u>9.3</u>	33.0	4.1	-
無職 (n=213)	<u>20.7</u>	15.0	13.6	<u>19.2</u>	<u>47.4</u>	62.0	28.2	31.0	28.6	6.6	0.9
その他 (n=99)	<u>31.3</u>	20.2	17.2	26.3	50.5	56.6	21.2	17.2	26.3	6.1	1.0

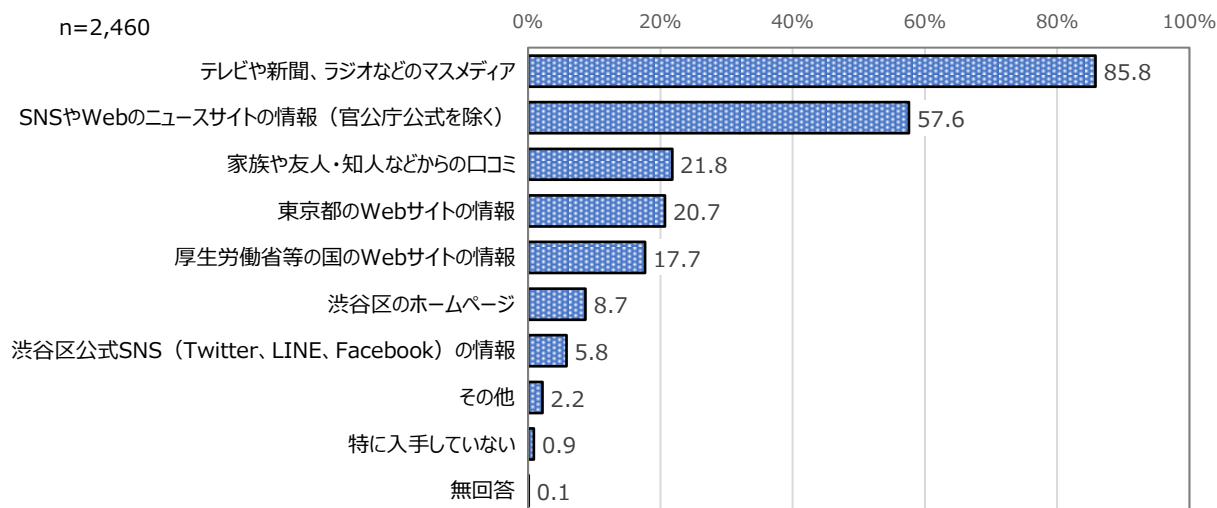
注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

(2) 新型コロナウイルス感染症の情報入手経路

問8 あなたは日頃、新型コロナウイルス感染症に関する情報をどのような方法で入手していますか。(答はいくつでも)

「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」が 85.8%で最も高く、次いで、「SNSやWebのニュースサイトの情報(官公庁公式を除く)」(57.6%)が高い。以下、「家族や友人・知人などからの口コミ」(21.8%)、「東京都のWebサイトの情報」(20.7%)、「厚生労働省等の国のWebサイトの情報」(17.7%)などが続く。

図Ⅲ-3-5 新型コロナウイルス感染症の情報入手経路



【その他の回答】

東京都のLINE、医療関係者・医療機関、職場、海外のニュース、YouTube・LINE・Twitter、Web、都知事の会見 など

【年齢別】

「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」はいずれの年代も最も高いが、特に 60 代以上は9割を超える。「SNSやWebのニュースサイトの情報(官公庁公式を除く)」は 40 代以下が6割台後半で高い。「家族や友人・知人などからの口コミ」は 18 歳・19 歳が4割強、70 歳以上が3割半ばで他年代より高い。

表Ⅲ-3-3 新型コロナウイルス感染症の情報入手経路(年齢別)

	テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア	SNSやWebのニュースサイトの情報 (官公庁公式を除く)	厚生労働省等の国のWebサイトの情報	東京都のWebサイトの情報	渋谷区のホームページ	渋谷区公式SNS (Twitter、LINE、Facebook) の情報	家族や友人・知人などからの口コミ	その他	特に入手していない	無回答
全体 (n=2,460)	85.8	57.6	17.7	20.7	8.7	5.8	21.8	2.2	0.9	0.1
18歳・19歳 (n=37)	86.5	67.6	21.6	<u>13.5</u>	5.4	8.1	40.5	-	2.7	-
20代 (n=259)	<u>78.8</u>	65.6	20.5	16.2	6.2	4.6	19.3	1.5	1.9	-
30代 (n=414)	<u>77.8</u>	68.8	19.3	17.6	8.9	7.2	19.8	3.4	1.9	-
40代 (n=556)	83.6	65.1	17.6	21.6	9.4	8.3	20.5	2.9	0.5	-
50代 (n=569)	88.0	58.7	22.1	27.2	9.1	4.7	19.0	2.8	0.4	-
60代 (n=400)	92.0	<u>46.3</u>	15.3	22.5	8.8	5.0	21.3	0.8	1.0	-
70歳以上 (n=222)	96.8	<u>25.2</u>	<u>4.5</u>	<u>10.8</u>	8.1	1.8	36.9	0.5	-	0.9

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

4. 渋谷区基本構想について

(1) 基本構想とスローガンの認知度

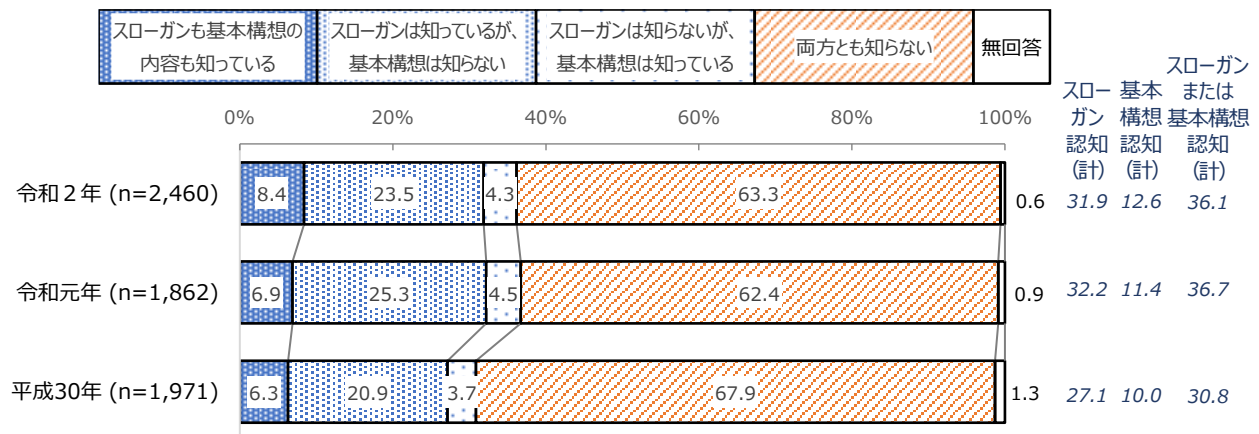
問9 渋谷区では平成28年10月に渋谷区の未来像として、「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」というスローガンを掲げる新しい基本構想を策定しました。この基本構想またはスローガンをご存知ですか。(答は1つ)

※このアンケートに答える前の事についてお答えください。

「両方とも知らない」が 63.3%で最も高い。次いで、「スローガンは知っているが、基本構想は知らない」(23.5%)が高い。スローガンの認知率(「スローガンも基本構想の内容も知っている」+「スローガンは知っているが、基本構想は知らない」)は31.9%、基本構想の認知率(「スローガンも基本構想の内容も知っている」+「スローガンは知らないが、基本構想は知っている」)は12.6%である。

過去2年の調査と比較すると、令和2年は令和元年とほぼ傾向は同じであり、スローガンの認知率は平成30年よりやや増加、基本構想の認知率は微増にとどまっている。

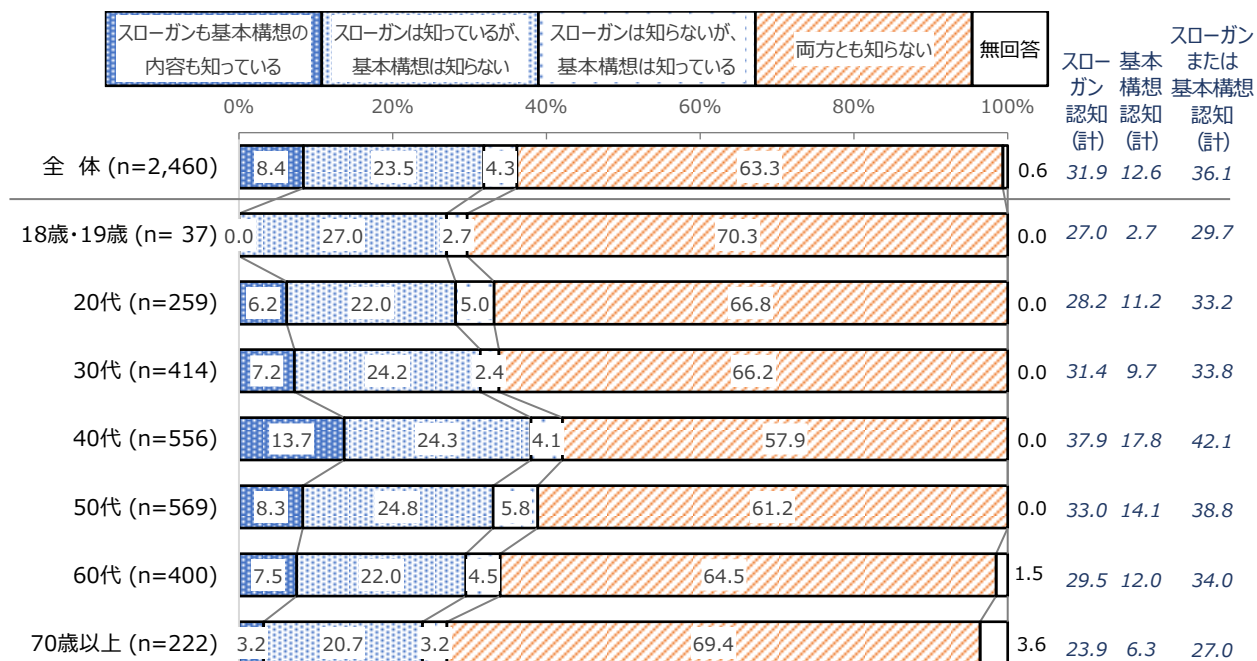
図Ⅲ-4-1 基本構想とスローガンの認知度



【年齢別】

スローガンの認知率は30～50代が3割台で高く、特に40代は37.9%で最も高い。基本構想の認知率も40代が17.8%で最も高く、次いで50代が1割半ばで高い。一方、「両方とも知らない」は18・19歳と70歳以上が7割前後で他年代より高い。

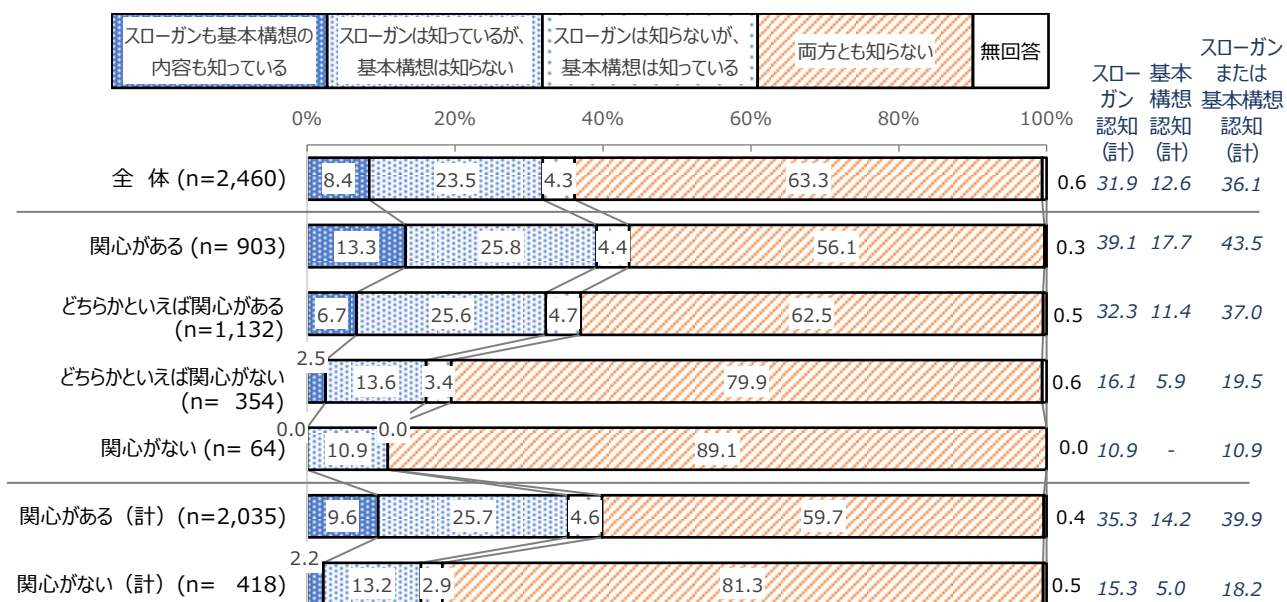
図Ⅲ-4-2 基本構想とスローガンの認知度(年齢別)



【区政への関心度別】

区政に対して「関心がある」層は認知度も高く、「関心がある(計)」のスローガンの認知率は35.3%、基本構想の認知率は14.2%、スローガンまたは基本構想の認知率は39.9%である。一方、「関心がない(計)」はスローガンの認知率が15.3%で、基本構想の認知率はわずか5.0%である。

図Ⅲ-4-3 基本構想とスローガンの認知度(区政への関心度別)



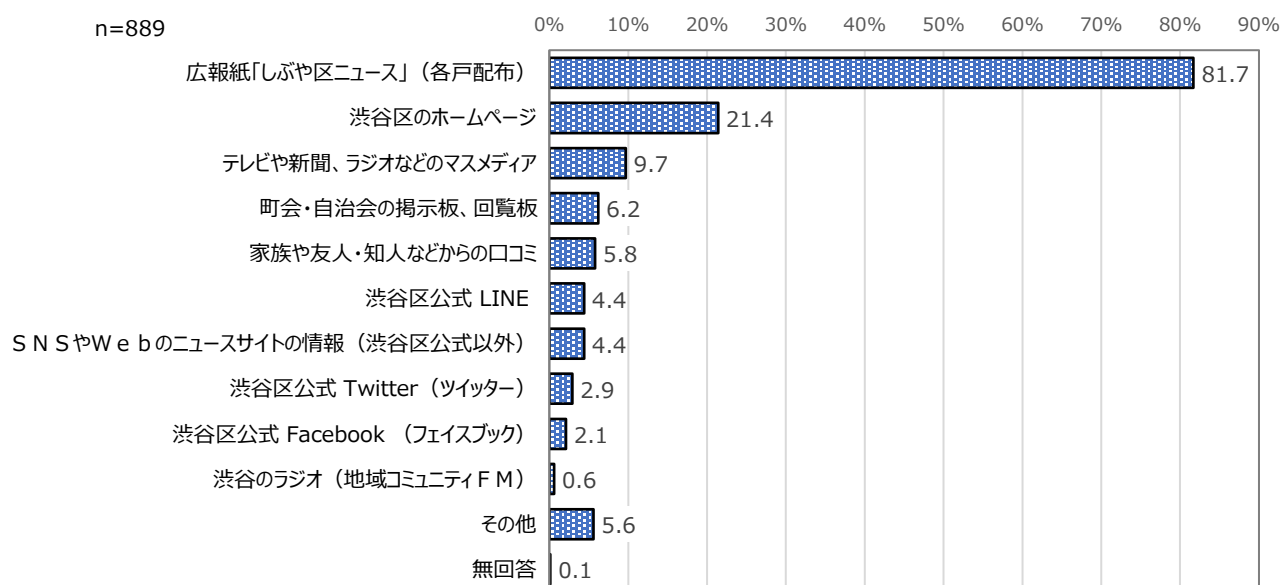
(2) 基本構想とスローガンの認知経路

問9-1 スローガンまたは基本構想を何からお知りになりましたか。(答はいくつでも) [問9で「スローガンも基本構想の内容も知っている」「スローガンは知っているが、基本構想は知らない」「スローガンは知らないが、基本構想は知っている」と回答した方対象]

「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」が断然高く 81.7%を占める。「渋谷区のホームページ」は 21.4%、その他の経路は 10%未満である。

令和元年調査と比較すると、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」と「町会・自治会の掲示板、回覧板」と順位が入れ替わっているなど若干の順位の変動はあるものの、割合はほとんど変わらない。

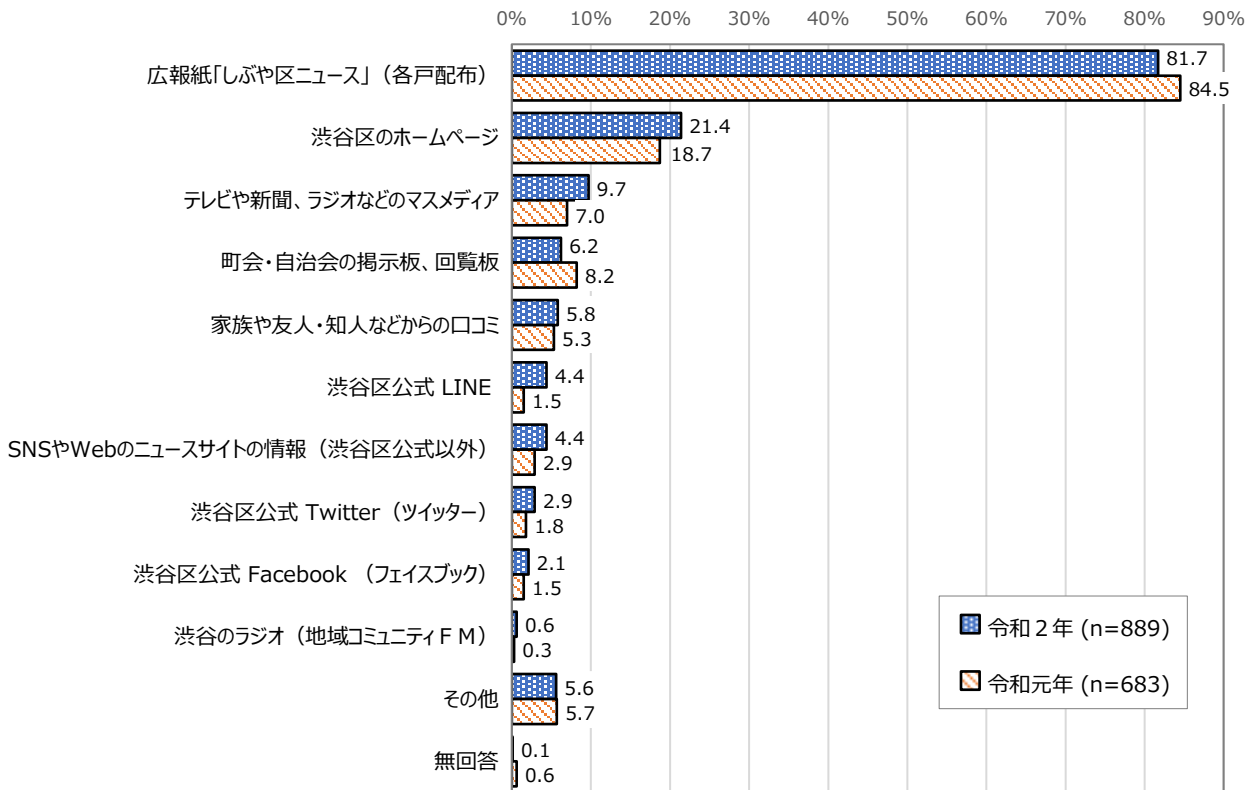
図Ⅲ-4-4 基本構想とスローガンの認知経路



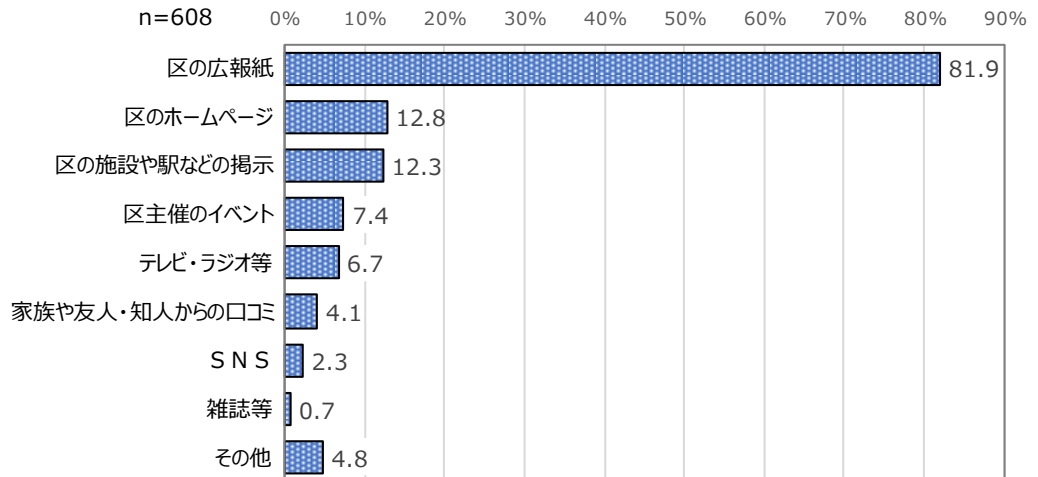
【その他の回答】

歌・子どもミュージカル、学校・子どもの学校の配布物、街中のポスター・掲示板・看板、区長・区議会議員、区役所・スポーツセンター・図書館のHP、イベント など

図Ⅲ-4-5 基本構想とスローガンの認知経路(令和元年調査との比較)



<参考資料>平成30年調査 基本構想とスローガンの認知経路(答えは2つまで)



【年齢別】

回答数が30以上の20代以上でみると、「広報紙「しぶや区ニュース」(各戸配布)」は20代が6割弱で低く、30～60代は8割台、70歳以上は9割を超える。「渋谷区のホームページ」は20～50代が2割を超える。「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」は60代以上が1割を超え、「町会・自治会の掲示板、回覧板」は70歳以上が2割弱と他年代より高い。

表Ⅲ-4-1 基本構想とスローガンの認知経路(年齢別)

(%)

	広報紙「しぶや区ニュース」(各戸配布)	渋谷区のホームページ	渋谷区公式Twitter(ツイッター)	渋谷区公式LINE	渋谷区公式Facebook(フェイスブック)	渋谷のラジオ(地域コミュニティFM)	町会・自治会の掲示板、回覧板	テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア	SNSやWebのニュースサイトの情報(渋谷区公式以外)	家族や友人・知人などからの口コミ	その他	無回答
全体(n=889)	81.7	21.4	2.9	4.4	2.1	0.6	6.2	9.7	4.4	5.8	5.6	0.1
18歳・19歳(n=11)	<u>45.5</u>	18.2	9.1	-	-	-	18.2	9.1	-	18.2	18.2	-
20代(n=86)	<u>59.3</u>	23.3	4.7	2.3	1.2	2.3	5.8	9.3	10.5	8.1	5.8	-
30代(n=140)	82.1	24.3	4.3	8.6	4.3	-	5.7	10.0	5.7	3.6	6.4	-
40代(n=234)	81.6	23.5	2.1	5.1	2.6	0.4	5.6	7.7	4.3	7.7	10.3	-
50代(n=221)	86.4	24.9	2.7	4.1	1.4	0.9	2.3	9.0	4.1	5.4	3.2	-
60代(n=136)	86.8	<u>14.7</u>	2.9	2.9	2.2	-	8.1	12.5	1.5	3.7	2.2	-
70歳以上(n=60)	91.7	<u>5.0</u>	-	-	-	-	18.3	13.3	1.7	5.0	-	1.7

注) 表中の **■** は全体より5ポイント以上高い、■ は全体より5ポイント以上低いことを示す。

(3) 基本構想とスローガンの広報手段

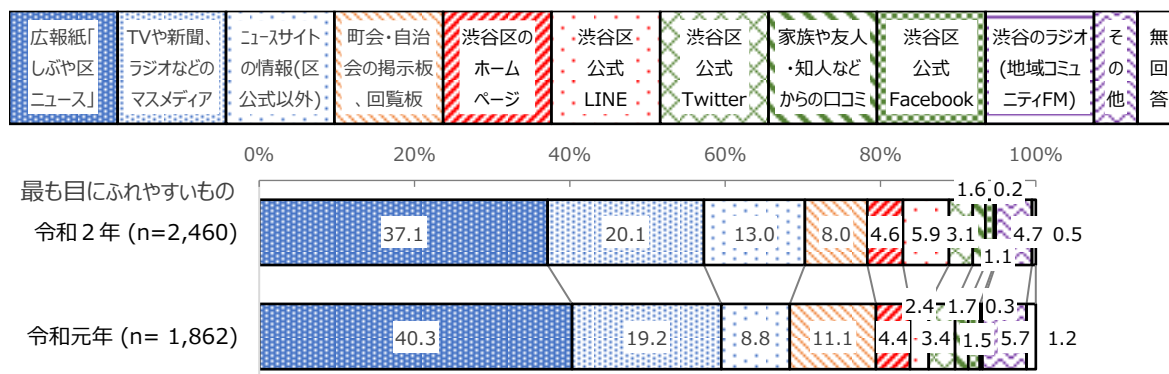
問 10 スローガン、基本構想がどのようなところで紹介されれば目にふれやすいと思いますか。最も目にふれやすいものの、次に目にふれやすいもの、三番目に目にふれやすいものを、それぞれ教えてください。(答はそれぞれ1つ)

最も目にふれやすいものは「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」が 37.1%で最も高い。次いで、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」(20.1%)、「SNSやWebのニュースサイトの情報(渋谷区公式以外)」(13.0%)が高い。

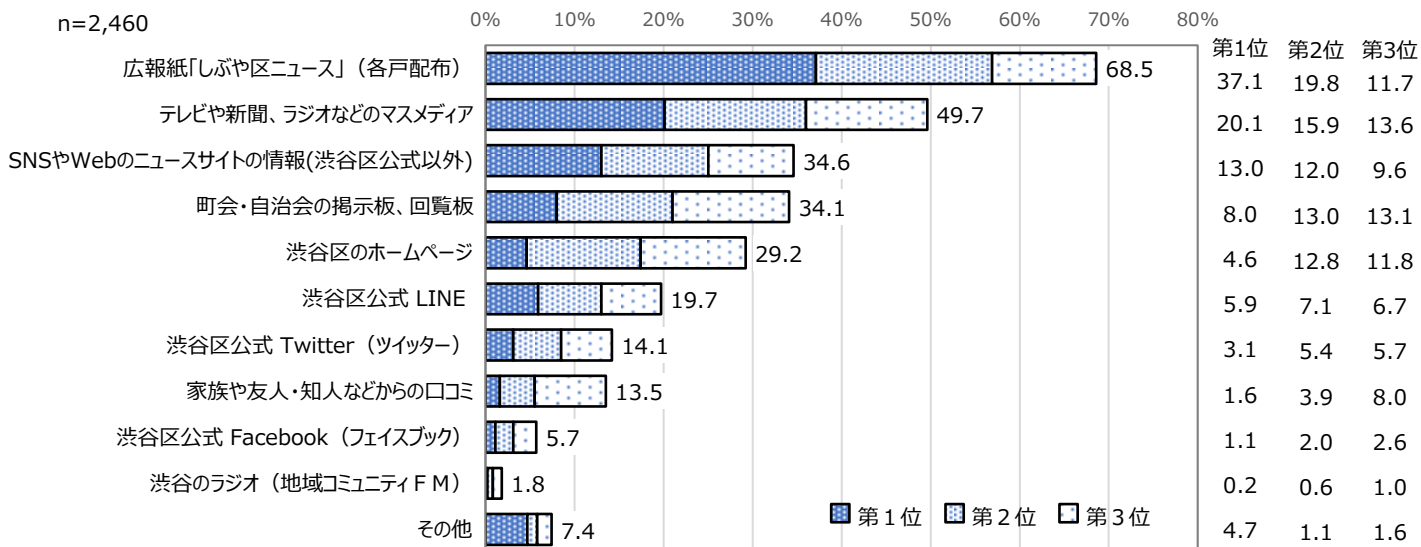
最も目にふれやすいものから三番目に目にふれやすいものまでを合わせると、「広報紙『しぶや区ニュース』(各戸配布)」が 68.5%で最も高く、次いで、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」(49.7%)が高い。以下、「SNSやWebのニュースサイトの情報(渋谷区公式以外)」(34.6%)、「町会・自治会の掲示板、回覧板」(34.1%)が3割半ば、「渋谷区のホームページ」(29.2%)が3割弱で続く。

令和元年調査と比較すると、三番目に目にふれやすいものまでの合計が5ポイント以上増加しているのは「SNSやWebのニュースサイトの情報(渋谷区公式以外)」と「渋谷区公式 LINE」、5ポイント以上減少しているのは「町会・自治会の掲示板、回覧板」である。

図Ⅲ-4-6 基本構想とスローガンの広報手段(最も目にふれやすいもの)

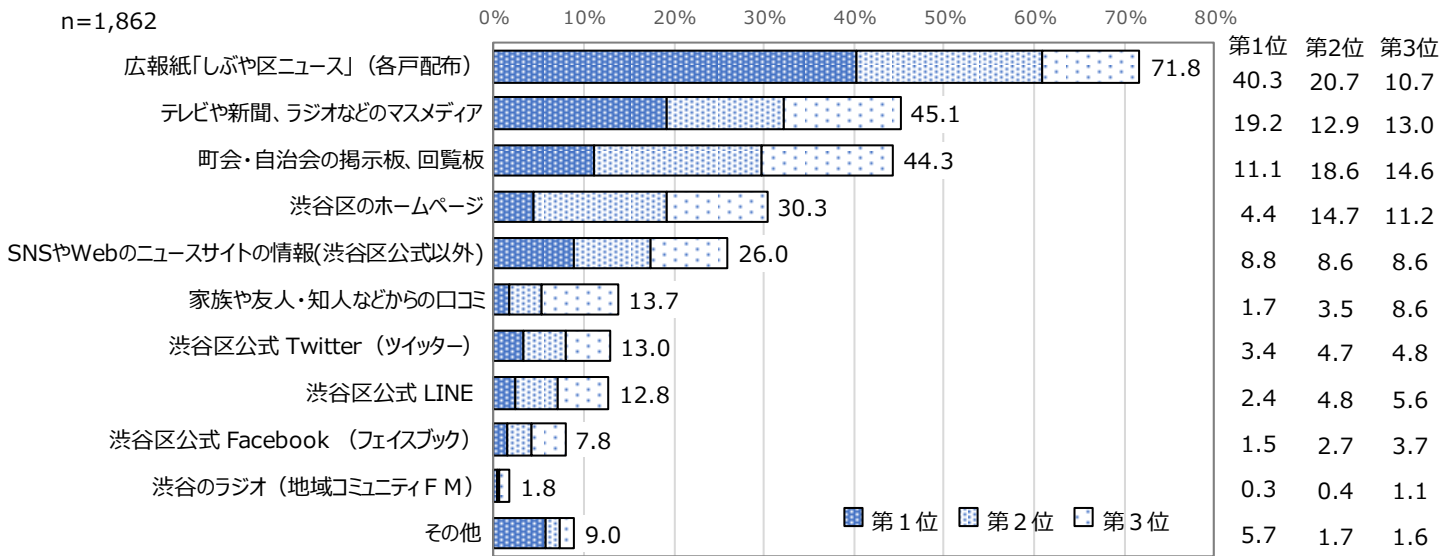


図Ⅲ-4-7 基本構想とスローガンの広報手段

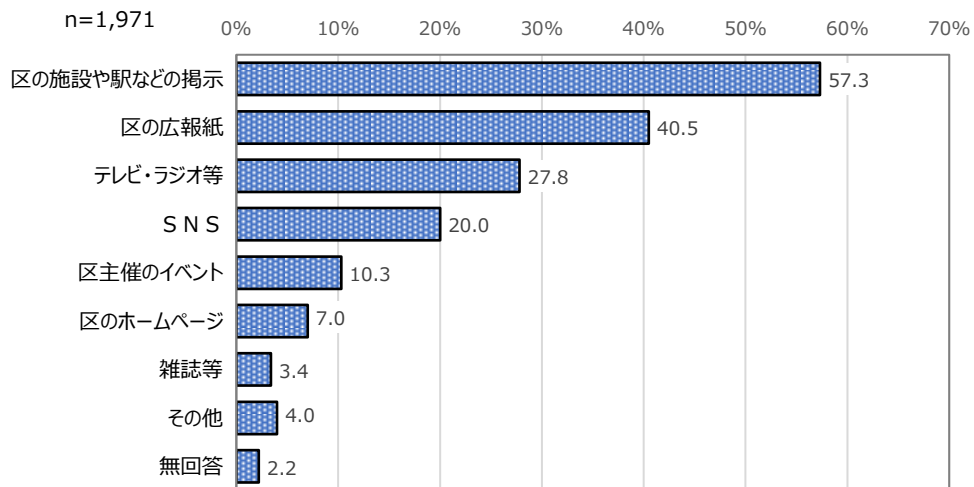


【その他の回答】
 駅・バス停の広告・掲示板、街中のポスター・看板、バス・電車等の交通機関の車内や外側、デジタルサイネージ(渋谷駅・スクランブルスクエアなど)、学校・保育園での掲示・配布、区施設での掲示、スクランブル交差点付近での広告、YouTube・インスタ など

図Ⅲ-4-8 令和元年調査 基本構想とスローガンの広報手段



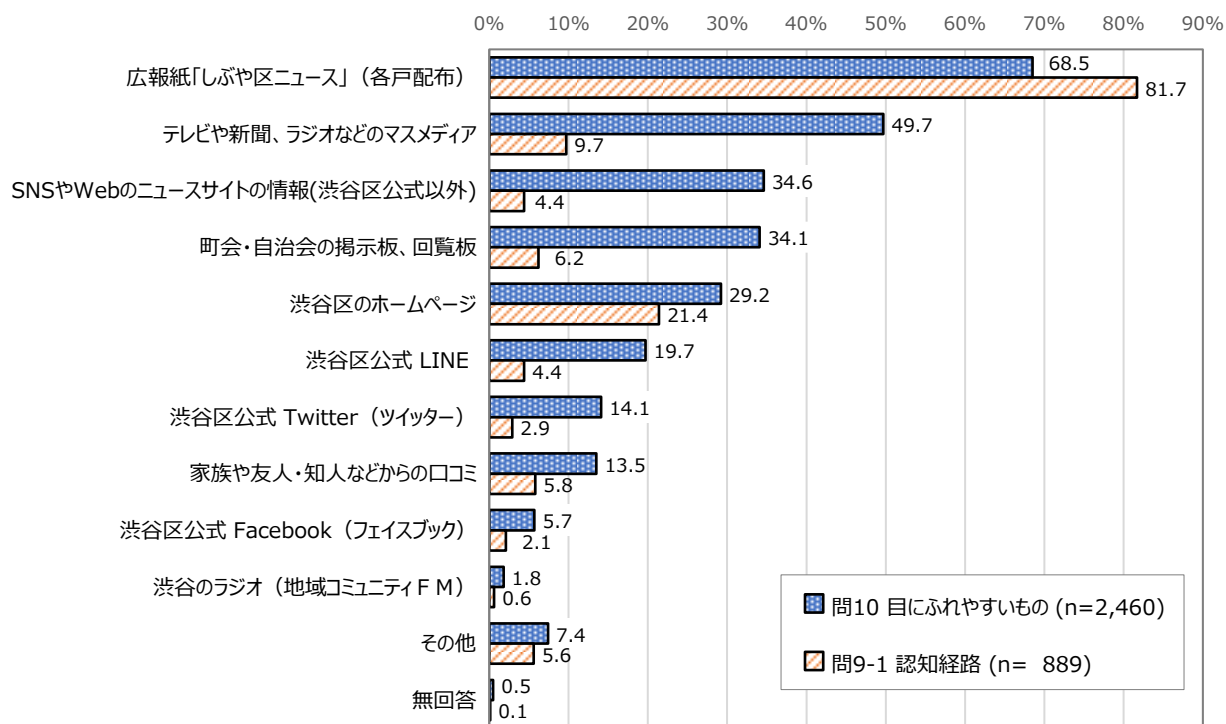
<参考資料>平成30年調査 基本構想とスローガンの広報手段(答えは2つまで)



【認知経路との比較】

問 9-1 基本構想とスローガンの認知経路と比較すると、1位はどちらも「広報紙『しぶや区ニュース』（各戸配布）」である。「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」「SNSやWebのニュースサイトの情報（渋谷区公式以外）」「町会・自治会の掲示板、回覧板」は3割以上が目につれやすいものに挙げているが、現状の認知経路としては1割未満にとどまっている。

図Ⅲ-4-9 基本構想とスローガンの広報手段（認知経路との比較）



【年齢別】

「広報紙『しぶや区ニュース』（各戸配布）」は20代以上で5割を超え、60代以上は8割を超える。60代以上は「町会・自治会の掲示板、回覧板」も50代以下に比べ高い。「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」はいずれの年代も4割を超える。「SNSやWebのニュースサイトの情報（渋谷区公式以外）」は20代以下と40代が4割を超え、30代も4割弱と高い。「渋谷区のホームページ」は30～60代が3割を超える。

表Ⅲ-4-2 基本構想とスローガンの広報手段（年齢別）

	広報紙 「しぶや 区ニュー ス」（各 戸配 布）	渋谷区 のホーム ページ	渋谷区 公式 Twitter （ツイ ター）	渋谷区 公式 LINE	渋谷区 公式 Facebo ok （フェイ スブッ ク）	渋谷のラ ジオ（地 域コミュ ニティF M）	町会・自 治会の 掲示 板、回 覧板	テレビや 新聞、ラ ジオなど のマスメ ディア	SNSや Webの ニュース サイトの 情報 （渋谷 区公式 以外）	家族や 友人・知 人などか らの口コ ミ	その他	無回答
全 体 (n=2,460)	68.5	29.2	14.1	19.7	5.7	1.8	34.1	49.7	34.6	13.5	7.4	0.5
18歳・19歳 (n=37)	45.9	21.6	27.0	2.7	-	2.7	24.3	64.9	62.2	24.3	8.1	-
20代 (n=259)	55.2	22.8	27.4	23.9	5.8	2.7	23.6	54.8	42.9	20.1	5.8	-
30代 (n=414)	59.2	30.2	19.3	29.5	7.5	1.7	26.1	47.1	38.2	14.5	10.1	-
40代 (n=556)	64.9	31.8	16.9	21.4	6.3	0.7	31.1	45.5	40.1	14.2	10.1	-
50代 (n=569)	70.5	32.0	12.1	19.5	6.0	2.8	35.1	50.8	36.7	11.8	7.4	-
60代 (n=400)	83.3	31.8	4.8	14.0	4.5	1.3	41.5	52.8	27.3	10.8	4.8	0.8
70歳以上 (n=222)	82.4	17.1	2.3	5.9	2.7	1.4	54.5	48.6	8.1	10.4	2.7	4.5

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

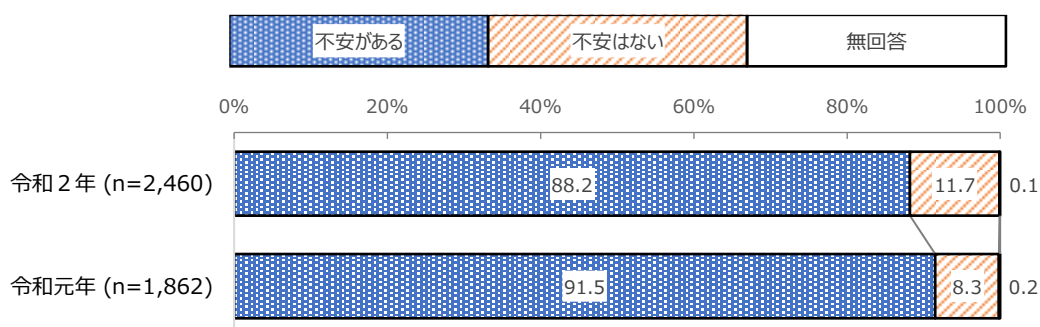
5. 高齢者施策について

(1) 介護に対する不安

問 11 あなたご自身またはご家族に介護が必要となった場合、不安はありますか。すでに介護が必要な場合を含めてお答えください。(答は1つ)

「不安がある」が88.2%を占める。「不安はない」は11.7%である。
令和元年調査と比較すると、「不安がある」がわずかに減少している。

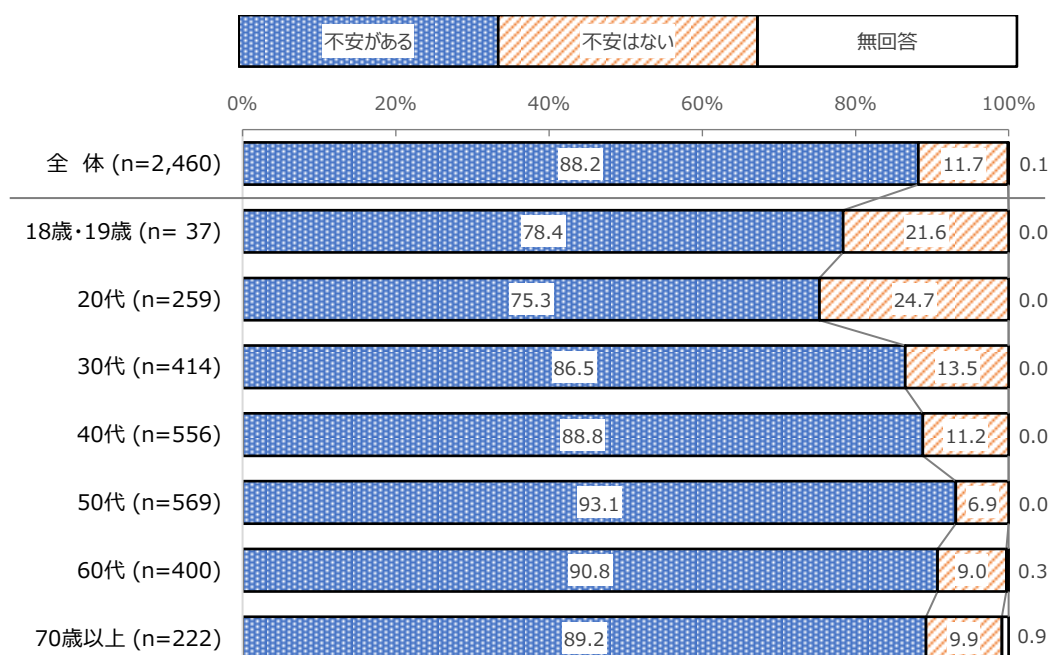
図Ⅲ-5-1 介護に対する不安



【年齢別】

「不安がある」は20代以下が7割台後半、30～40代と70歳以上が8割台後半、50～60代が9割を超え、年齢に関わらず介護に対して不安を持っている人が多いことがわかる。

図Ⅲ-5-2 介護に対する不安(年齢別)



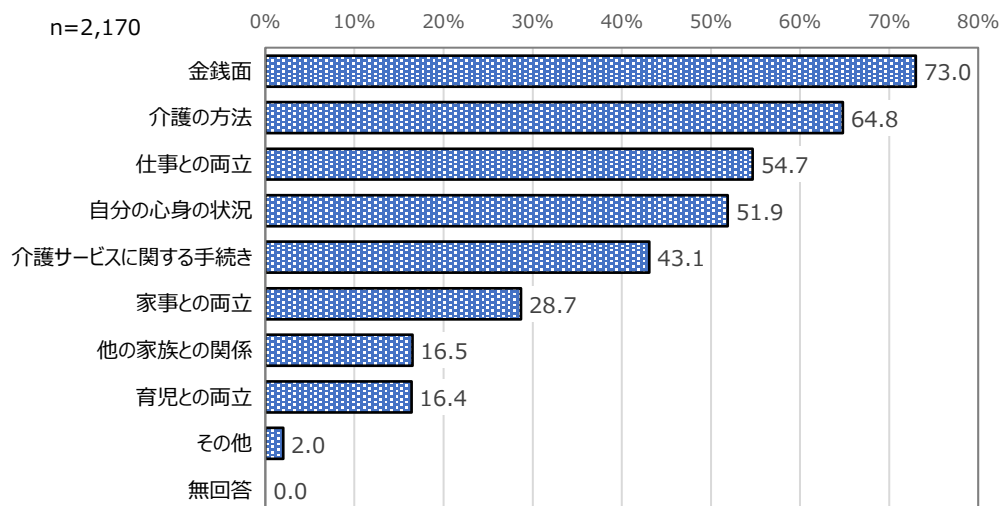
(2) 介護に対する不安の具体的な内容

問 11-1 具体的にはどのような不安がありますか。(答はいくつでも) [問 11 で「不安がある」と回答した方対象]

「金銭面」が 73.0%で最も高く、次いで、「介護の方法」(64.8%)が高い。以下、「仕事との両立」(54.7%)、「自分の心身の状況」(51.9%)、「介護サービスに関する手続き」(43.1%)などが続く。

令和元年調査と比較すると、傾向はほとんど同じである。

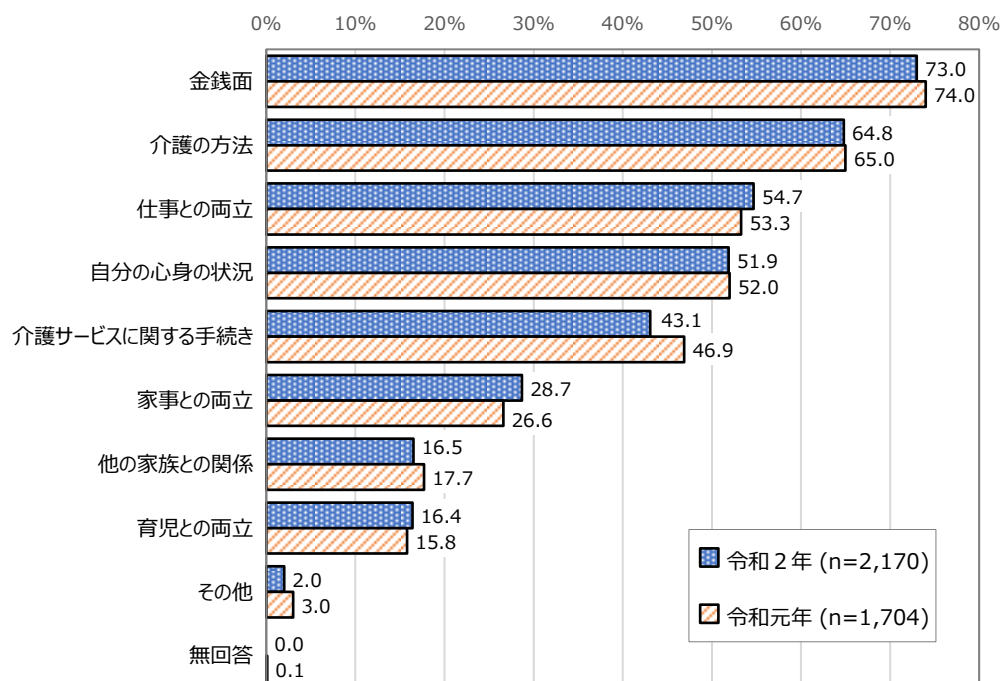
図Ⅲ-5-3 介護に対する不安の具体的な内容



[その他の回答]

施設（施設不足、順番待ち、質）、介護サービス（内容、受けられるか）、介護職・医療従事者（質、増員）、介護者と被介護者の心身の状況、住居、子供・世話をしてくれる人がいない、家族の負担の大きさ、漠然とした不安 など

図Ⅲ-5-4 介護に対する不安の具体的な内容(平成元年調査との比較)



【年齢別】

全般的に若い世代の方が高い傾向にあり、回答数が30以上の20代以上でみると、「金銭面」は30代以下が8割台、40～50代が7割台、「仕事との両立」は20～40代が7割台と高い。「家事との両立」は20～40代が3割を超える。「介護サービスに関する手続き」は高齢者の方が高く、60代以上が5割前後である。「介護の方法」や「自分の心身の状況」は年代による差は小さい。

表Ⅲ-5-1 介護に対する不安の具体的な内容(年齢別)

	金銭面	介護の方法	自分の心身の状況	仕事との両立	家事との両立	育児との両立	他の家族との関係	介護サービスに関する手続き	その他	無回答
全体 (n=2,170)	73.0	64.8	51.9	54.7	28.7	16.4	16.5	43.1	2.0	0.0
18歳・19歳 (n=29)	86.2	75.9	55.2	62.1	27.6	27.6	31.0	<u>37.9</u>	3.4	-
20代 (n=195)	80.5	64.6	54.9	77.4	35.4	20.0	14.9	<u>30.8</u>	2.1	-
30代 (n=358)	82.4	69.6	54.7	74.9	40.8	36.6	20.7	38.3	0.6	-
40代 (n=494)	75.9	64.8	48.0	70.0	36.4	28.3	17.6	43.9	1.4	-
50代 (n=530)	74.7	64.9	48.3	55.5	<u>23.6</u>	<u>6.2</u>	16.6	43.8	3.0	-
60代 (n=363)	<u>62.0</u>	61.4	56.7	<u>24.8</u>	<u>16.0</u>	<u>0.8</u>	15.4	48.5	1.9	-
70歳以上 (n=198)	<u>55.1</u>	60.1	54.0	<u>10.1</u>	<u>18.7</u>	<u>1.0</u>	<u>7.1</u>	50.5	3.0	0.5

注) 表中の **■** は全体より5ポイント以上高い、■ は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【世帯構成別・共働きの有無別】

世帯構成別にみると、「介護の方法」と「家事との両立」は二世世代家族と三世世代家族で高く、「育児との両立」は二世世代家族が3割を超え高い。

共働きの有無別にみると、共働きは全体に比べ「仕事との両立」「家事との両立」「育児との両立」が高い。また、「金銭面」は共働きではないに比べると共働きの方が高いことがわかる。共働きではないは「介護の方法」が最も高い。

表Ⅲ-5-2 介護に対する不安の具体的な内容(世帯構成別・共働きの有無別)

	金銭面	介護の方法	自分の心身の状況	仕事との両立	家事との両立	育児との両立	他の家族との関係	介護サービスに関する手続き	その他	無回答
全体 (n=2,170)	73.0	64.8	51.9	54.7	28.7	16.4	16.5	43.1	2.0	0.0
一人暮らし (n=484)	76.2	<u>59.7</u>	55.0	57.4	<u>17.1</u>	<u>3.5</u>	11.6	41.9	2.7	0.2
夫婦のみ (n=534)	<u>66.9</u>	63.9	48.9	<u>45.5</u>	26.4	<u>5.6</u>	14.6	44.2	2.2	-
二世世代家族(親と子ども) (n=952)	74.1	67.5	52.7	58.8	36.1	30.4	20.0	42.6	1.5	-
三世世代家族(親と子どもと孫) (n=93)	71.0	69.9	<u>45.2</u>	52.7	35.5	16.1	20.4	45.2	1.1	-
パートナーなどとの共同生活 (n=55)	89.1	63.6	52.7	63.6	<u>20.0</u>	<u>1.8</u>	12.7	40.0	1.8	-
その他 (n=52)	75.0	63.5	50.0	<u>42.3</u>	<u>21.2</u>	<u>7.7</u>	13.5	50.0	3.8	-
共働き (n=807)	74.3	62.6	<u>46.7</u>	70.3	38.4	29.2	18.5	40.3	1.6	-
共働きではない (n=517)	<u>63.2</u>	69.2	52.8	<u>21.1</u>	25.7	12.4	17.6	47.2	1.4	-

注) 表中の **■** は全体より5ポイント以上高い、■ は全体より5ポイント以上低いことを示す。

(3) 渋谷区が優先的に取り組むべき高齢者施策

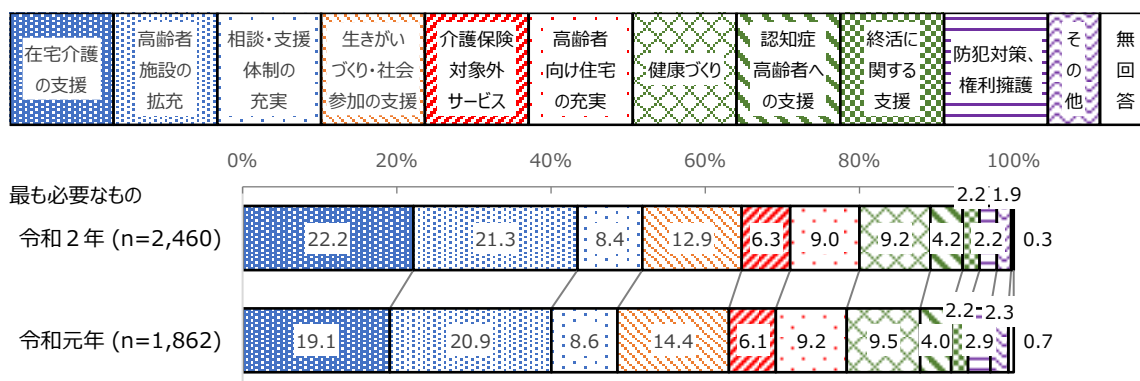
問 12 これからの高齢者施策で渋谷区が優先的に取り組む必要があるものは何ですか。最も必要なもの、次に必要なもの、三番目に必要なものを、それぞれ教えてください。(答はそれぞれ1つ)

最も必要なものは「在宅介護の支援(在宅で生活が続けられる介護・医療サービス、家族介護者への支援)」(22.2%)、「高齢者施設の拡充(特別養護老人ホーム、通いで介護を受けられる(デイサービス等)施設の充実)」(21.3%)がそれぞれ2割を超える。

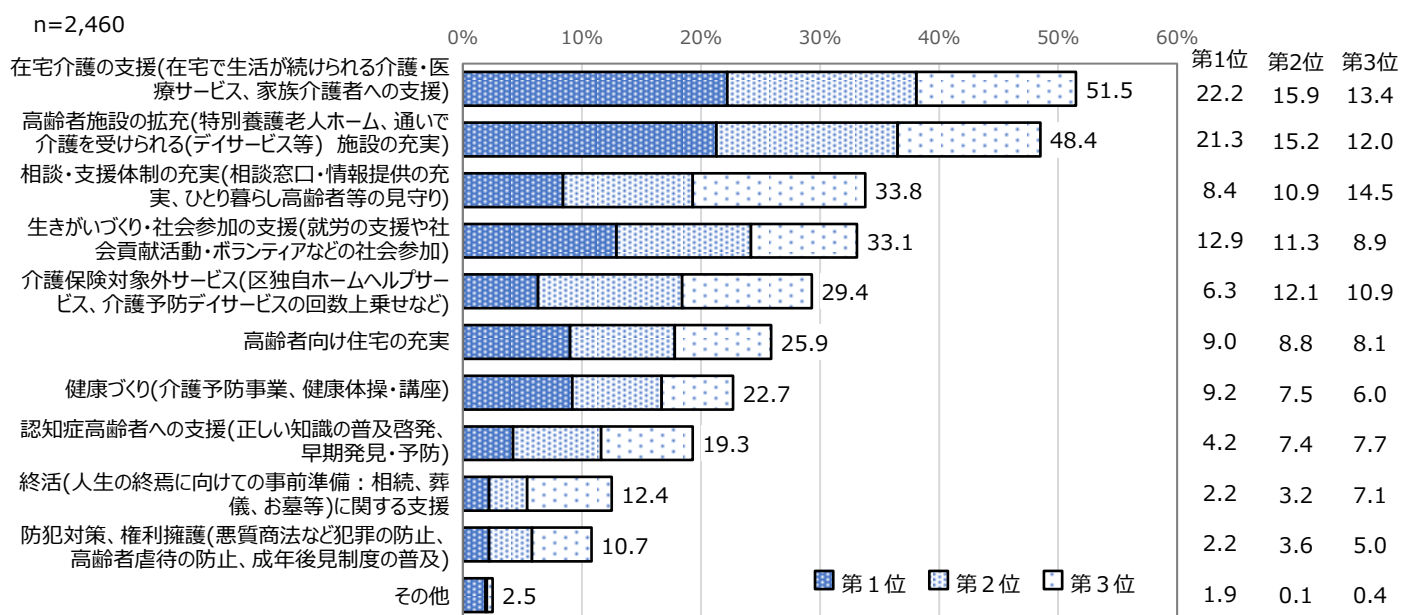
最も必要なものから三番目に必要なものまでを合わせると、「在宅介護の支援」(51.5%)が5割を超えて最も高く、次いで、「高齢者施設の拡充」(48.4%)が高い。以下、「相談・支援体制の充実(相談窓口・情報提供の充実、ひとり暮らし高齢者等の見守り)」(33.8%)、「生きがいづくり・社会参加の支援(就労の支援や社会貢献活動・ボランティアなどの社会参加)」(33.1%)などが続く。

令和元年調査と比較すると、「在宅介護の支援」がわずかに増加しているものの、ほぼ傾向は同じである。

図Ⅲ-5-5 渋谷区が優先的に取り組むべき高齢者施策(最も必要なもの)



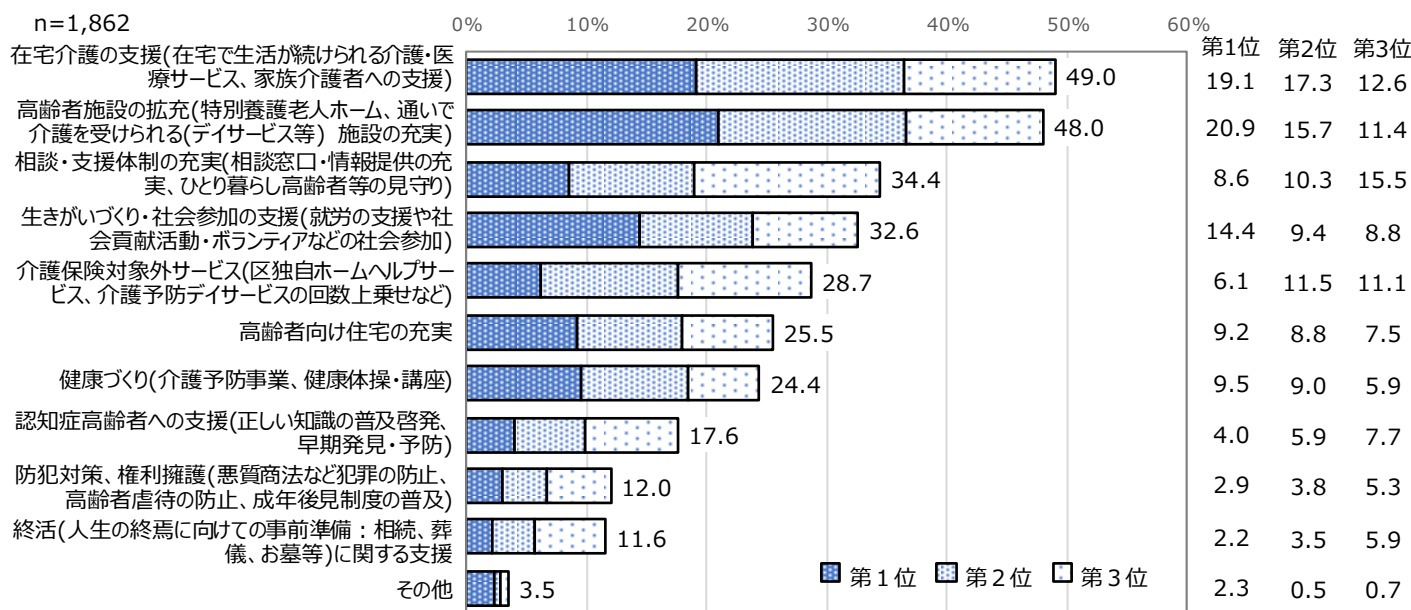
図Ⅲ-5-6 渋谷区が優先的に取り組むべき高齢者施策



【その他の回答】

金銭面の支援・減税、地域ネットワーク・コミュニティ形成、医療・介護従事者の待遇改善・人材確保、高齢者の活用、買物環境・道路・交通機関の整備、ITの普及・医療との連携、若者世代・子育て支援 など

図Ⅲ-5-7 令和元年調査 渋谷区が優先的に取り組むべき高齢者施策



【年齢別】

「在宅介護の支援」は30代以上が5割を超え、「高齢者施設の拡充」は50代以上が5割を超える。「生きがいづくり・社会参加の支援」は若い世代の方が高く、20代以下が4割台、30～50代が3割台である。「高齢者向け住宅の充実」は40～50代が3割強で他年代より高い。「相談・支援体制の充実」はいずれの年代も3割弱～3割半ばである。

表Ⅲ-5-3 渋谷区が優先的に取り組むべき高齢者施策(年齢別)

	生きがいづくり・社会参加の支援	健康づくり	在宅介護の支援	介護保険対象外サービス	認知症高齢者への支援	高齢者施設の拡充	高齢者向け住宅の充実	相談・支援体制の充実	防犯対策、権利擁護	終活に関する支援	その他	無回答
全体 (n=2,460)	33.1	22.7	51.5	29.4	19.3	48.4	25.9	33.8	10.7	12.4	2.5	0.3
18歳・19歳 (n=37)	40.5	18.9	<u>32.4</u>	<u>24.3</u>	29.7	<u>35.1</u>	27.0	29.7	29.7	16.2	2.7	-
20代 (n=259)	49.0	30.5	<u>43.2</u>	27.8	17.0	<u>37.1</u>	<u>19.7</u>	34.7	10.0	13.1	3.1	-
30代 (n=414)	37.9	30.4	50.2	30.0	15.9	44.9	23.4	30.0	12.3	10.6	3.9	-
40代 (n=556)	36.7	19.2	51.4	30.0	17.6	48.4	30.9	34.2	9.9	12.4	2.5	-
50代 (n=569)	30.1	18.6	53.1	30.8	20.6	51.1	31.5	34.3	12.1	11.2	2.3	-
60代 (n=400)	<u>26.3</u>	22.5	56.3	30.3	20.3	55.5	21.5	35.3	8.5	12.5	2.0	0.5
70歳以上 (n=222)	<u>15.8</u>	19.8	54.1	<u>24.3</u>	25.7	50.0	<u>18.5</u>	35.1	8.1	17.1	0.5	2.7

注) 表中の **■** は全体より5ポイント以上高い、■ は全体より5ポイント以上低いことを示す。

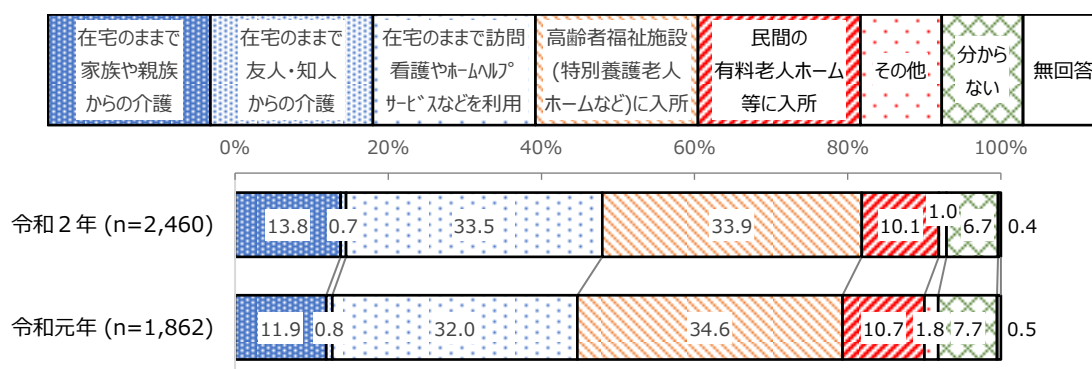
(4) 将来望む介護

問 13 あなたが将来介護を必要とする状況になった場合、どのような介護を最も望みますか。現在介護を受けている方も、最も望む介護をお選びください。(答は1つ)

「高齢者福祉施設(特別養護老人ホームなど)に入所」(33.9%)と「在宅のままで訪問看護やホームヘルプサービスなどを利用」(33.5%)が3割を超える。在宅のままの介護を希望する人と施設への入所を希望する人の割合は拮抗している。

令和元年調査と比較すると、在宅のままで介護を希望する人の割合がやや増加している。

図Ⅲ-5-8 将来望む介護

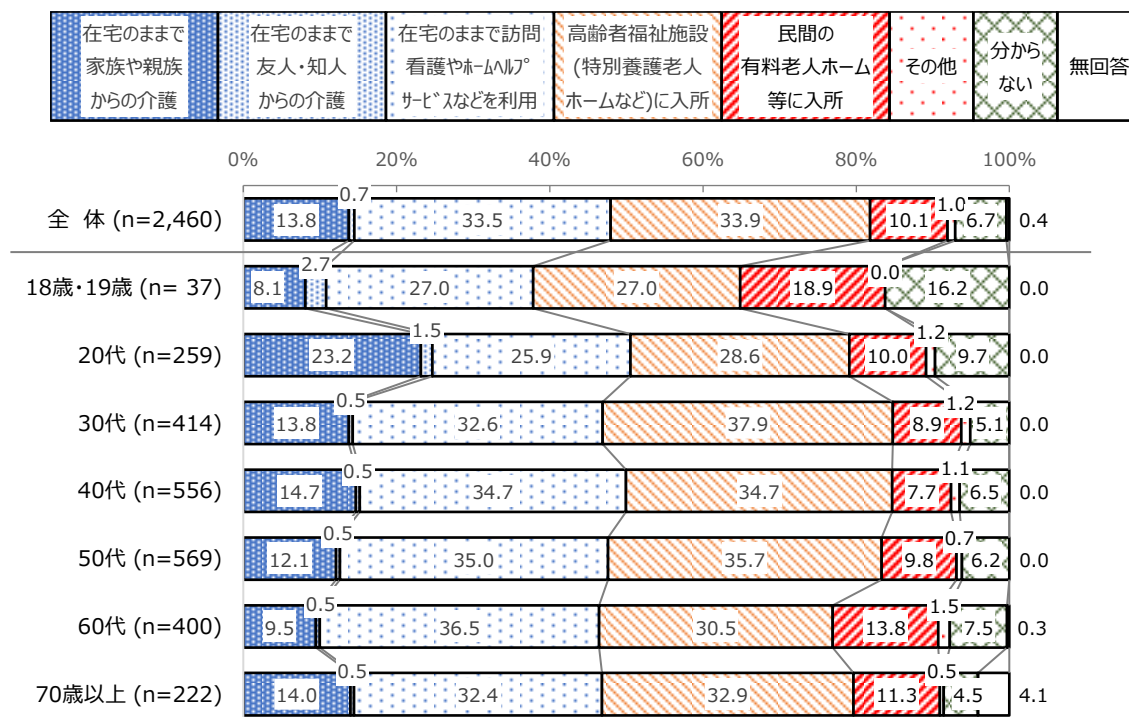


【その他の回答】
安楽死・尊厳死、早く死にたい、高齢者専用マンション・団地に住みたい、田舎に帰る、ロボットによる介護、区職員による在宅介護補助 など

【年齢別】

いずれの年代も「高齢者福祉施設に入所」と「在宅のままで訪問看護やホームヘルプサービスなどを利用」が上位2位を占めるが、60代は「在宅のままで訪問看護やホームヘルプサービスなどを利用」の方が割合が高く、30代は「高齢者福祉施設に入所」の方が高い。その他の年代は両者が拮抗している。また、20代は「在宅のままで家族や親族からの介護」が2割を超え、他年代より高い。

図Ⅲ-5-9 将来望む介護(年齢別)



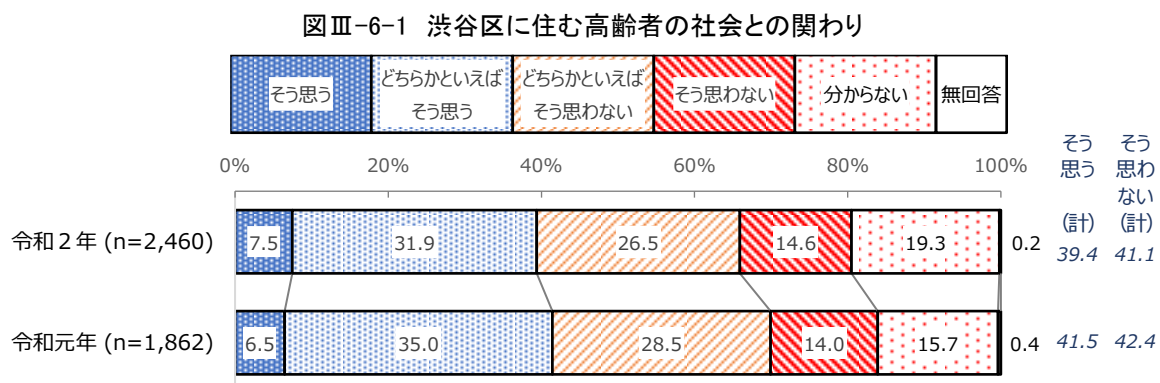
6. アクティブシニアについて

(1) 渋谷区に住む高齢者の社会との関わり

問 14 あなたは、渋谷区に住む高齢者が、地域の多様な活動や区主催の事業への参加などを通じて、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思いますか。若年層の方は、ご家族や近所の方など、身の回り的高齢者を想定してお答えください。(答は1つ)

「どちらかといえばそう思う」が31.9%で最も高い。「そう思う(計)」「(そう思う)+(どちらかといえばそう思う)」は39.4%で、「そう思わない(計)」「(どちらかといえばそう思わない)+(そう思わない)」の41.1%と拮抗している。

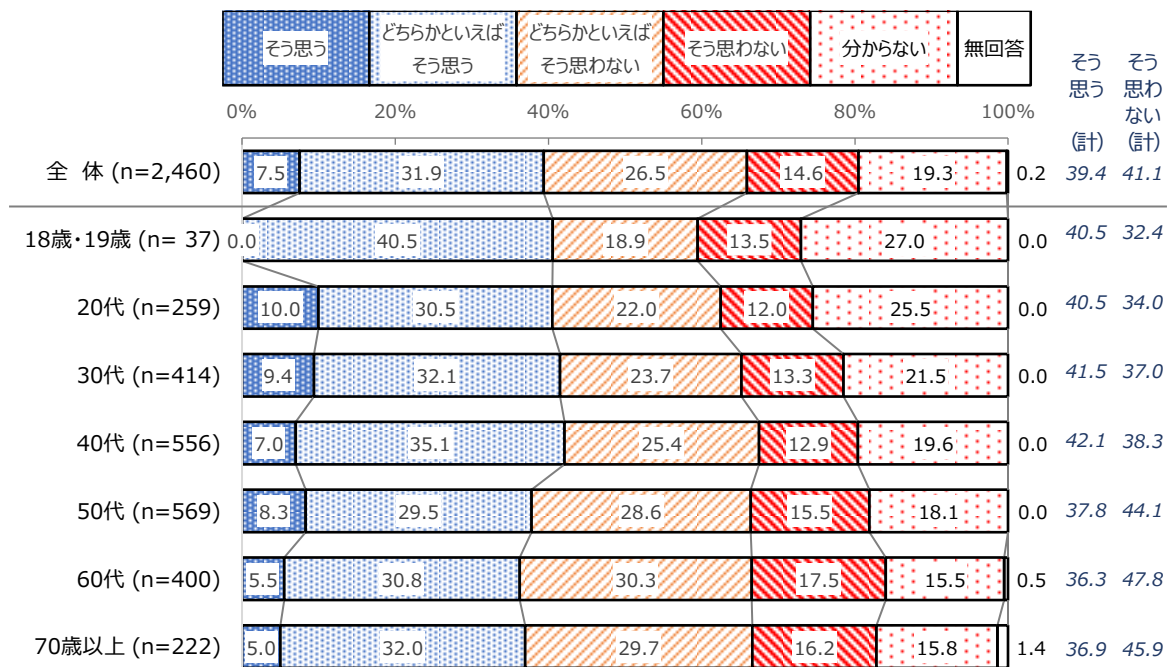
令和元年調査と比較すると、「分からない」がやや増加し、「どちらかといえばそう思う」ややが減少しているが、傾向はほぼ同じである。



【年齢別】

50代以上は「そう思わない(計)」が4割を超え、「そう思う(計)」より高い。40代以下は「そう思う(計)」が4割を超え、「そう思わない(計)」より高いが、30～40代は20代以下に比べその差は小さい。

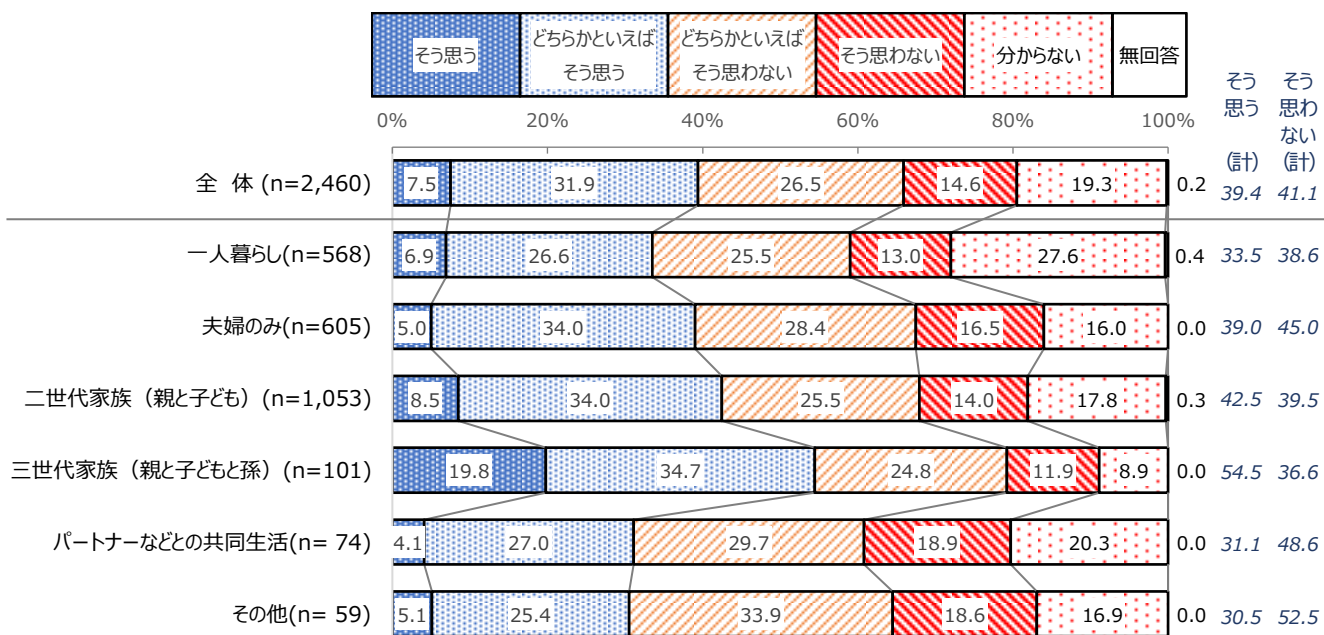
図Ⅲ-6-2 渋谷区に住む高齢者の社会との関わり(年齢別)



【世帯構成別】

三世代家族は「そう思う」が 19.8%で他層より倍以上高く、「そう思う(計)」も 54.5%を占める。二世世代家族も「そう思う(計)」が 42.5%で三世代家族に次いで高い。

図Ⅲ-6-3 渋谷区に住む高齢者の社会との関わり(世帯構成別)



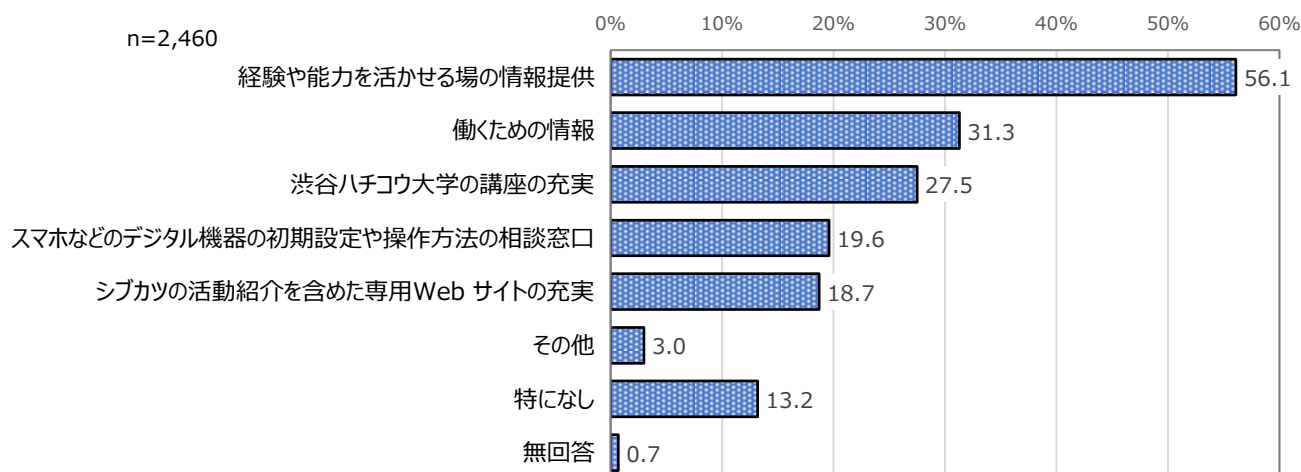
(2) シブカツに今後期待すること

問 15 プレシニア世代からアクティブシニア世代の方がいつまでも楽しく元気に活躍し続けられるように、皆様がお持ちの経験や能力を活かすことができる機会や新たな学びの場などを提供する「渋谷生涯活躍ネットワーク・シブカツ(通称シブカツ)」を、令和元年7月から渋谷ヒカリエ8階に開設しました。また、シブカツでは区内の大学や民間企業等と連携し、今までにない新しい学びのカたち「渋谷ハチコウ大学」を開講しています。あなたは、今後どのようなことをシブカツに期待しますか。(答はいくつでも)

「経験や能力を活かせる場の情報提供」が 56.1%で最も高い。次いで、「働くための情報」(31.3%)が高く、情報提供への期待が高い。以下、「渋谷ハチコウ大学の講座の充実」(27.5%)、「スマホなどのデジタル機器の初期設定や操作方法の相談窓口」(19.6%)、「シブカツの活動紹介を含めた専用 Web サイトの充実」(18.7%)と続く。

令和元年調査は選択肢が一部異なるため直接的な比較はできないが、令和元年も「経験や能力を活かせる場の情報提供」が5割を超え最も高く、次いで、「働くための情報提供」が高い。

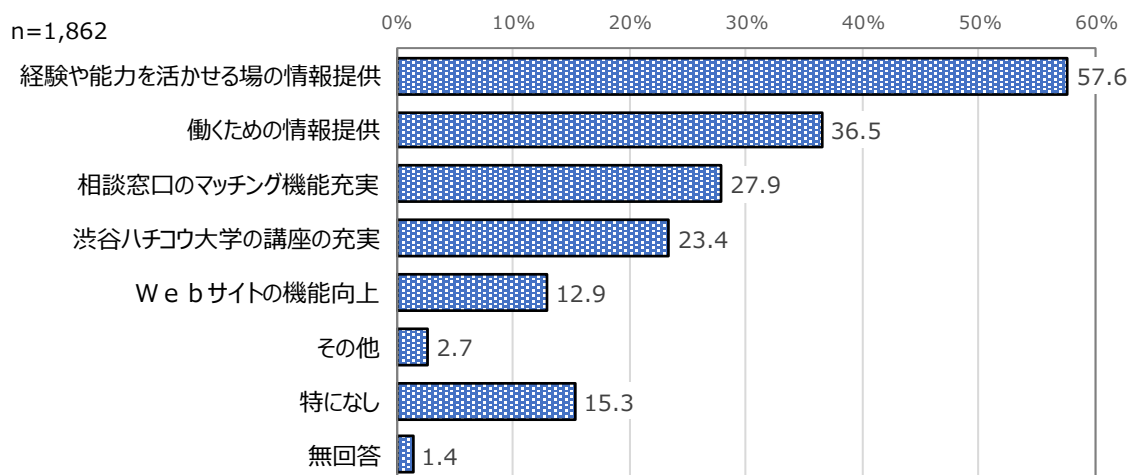
図Ⅲ-6-4 シブカツに今後期待すること



【その他の回答】

広報活動、コミュニティ作り/幅広い世代との交流、会場を増やす/地域での参加、働く場の提供/経験を生かし若者世代の支援活動、起業/スタートアップとのマッチング、安価で習いたい/金銭的支援、ネット・スマホの活用/オンライン講座、現代的な感覚を養うことができる講座 など

<参考資料> 令和元年調査 シブカツに今後期待すること



【年齢別】

「経験や能力を活かせる場の情報提供」は 30～40 代が6割を超え、50 代も6割弱と高い。「働くための情報」は 18 歳・19 歳と 50 代が4割を超え、30～40 代が3割半ばである。「スマホなどのデジタル機器の初期設定や操作方法の相談窓口」は 70 歳以上が3割半ばで、60 代以下に比べ高い。

表Ⅲ-6-1 シブカツに今後期待すること(年齢別)

	経験や能力を活かせる場の情報提供	渋谷ハチコウ大学の講座の充実	働くための情報	スマホなどのデジタル機器の初期設定や操作方法の相談窓口	シブカツの活動紹介を含めた専用 Web サイトの充実	その他	特になし	無回答
全体 (n=2,460)	56.1	27.5	31.3	19.6	18.7	3.0	13.2	0.7
18歳・19歳 (n=37)	<u>45.9</u>	<u>21.6</u>	45.9	<u>10.8</u>	<u>13.5</u>	-	27.0	-
20代 (n=259)	52.1	<u>18.5</u>	<u>25.1</u>	19.3	<u>10.8</u>	1.9	24.3	-
30代 (n=414)	61.8	23.4	36.7	19.1	<u>12.8</u>	2.4	14.7	-
40代 (n=556)	63.3	29.3	35.8	20.1	18.9	3.4	10.4	-
50代 (n=569)	59.4	31.5	40.1	15.8	20.9	3.5	<u>7.0</u>	-
60代 (n=400)	52.5	31.3	<u>21.8</u>	16.3	28.3	2.8	13.3	0.5
70歳以上 (n=222)	<u>31.5</u>	25.7	<u>8.6</u>	36.0	17.1	3.6	17.6	6.3

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【職業別】

「経験や能力を活かせる場の情報提供」は会社員と会社役員が6割を超え、自営業や公務員も5割台後半で高い。「働くための情報」はアルバイト・パートタイマーが4割強で最も高く、次いで会社員が3割半ばで高い。「渋谷ハチコウ大学の講座の充実」は専業主婦(主夫)が4割弱で最も高い。

表Ⅲ-6-2 シブカツに今後期待すること(職業別)

	経験や能力を活かせる場の情報提供	渋谷ハチコウ大学の講座の充実	働くための情報	スマホなどのデジタル機器の初期設定や操作方法の相談窓口	シブカツの活動紹介を含めた専用 Web サイトの充実	その他	特になし	無回答
全体 (n=2,460)	56.1	27.5	31.3	19.6	18.7	3.0	13.2	0.7
自営業 (n=286)	57.3	27.6	<u>26.2</u>	19.9	21.3	2.8	11.5	0.7
会社員 (n=1,055)	63.0	26.7	37.3	19.1	16.0	2.7	12.4	0.2
公務員 (n= 75)	58.7	<u>18.7</u>	32.0	<u>12.0</u>	18.7	-	12.0	-
会社役員 (n=151)	64.2	29.1	<u>25.8</u>	<u>13.9</u>	25.2	2.6	11.9	0.7
アルバイト・パートタイマー (n=206)	<u>51.0</u>	32.0	41.3	18.9	17.0	2.9	9.7	0.5
専業主婦(主夫) (n=276)	<u>46.4</u>	38.0	<u>21.4</u>	21.0	23.9	1.8	11.6	1.1
学生 (n= 97)	<u>48.5</u>	<u>15.5</u>	32.0	20.6	<u>12.4</u>	-	25.8	-
無職 (n=213)	<u>38.5</u>	23.0	<u>17.4</u>	25.4	20.2	6.6	17.8	3.3
その他 (n= 99)	<u>46.5</u>	23.2	<u>24.2</u>	20.2	23.2	8.1	18.2	-

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

7. 渋谷区喫煙ルールについて

(1) 「渋谷区喫煙ルール」認知状況

問 16 渋谷区では、平成31年4月より『きれいなまち渋谷をみんなで作る条例』改正に伴い、「屋外の公共の場所では喫煙しない」「たばこは決められた場所のみで吸うことができる」という『渋谷区喫煙ルール』を新たに定めました。あなたは、この『渋谷区喫煙ルール』をどの程度知っていますか。(答はいくつでも)

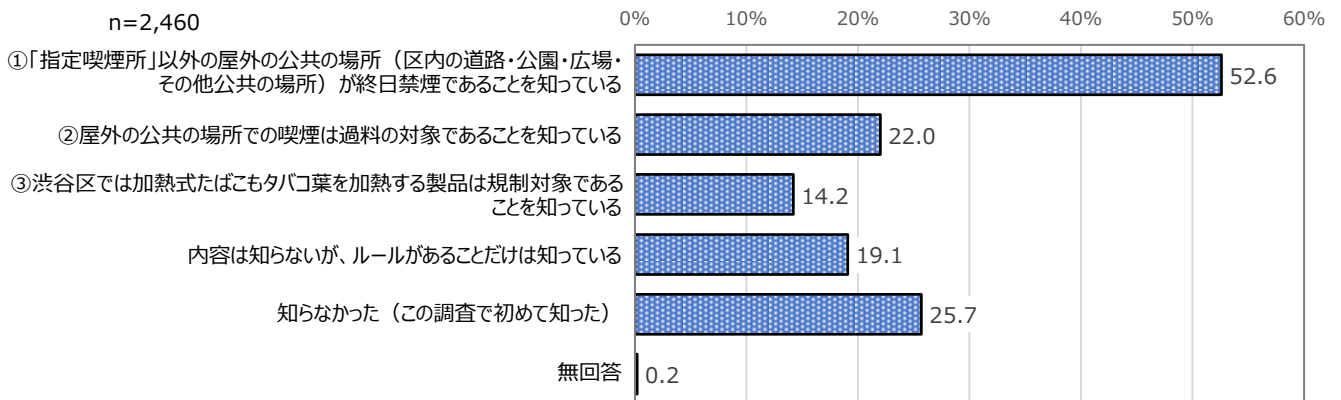
渋谷区喫煙ルールの中では、「①『指定喫煙所』以外の屋外の公共の場所(区内の道路・公園・広場・その他公共の場所)が終日禁煙であることを知っている」が 52.6%で最も高く、次いで、「②屋外の公共の場所での喫煙は過料の対象であることを知っている」(22.0%)が高い。「③渋谷区では加熱式たばこもタバコ葉を加熱する製品は規制対象であることを知っている」は 14.2%にとどまっている。

「内容は知らないが、ルールがあることだけは知っている」は 19.1%、「知らなかった(この調査で初めて知った)」は 25.7%である。

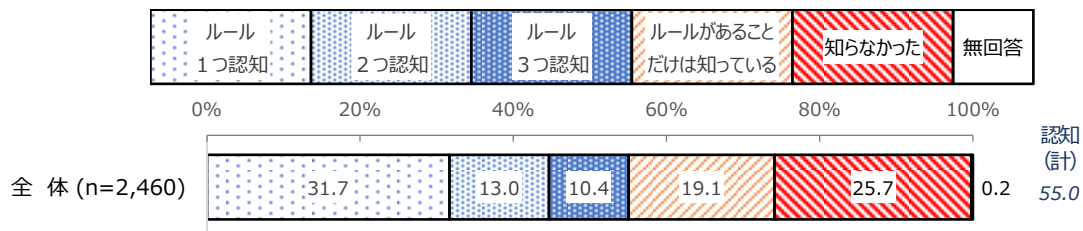
渋谷区喫煙ルール①～③の認知数でみると、「ルール1つ認知」が31.7%で最も高い。「ルール2つ認知」は 13.0%、「ルール3つ認知」は 10.4%である。「認知(計)」(ルールを1つ以上認知)は 55.0%である。

令和元年調査では質問が異なるため直接的な比較はできないが、「知らなかった(この調査で初めて知った)」の割合は減少していることがうかがえる。

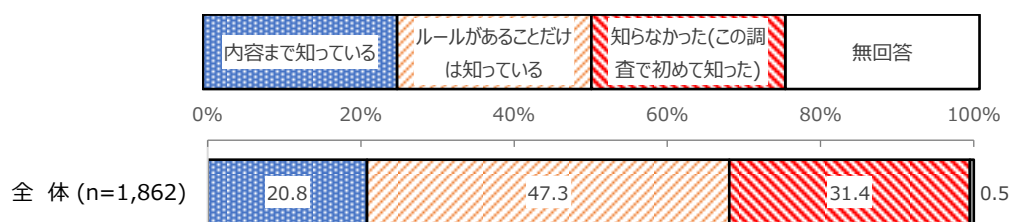
図Ⅲ-7-1 「渋谷区喫煙ルール」認知状況



図Ⅲ-7-2 「渋谷区喫煙ルール」認知状況(ルール認知数)



<参考資料> 令和元年調査 「渋谷区喫煙ルール」認知度



【年齢別】

『指定喫煙所』以外の屋外の公共の場所が終日禁煙であることを知っている」は 60 代以上が6割前後で高く、20 代と 50 代も5割を超える。「屋外の公共の場所での喫煙は過料の対象であることを知っている」は 18 歳・19 歳が2割半ばで最も高く、60 代以下が2割を超える。「渋谷区では加熱式たばこもタバコ葉を加熱する製品は規制対象であることを知っている」はいずれの年代も1割半ばである。「知らなかった」は 40 代以下が3割前後で 50 代以上に比べ高い。

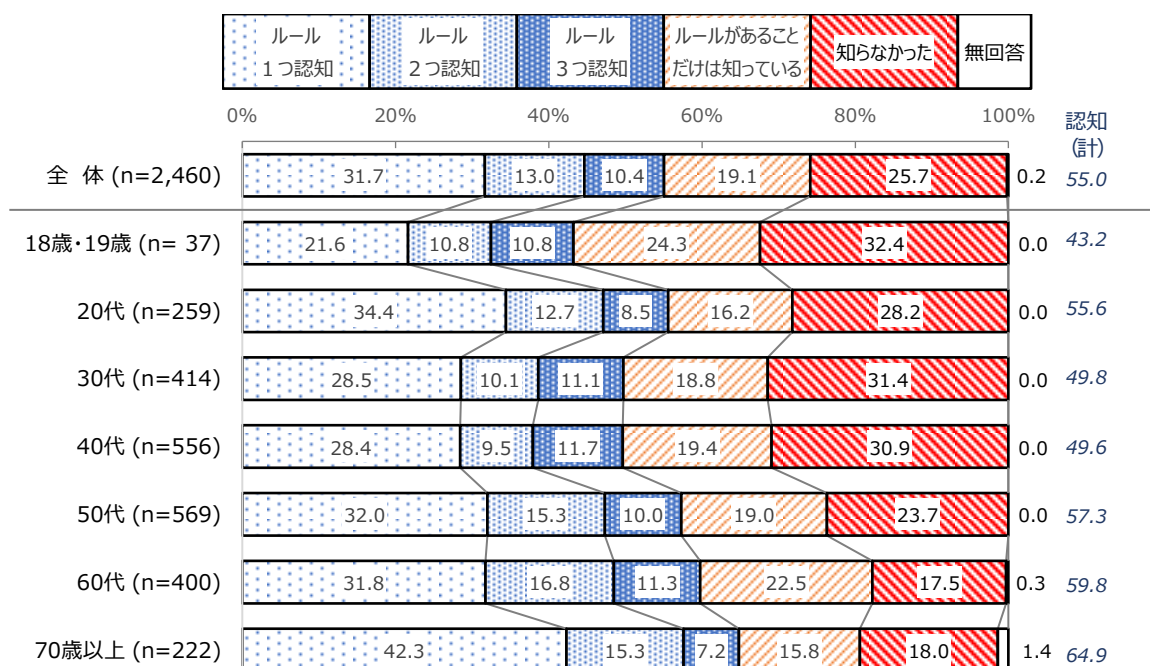
「認知(計)」は 70 歳以上が6割半ばで最も高く、20 代と 50～60 代が5割台である。

表Ⅲ-7-1 「渋谷区喫煙ルール」認知状況(年齢別)

	「指定喫煙所」以外の屋外の公共の場所(区内の道路・公園・広場・その他公共の場所)が終日禁煙であることを知っている	屋外の公共の場所での喫煙は過料の対象であることを知っている	渋谷区では加熱式たばこもタバコ葉を加熱する製品は規制対象であることを知っている	内容は知らないが、ルールがあることだけは知っている	知らなかった(この調査で初めて知った)	無回答
全体 (n=2,460)	52.6	22.0	14.2	19.1	25.7	0.2
18歳・19歳 (n=37)	<u>32.4</u>	27.0	16.2	24.3	32.4	-
20代 (n=259)	51.0	20.1	14.3	16.2	28.2	-
30代 (n=414)	47.8	20.8	13.5	18.8	31.4	-
40代 (n=556)	47.7	20.9	14.0	19.4	30.9	-
50代 (n=569)	54.8	23.2	14.6	19.0	23.7	-
60代 (n=400)	58.0	26.0	15.0	22.5	<u>17.5</u>	0.3
70歳以上 (n=222)	62.6	18.5	13.5	15.8	<u>18.0</u>	1.4

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

図Ⅲ-7-3 「渋谷区喫煙ルール」認知状況(ルール認知数)(年齢別)



【地区別】

地域による差は小さいが、「『指定喫煙所』以外の屋外の公共の場所が終日禁煙であることを知っている」は「代官山・恵比寿・広尾周辺」が 54.4%で最も高く、「代々木上原・代々木八幡周辺」が 50.7%で最も低い。「屋外の公共の場所での喫煙は過料の対象であることを知っている」は「渋谷駅周辺」が 25.6%で最も高く、「笹塚・幡ヶ谷・初台・本町周辺」が 20.4%で最も低い。

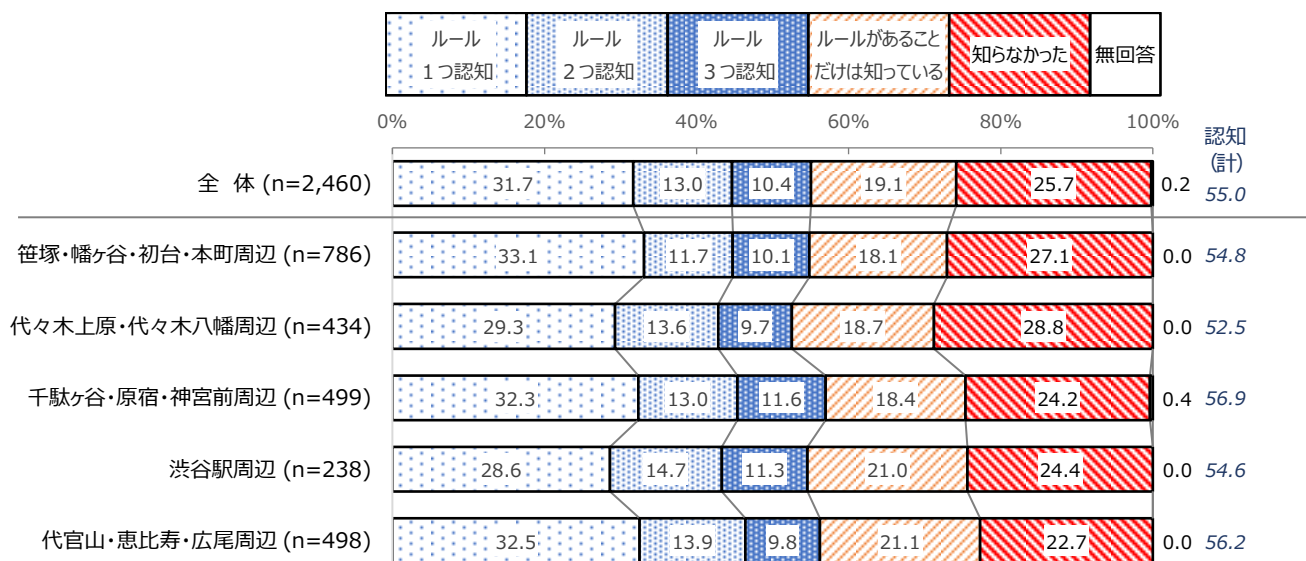
「認知(計)」は「代々木上原・代々木八幡周辺」が 52.5%でやや低く、その他の地域は5割半ばである。

表Ⅲ-7-2 「渋谷区喫煙ルール」認知状況(地区別)

	「指定喫煙所」以外の屋外の公共の場所（区内の道路・公園・広場・その他公共の場所）が終日禁煙であることを知っている	屋外の公共の場所での喫煙は過料の対象であることを知っている	渋谷区では加熱式たばこもタバコ葉を加熱する製品は規制対象であることを知っている	内容は知らないが、ルールがあることだけは知っている	知らなかった（この調査で初めて知った）	無回答
全体 (n=2,460)	52.6	22.0	14.2	19.1	25.7	0.2
笹塚・幡ヶ谷・初台・本町周辺 (n=786)	52.0	20.4	14.2	18.1	27.1	-
代々木上原・代々木八幡周辺 (n=434)	50.7	22.8	12.0	18.7	28.8	-
千駄ヶ谷・原宿・神宮前周辺 (n=499)	53.9	23.2	16.0	18.4	24.2	0.4
渋谷駅周辺 (n=238)	51.7	25.6	14.7	21.0	24.4	-
代官山・恵比寿・広尾周辺 (n=498)	54.4	21.1	14.3	21.1	22.7	-

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

図Ⅲ-7-4 「渋谷区喫煙ルール」認知状況(ルール認知数)(地区別)



(2) 渋谷区に期待する喫煙ルール

問 17 今後、喫煙ルールについて、渋谷区にどのようなことを期待しますか。最も期待すること、次に期待すること、三番目に期待することを、それぞれ教えてください。(答はそれぞれ1つ)

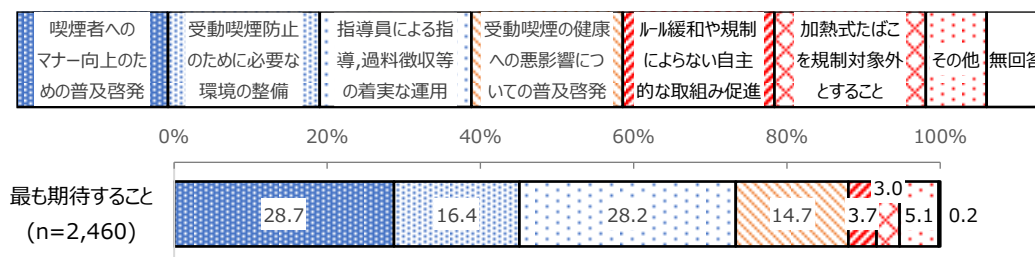
最も期待することは「喫煙者へのマナー向上のための普及啓発」(28.7%)と「指導員の巡回による指導、過料徴収などの着実な運用」(28.2%)が3割弱で高い。

最も期待することから三番目に期待することまでを合わせると、「喫煙者へのマナー向上のための普及啓発」が71.2%で最も高い。以下、「受動喫煙防止のために必要な環境の整備」(60.5%)、「指導員の巡回による指導、過料徴収などの着実な運用」(54.6%)、「受動喫煙による健康への悪影響についての普及啓発」(47.0%)などが続く。

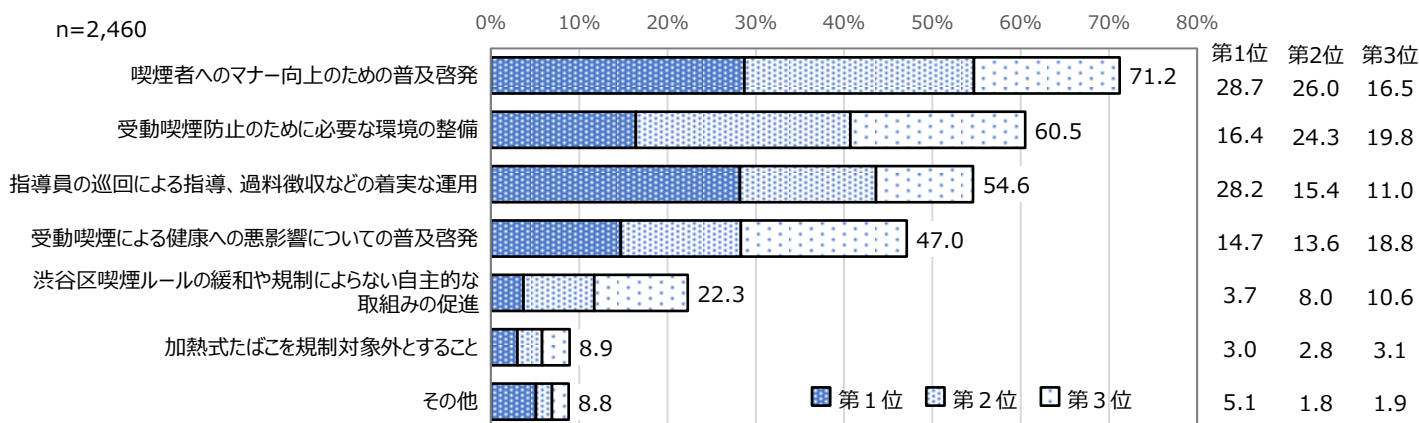
「受動喫煙防止のために必要な環境の整備」は最も期待することでは上位2項目に比べるとやや低いが三番目までを合わせると「喫煙者へのマナー向上のための普及啓発」に次いで高い。また「指導員の巡回による指導、過料徴収などの着実な運用」は最も期待することでは1位の「喫煙者へのマナー向上のための普及啓発」と拮抗していたが三番目までを合わせると3位となり、最も期待することと三番目までを合わせた結果では若干傾向に違いがみられる。

令和元年調査と比較すると、傾向はほぼ同じである。

図Ⅲ-7-5 渋谷区に期待する喫煙ルール(最も期待すること)



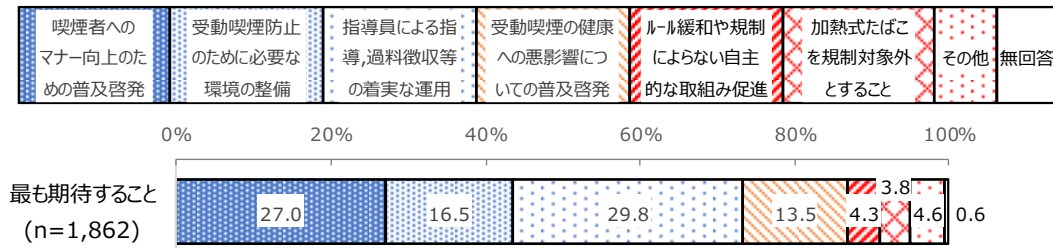
図Ⅲ-7-6 渋谷区に期待する喫煙ルール



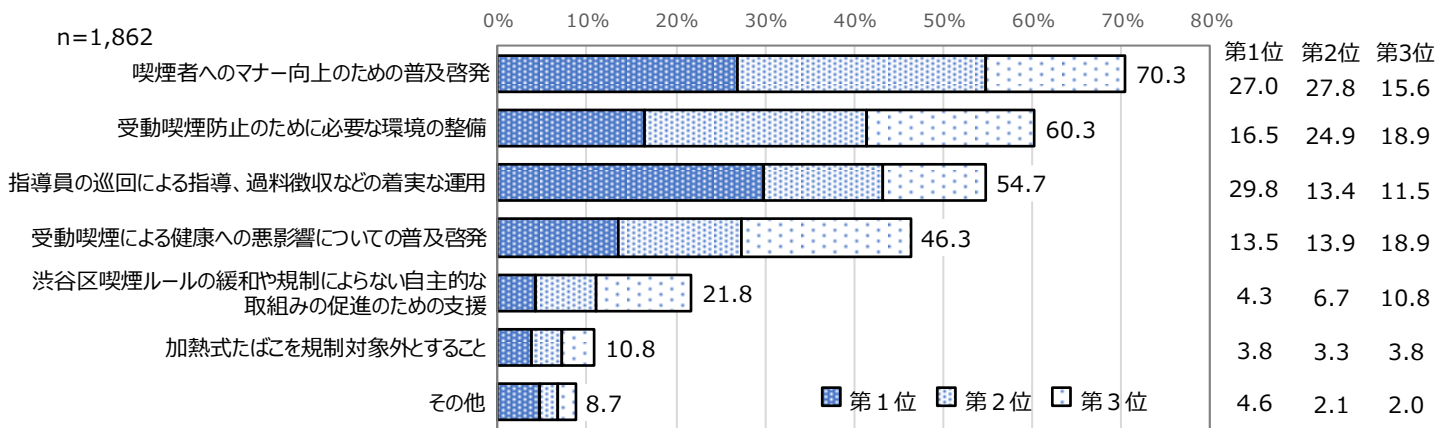
【その他の回答】

喫煙所の充実・整備・美化、取り締まりの徹底・強化、ルールの周知・啓発・教育、罰金・厳罰化、公園・屋外・路上の禁煙、歩きタバコの撲滅、たばこの販売禁止・売買の限定・増税、分煙の徹底、完全禁煙、喫煙所の密閉化、ポイ捨て対策、過剰な規制(はしない)/規制緩和、加熱式たばこの規制維持・強化、屋外喫煙コーナー・駅前の喫煙所撤廃、喫煙場所の明示・情報提供、通報制度/一般人の取締導入 など

図Ⅲ-7-7 令和元年調査 渋谷区に期待する喫煙ルール(最も期待すること)



図Ⅲ-7-8 令和元年調査 渋谷区に期待する喫煙ルール



【年齢別】

「喫煙者へのマナー向上のための普及啓発」は40代以上が7割を超え、30代以下に比べ高い。「受動喫煙防止のために必要な環境の整備」は20代以下が6割半ば～7割強で高い。「指導員の巡回による指導、過料徴収などの着実な運用」は30代が6割半ばで最も高く、「受動喫煙による健康への悪影響についての普及啓発」は70歳以上が6割弱で最も高い。

表Ⅲ-7-3 渋谷区に期待する喫煙ルール(年齢別)

	(%)							
	受動喫煙による健康への悪影響についての普及啓発	喫煙者へのマナー向上のための普及啓発	指導員の巡回による指導、過料徴収などの着実な運用	受動喫煙防止のために必要な環境の整備	渋谷区喫煙ルールの緩和や規制によらない自主的な取組みの促進	加熱式たばこを規制対象外とすること	その他	無回答
全体 (n=2,460)	47.0	71.2	54.6	60.5	22.3	8.9	8.8	0.2
18歳・19歳 (n=37)	51.4	<u>59.5</u>	<u>48.6</u>	73.0	24.3	<u>2.7</u>	-	-
20代 (n=259)	45.9	67.6	54.4	65.6	23.9	10.8	7.3	-
30代 (n=414)	<u>41.1</u>	<u>65.2</u>	64.7	61.1	24.9	13.3	9.7	-
40代 (n=556)	45.7	72.1	56.8	59.5	18.3	8.6	11.7	-
50代 (n=569)	46.6	73.3	51.8	60.8	27.8	9.0	10.9	-
60代 (n=400)	49.3	75.5	52.3	62.3	21.0	6.5	7.0	0.5
70歳以上 (n=222)	59.0	73.0	<u>42.8</u>	<u>49.5</u>	<u>13.5</u>	5.0	<u>0.9</u>	1.4

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【地区別】

「喫煙者へのマナー向上のための普及啓発」はいずれの地域も7割前後である。「指導員の巡回による指導、過料徴収などの着実な運用」は「渋谷駅周辺」が約6割で他地域より高く、「笹塚・幡ヶ谷・初台・本町周辺」が5割弱で他地域より低い。「受動喫煙による健康への悪影響についての普及啓発」は「代々木上原・代々木八幡周辺」が5割半ばで他地域より高く、「渋谷駅周辺」が約4割で他地域より低い。

表Ⅲ-7-4 渋谷区に期待する喫煙ルール(地区別)

	(%)							
	受動喫煙による健康への悪影響についての普及啓発	喫煙者へのマナー向上のための普及啓発	指導員の巡回による指導、過料徴収などの着実な運用	受動喫煙防止のために必要な環境の整備	渋谷区喫煙ルールの緩和や規制によらない自主的な取組みの促進	加熱式たばこを規制対象外とすること	その他	無回答
全体 (n=2,460)	47.0	71.2	54.6	60.5	22.3	8.9	8.8	0.2
笹塚・幡ヶ谷・初台・本町周辺 (n=786)	45.5	70.4	<u>49.2</u>	60.3	26.0	10.4	9.0	-
代々木上原・代々木八幡周辺 (n=434)	53.9	71.2	52.1	62.7	20.5	7.8	8.1	0.2
千駄ヶ谷・原宿・神宮前周辺 (n=499)	46.5	73.3	58.1	62.3	20.8	8.0	8.4	0.4
渋谷駅周辺 (n=238)	<u>39.9</u>	69.3	60.1	58.8	21.4	8.8	14.3	-
代官山・恵比寿・広尾周辺 (n=498)	47.4	71.7	59.4	58.4	20.3	8.6	6.8	0.2

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

8. ネウボラについて

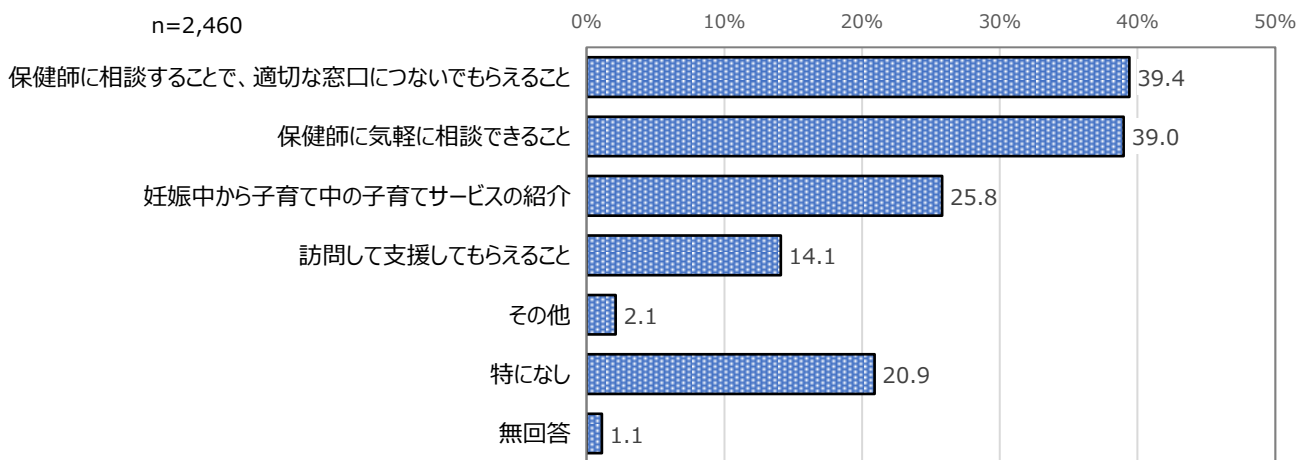
(1) 「渋谷区子育てネウボラ」に期待すること

問 18 保健師があらゆる相談の窓口になって、妊娠中から子どもが18歳になるまで支援する「渋谷区子育てネウボラ」についてどのようなことを期待しますか。(答は2つまで)

「保健師に相談することで、適切な窓口につないでもらえること」(39.4%)と「保健師に気軽に相談できること」(39.0%)が高く、相談に関する期待が高い。以下、「妊娠中から子育て中の子育てサービスの紹介」(25.8%)、「訪問して支援してもらえること」(14.1%)などが続く。

平成元年調査と比較すると、「保健師に気軽に相談できること」がやや増加している。

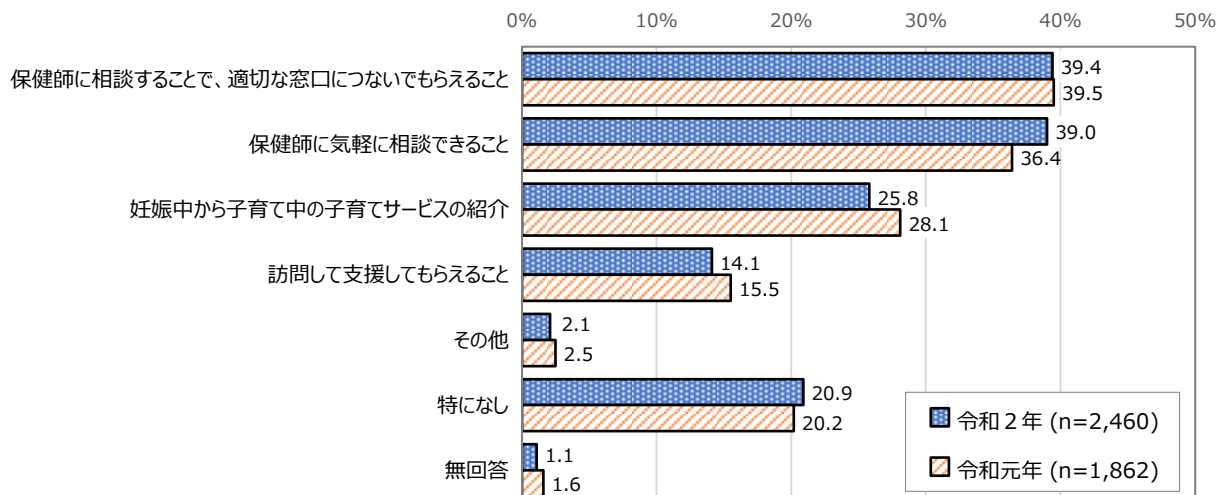
図Ⅲ-8-1 「渋谷区子育てネウボラ」に期待すること



[その他の回答]

認知度向上・告知/利用方法をわかりやすく、LINE・デジタルで相談/オンライン予約、無料保育・保育園の送迎、保健師の質の向上、物資支援/隠れ貧困支援、一律でない個々の対応 など

図Ⅲ-8-2 「渋谷区子育てネウボラ」に期待すること(平成元年調査との比較)



【年齢別】

「保健師に相談することで、適切な窓口につないでもらえること」はいずれの年代も3割半ば～4割強である。「保健師に気軽に相談できること」は18歳・19歳が5割強、20代が4割半ばで30代以上に比べ高い。「妊娠中から子育て中の子育てサービスの紹介」は30代が3割半ば、20代が3割強で他年代より高い。

表Ⅲ-8-1 「渋谷区子育てネウボラ」に期待すること(年齢別)

(%)

	保健師に気軽に相談できること	保健師に相談することで、適切な窓口につないでもらえること	訪問して支援してもらえること	妊娠中から子育て中の子育てサービスの紹介	その他	特になし	無回答
全体 (n=2,460)	39.0	39.4	14.1	25.8	2.1	20.9	1.1
18歳・19歳 (n=37)	51.4	40.5	<u>8.1</u>	<u>18.9</u>	-	24.3	-
20代 (n=259)	44.8	35.9	13.1	30.5	1.2	16.6	-
30代 (n=414)	38.2	38.9	17.4	35.7	2.4	<u>15.2</u>	-
40代 (n=556)	38.8	41.2	11.7	25.7	2.2	22.1	-
50代 (n=569)	38.0	41.5	13.5	22.0	2.8	21.6	-
60代 (n=400)	37.5	36.5	14.3	21.5	1.8	26.8	1.0
70歳以上 (n=222)	37.8	40.1	16.7	<u>20.7</u>	1.4	20.3	10.8

注) 表中の **■** は全体より5ポイント以上高い、■ は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【子どもの有無別・長子の年齢別】

子どもの有無別にみると、子どもが「いる」層は「妊娠中から子育て中の子育てサービスの紹介」や「訪問して支援してもらえること」が「いない」層に比べ高い。

長子の年齢別にみると、「4歳未満」は「保健師に気軽に相談できること」と「妊娠中から子育て中の子育てサービスの紹介」が4割半ばで他層に比べ高い。また、「訪問して支援してもらえること」も「4歳未満」と「4歳～小学校就学前」が2割半ばで他層に比べ高い。

表Ⅲ-8-2 「渋谷区子育てネウボラ」に期待すること(子どもの有無別・長子の年齢別)

(%)

	保健師に気軽に相談できること	保健師に相談することで、適切な窓口につないでもらえること	訪問して支援してもらえること	妊娠中から子育て中の子育てサービスの紹介	その他	特になし	無回答	
全体 (n=2,460)	39.0	39.4	14.1	25.8	2.1	20.9	1.1	
子ども有無	いる (n=1,248)	40.7	40.6	16.4	29.9	2.5	<u>15.1</u>	1.1
	いない (n=1,210)	37.2	38.2	11.7	21.6	1.7	26.9	1.1
長子の年齢	4歳未満 (n=145)	46.2	35.2	27.6	45.5	4.1	<u>4.8</u>	-
	4歳～小学校就学前 (n=73)	39.7	39.7	26.0	30.1	1.4	<u>8.2</u>	-
	小学生 (n=188)	41.5	42.0	14.4	33.5	2.7	<u>10.6</u>	-
	中学生 (n=95)	42.1	46.3	<u>7.4</u>	27.4	4.2	<u>13.7</u>	-
	高校生・高専生 (n=67)	34.3	37.3	11.9	29.9	-	23.9	-
	大学生・短大生・専門学校生・大学院生 (n=116)	40.5	44.8	12.9	25.9	2.6	19.8	-
	社会人 (n=530)	40.0	40.0	15.7	26.2	2.1	17.9	2.6
	その他 (n=33)	<u>33.3</u>	45.5	15.2	21.2	3.0	27.3	-

注) 表中の **■** は全体より5ポイント以上高い、■ は全体より5ポイント以上低いことを示す。

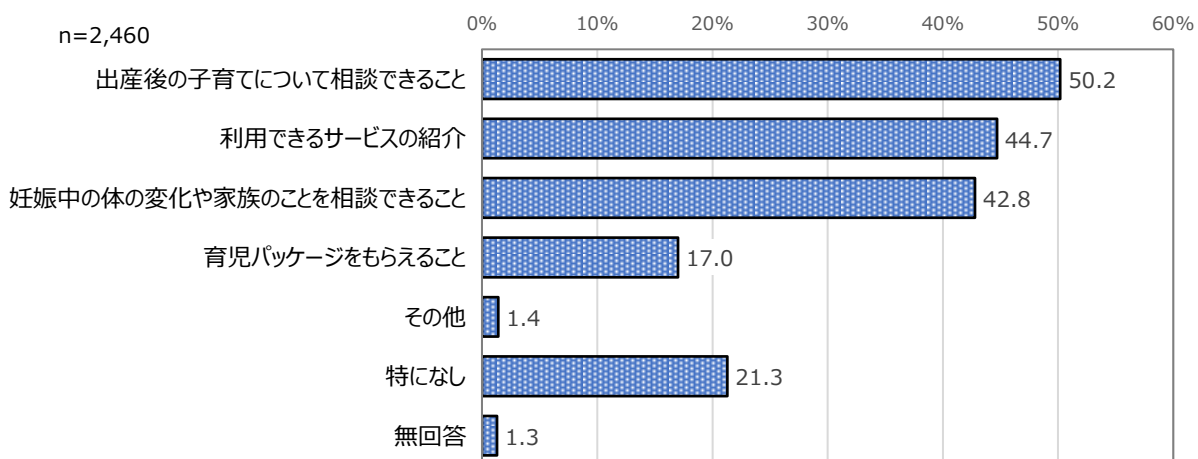
(2) 「妊婦面接」に期待すること

問 19 平成31年度からすべての妊婦の方を対象とした保健師による面接を始めています。「妊婦面接」にどのようなことを期待しますか。(答はいくつでも)

「出産後の子育てについて相談できること」が 50.2%で最も高い。次いで、「利用できるサービスの紹介」(44.7%)、「妊娠中の体の変化や家族のことを相談できること」(42.8%)が高い。

平成元年調査と比較すると、「出産後の子育てについて相談できること」がやや減少しているものの、傾向はほぼ同じである。

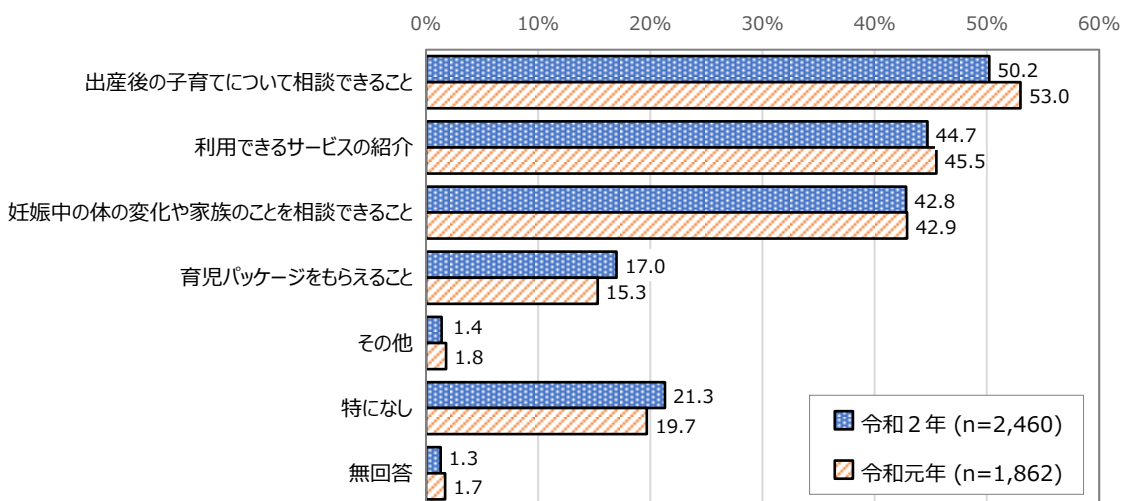
図Ⅲ-8-3 「妊婦面接」に期待すること



【その他の回答】

LINE・デジタルで相談、産後うつ、父親の面接、父母の意識改革、訪問サービス、DV・モラルハラスメント、人に合わせたサポートサービスの紹介、ひとり親世帯援助、相談者の固定、保育士の活用、子供の生育のフォロー、育児と家事両立のセミナー など

図Ⅲ-8-4 「妊婦面接」に期待すること(平成元年調査との比較)



【年齢別】

「出産後の子育てについて相談できること」はいずれの年代も4割台後半から5割半ばと高い。「妊娠中の体の変化や家族のことを相談できること」は50代以下が4割台で60代以上に比べ高い。「利用できるサービスの紹介」は30代が5割強で他年代より高く、「育児パッケージをもらえること」は20～30代が高い。

表Ⅲ-8-3 「妊婦面接」に期待すること(年齢別)

	妊娠中の体の 変化や家族のこ とを相談できるこ と	出産後の子育 てについて相談 できること	利用できるサー ビスの紹介	育児パッケージ をもらえること	その他	特になし	無回答
全 体 (n=2,460)	42.8	50.2	44.7	17.0	1.4	21.3	1.3
18歳・19歳 (n=37)	43.2	54.1	45.9	13.5	-	29.7	-
20代 (n=259)	47.9	52.5	43.2	25.5	1.5	16.6	-
30代 (n=414)	46.6	53.6	50.7	32.1	1.4	<u>14.7</u>	-
40代 (n=556)	42.1	47.8	44.8	18.0	1.1	22.8	-
50代 (n=569)	45.9	51.1	40.2	<u>10.5</u>	2.1	22.3	-
60代 (n=400)	<u>35.3</u>	47.8	45.0	<u>8.5</u>	0.8	28.0	1.3
70歳以上 (n=222)	<u>37.4</u>	49.5	45.9	<u>8.6</u>	1.8	18.9	11.7

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【子どもの有無別・長子の年齢別】

子どもの有無別にみると、子どもが「いる」層は「出産後の子育てについて相談できること」と「利用できるサービスの紹介」が5割を超え高い。

長子の年齢別にみると、「出産後の子育てについて相談できること」は「4歳未満」と「大学生・短大生・専門学校生・大学院生」が6割半ばで他層より高く、「妊娠中の体の変化や家族のことを相談できること」は「大学生・短大生・専門学校生・大学院生」が5割を超える。「利用できるサービスの紹介」はその他を除く全ての層で5割弱～6割強と高い。「育児パッケージをもらえること」は「4歳未満」～「小学生」が高いが、特に「4歳未満」が他層に比べ顕著に高い。

表Ⅲ-8-4 「妊婦面接」に期待すること(子どもの有無別・長子の年齢別)

	妊娠中の体の 変化や家 族のことを相 談できること	出産後の子 育てについ て相談でき ること	利用できる サービスの紹 介	育児パッ ケージをもら えること	その他	特になし	無回答
全 体 (n=2,460)	42.8	50.2	44.7	17.0	1.4	21.3	1.3
子ども 有無							
いる (n=1,248)	43.4	55.8	51.7	19.3	1.4	<u>14.0</u>	1.1
いない (n=1,210)	42.1	<u>44.5</u>	<u>37.6</u>	14.5	1.4	28.9	1.2
長 子 の 年 齢							
4歳未満 (n=145)	44.8	66.9	60.7	43.4	2.8	<u>4.1</u>	-
4歳～小学校就学前 (n= 73)	<u>37.0</u>	52.1	53.4	34.2	1.4	<u>9.6</u>	-
小学生 (n=188)	43.1	54.8	50.0	23.9	1.1	<u>9.0</u>	-
中学生 (n= 95)	43.2	48.4	54.7	15.8	2.1	<u>15.8</u>	-
高校生・高専生 (n= 67)	<u>37.3</u>	50.7	50.7	20.9	-	19.4	-
大学生・短大生・専門学校生・大学院生 (n=116)	52.6	65.5	49.1	16.4	1.7	<u>14.7</u>	-
社会人 (n=530)	43.6	54.2	50.6	<u>10.2</u>	1.1	16.8	2.6
その他 (n= 33)	<u>30.3</u>	48.5	<u>36.4</u>	18.2	3.0	33.3	-

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

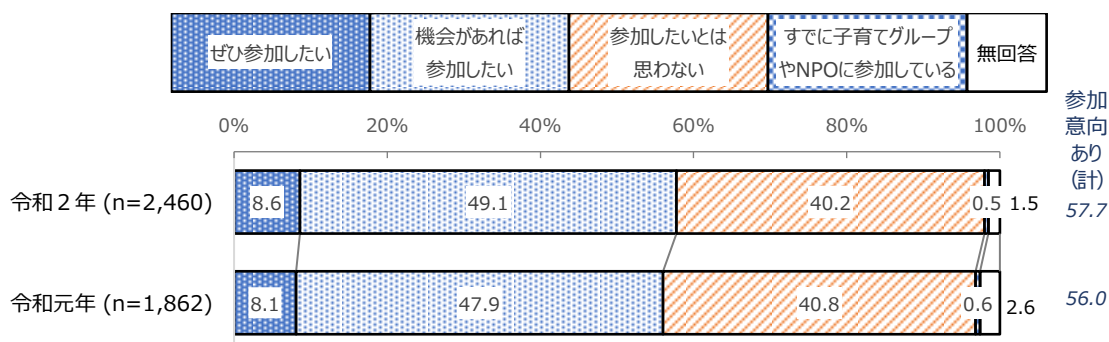
(3) 地域の子育てへの参加意向

問 20 「渋谷区子育てネウボラ」では、「妊娠から出産、子育てを通じて家族みんながいつでも相談できる場をつくる。子育てを通じて、出会う、集う、語る、つながる。そして地域みんなで子どもを育てる。」ことを目指しています。あなたも地域の子育てに参加したいと思いますか。(答は1つ)

「機会があれば参加したい」が 49.1%で最も高い。「参加意向あり(計)」「(ぜひ参加したい)」「機会があれば参加したい」は 57.7%である。一方、「参加したいとは思わない」は 40.2%である。

令和元年調査と比較すると、「参加意向あり(計)」が微増しているものの、傾向はほぼ同じである。

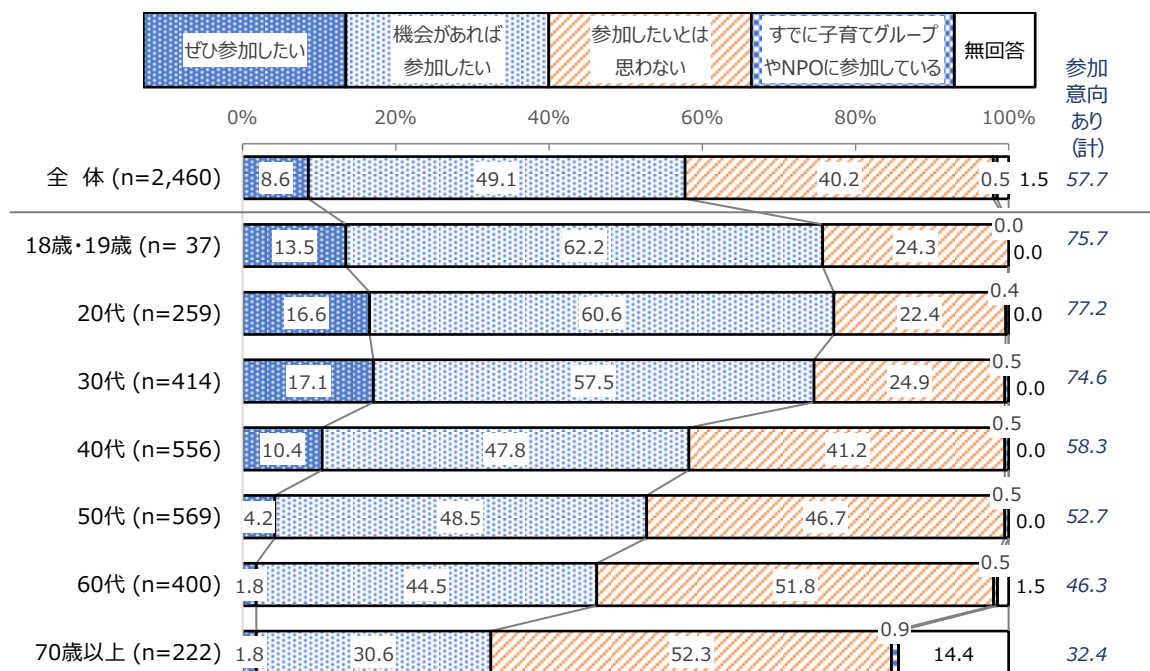
図Ⅲ-8-5 地域の子育てへの参加意向



【年齢別】

「参加意向あり(計)」は 30 代以下が7割半ばで 40 代以上に比べ参加意向が高い。40 代以降は年代が上がるにつれ、参加意向が低下する傾向にある。

図Ⅲ-8-6 地域の子育てへの参加意向(年齢別)

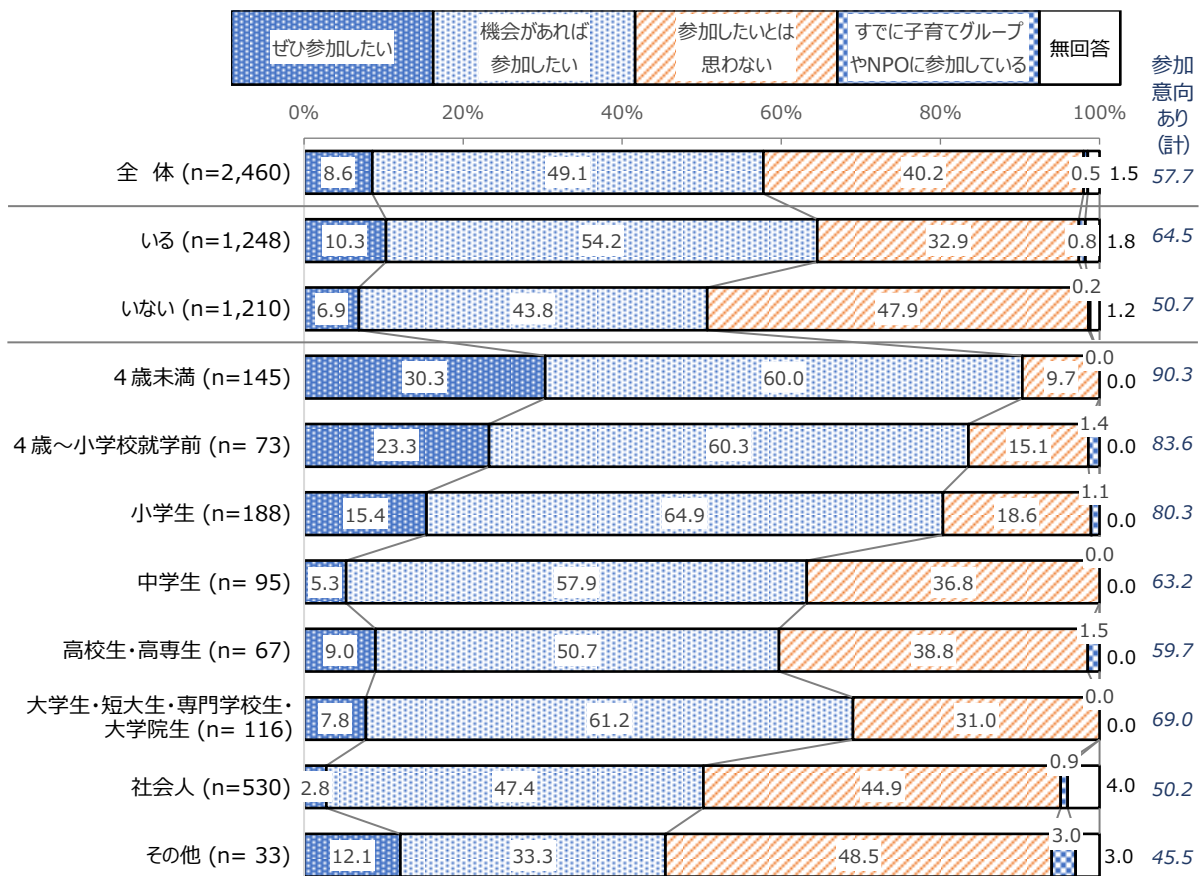


【子どもの有無別・長子の年齢別】

子どもの有無別にみると、子どもが「いる」層の「参加意向あり(計)」は 64.5%を占めるが、「いない」層は 50.7%にとどまっている。

長子の年齢別にみると、「4歳未満」～「高校生・高専生」までは長子の年齢が低いほど「参加意向あり(計)」が高くなる傾向にあり、「小学生」以下は8割を超える。「4歳未満」は「参加意向あり(計)」が 90.3%、「ぜひ参加したい」も 30.3%で、参加意向が非常に高い。

図Ⅲ-8-7 地域の子育てへの参加意向(子どもの有無別・長子の年齢別)



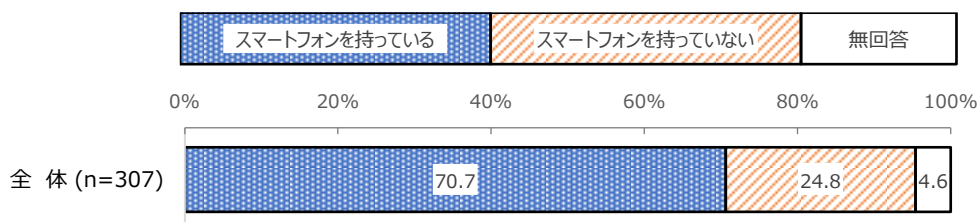
9. スマートフォンについて

(1) スマートフォン所有状況

問 21 あなたはスマートフォンを持っていますか。(答は1つ) [郵送回答者対象]

「スマートフォンを持っている」が70.7%を占める。「スマートフォンを持っていない」は24.8%である。

図Ⅲ-9-1 スマートフォン所有状況

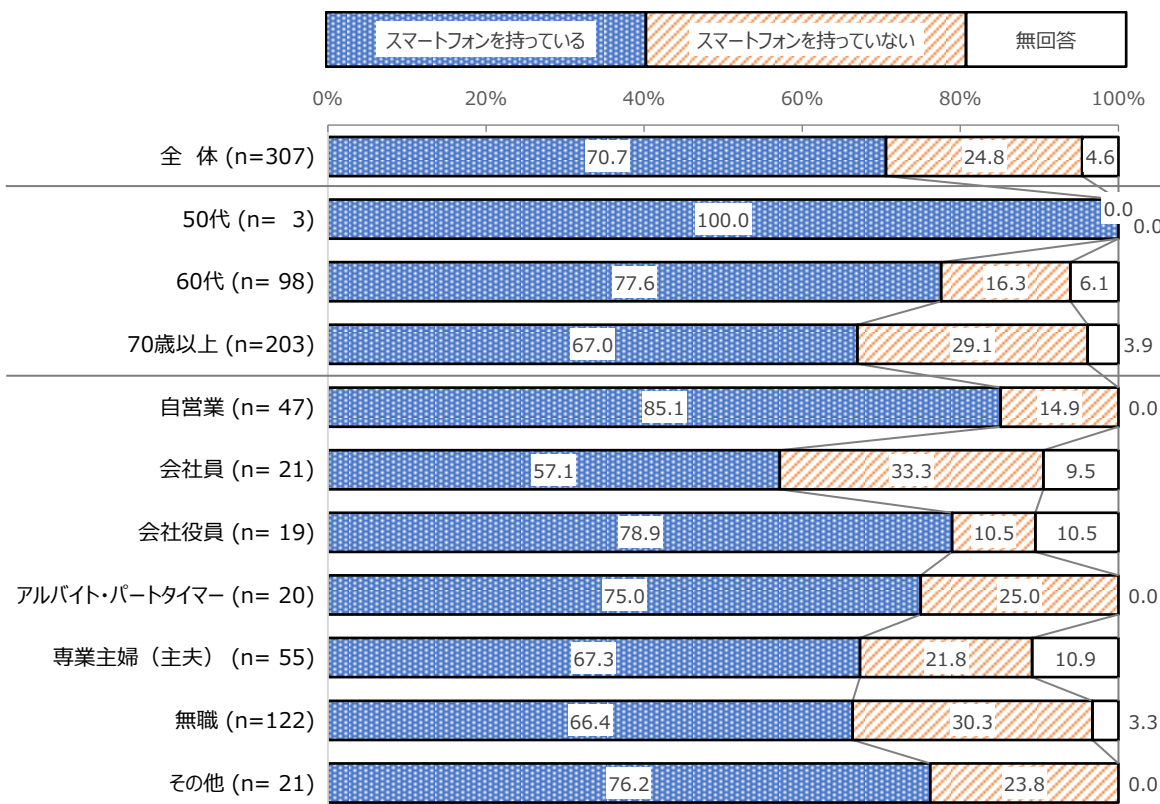


【年齢別・職業別】

年齢別にみると、「スマートフォンを持っている」は70歳以上が67.0%で60代(77.6%)より低い。

職業別にみると、「スマートフォンを持っている」は自営業が85.1%で高く、「専業主婦(主夫)」と「無職」は6割半ばである。

図Ⅲ-9-2 スマートフォン所有状況(年齢別・職業別)

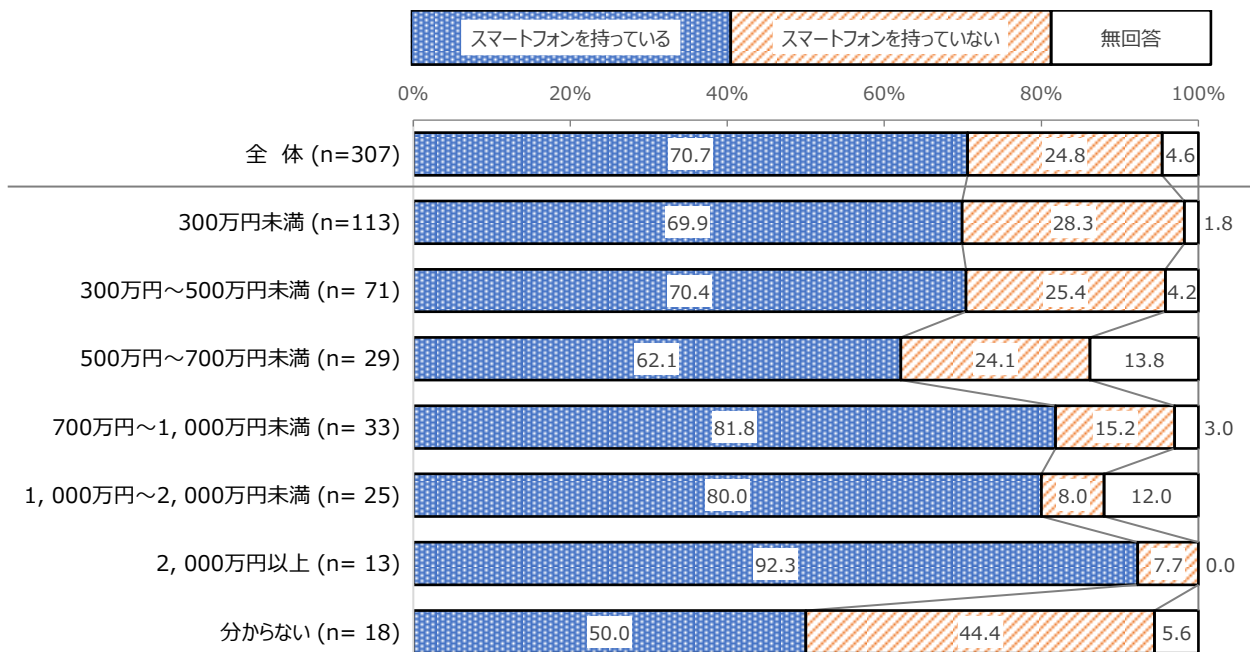


注) 回答数が0 (年齢: 40代以下、職業: 「公務員」「学生」) は図示していない。

【世帯年収別】

世帯年収別にみると、「スマートフォンを持っている」は「300万円未満」と「300万円～500万円未満」が7割前後、「700万円～1,000万円未満」は8割強である。回答数が少ない層もあるが、スマートフォン所有率と年収との関係がうかがえる。

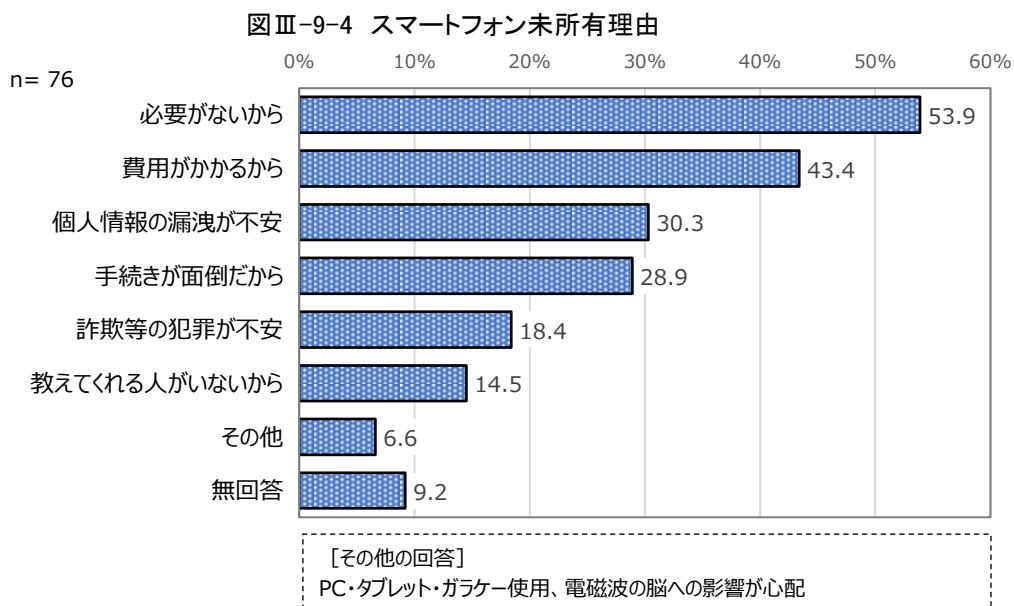
図Ⅲ-9-3 スマートフォン所有状況(世帯年収別)



(2) スマートフォン未所有理由

問 21-1 スマートフォンを持っていない理由は何ですか。(答はいくつでも) [問 21 で「スマートフォンを持っていない」と回答した方対象]

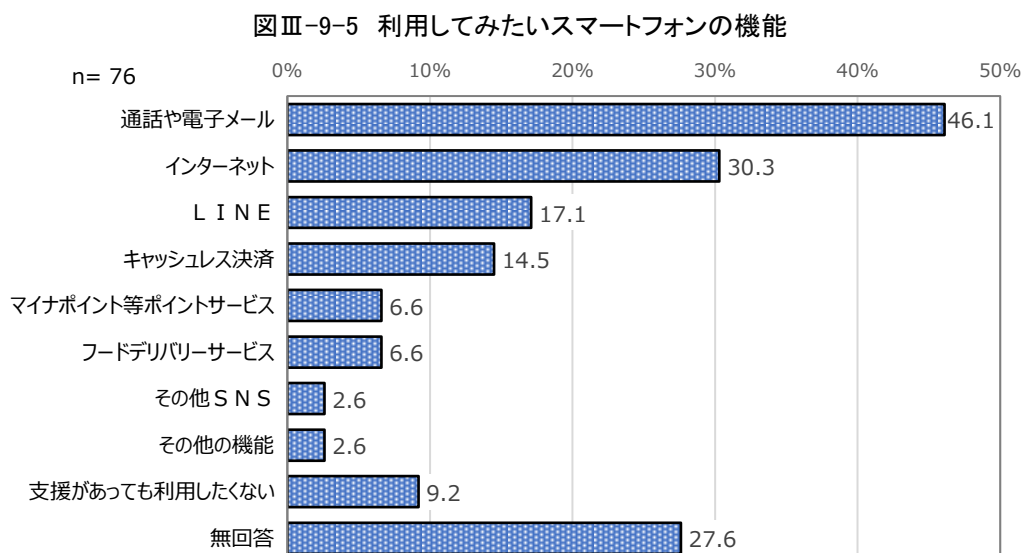
「必要がないから」が 53.9%で最も高く、次いで、「費用がかかるから」(43.4%)が高い。以下、「個人情報の漏洩が不安」(30.3%)、「手続きが面倒だから」(28.9%)、「詐欺等の犯罪が不安」(18.4%)、「教えてくれる人がいないから」(14.5%)と続く。



(3) 利用してみたいスマートフォンの機能

問 21-2 渋谷区から、購入費用や操作方法の支援が受けられる場合、利用してみたいスマートフォンの機能はどんなことですか。(答はいくつでも) [問 21 で「スマートフォンを持っていない」と回答した方対象]

「通話や電子メール」が 46.1%で最も高く、次いで、「インターネット」(30.3%)が高い。以下、「LINE」(17.1%)、「キャッシュレス決済」(14.5%)などが続く。「支援があっても利用したくない」は 9.2%である。



10. おとなりサンデーについて

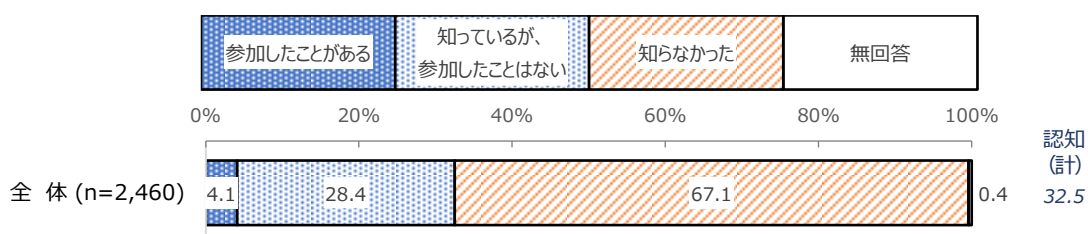
(1) 「渋谷区おとなりサンデー」認知度

問 22 渋谷区では、平成29年から毎年6月に“ふだん話す機会の少ない近隣の人も顔見知りになる「渋谷おとなりサンデー」(渋谷区版隣人まつり)”を実施しています。この「渋谷おとなりサンデー」を知っていますか。
(答は1つ)

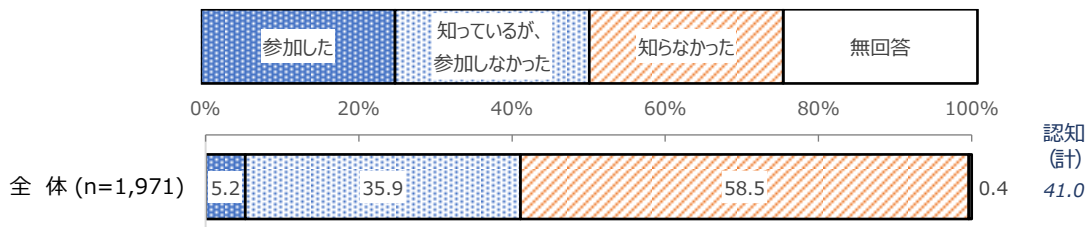
「知らなかった」が 67.1%で最も高い。「知っているが、参加したことはない」は 28.4%、「参加したことがある」は 4.1%で、認知率(「参加したことがある」+「知っているが、参加したことはない」)は 32.5%である。

平成 30 年調査と比較すると、「知らなかった」が 8.6 ポイント増加している。

図Ⅲ-10-1 「渋谷区おとなりサンデー」認知度



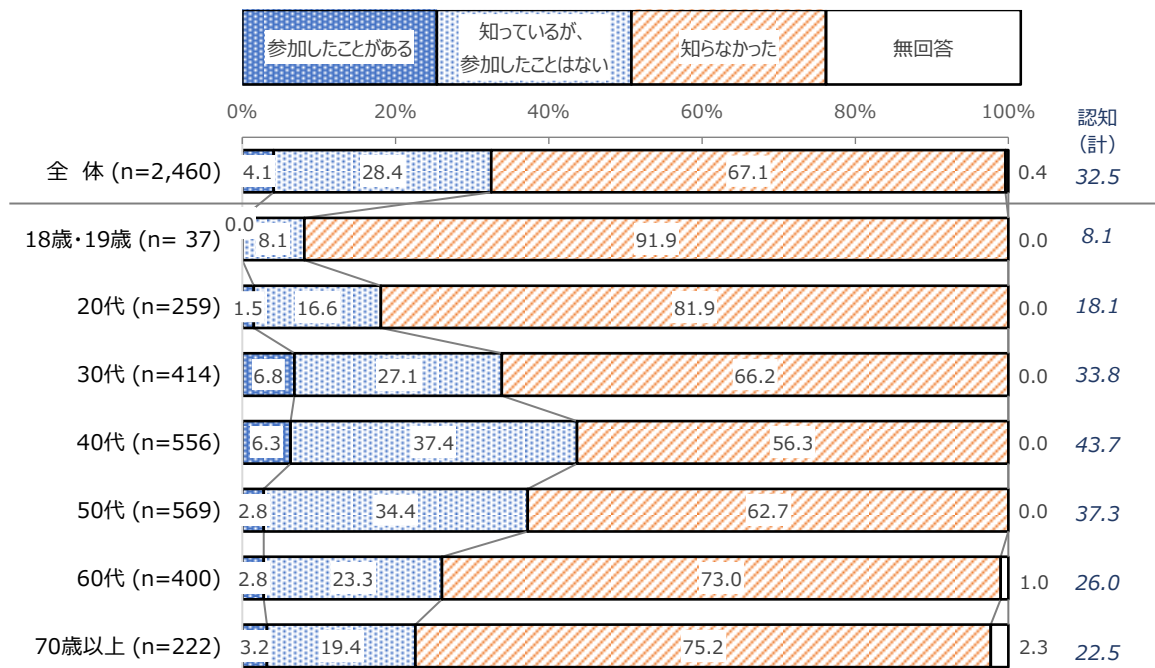
図Ⅲ-10-2 平成 30 年調査 「渋谷区おとなりサンデー」認知度



【年齢別】

「参加したことがある」は30～40代がやや高いものの、6%台にとどまっている。認知率は40代が4割半ばで最も高く、30代と50代が3割台、60代以上が2割台である。20代以下は認知率が低い。

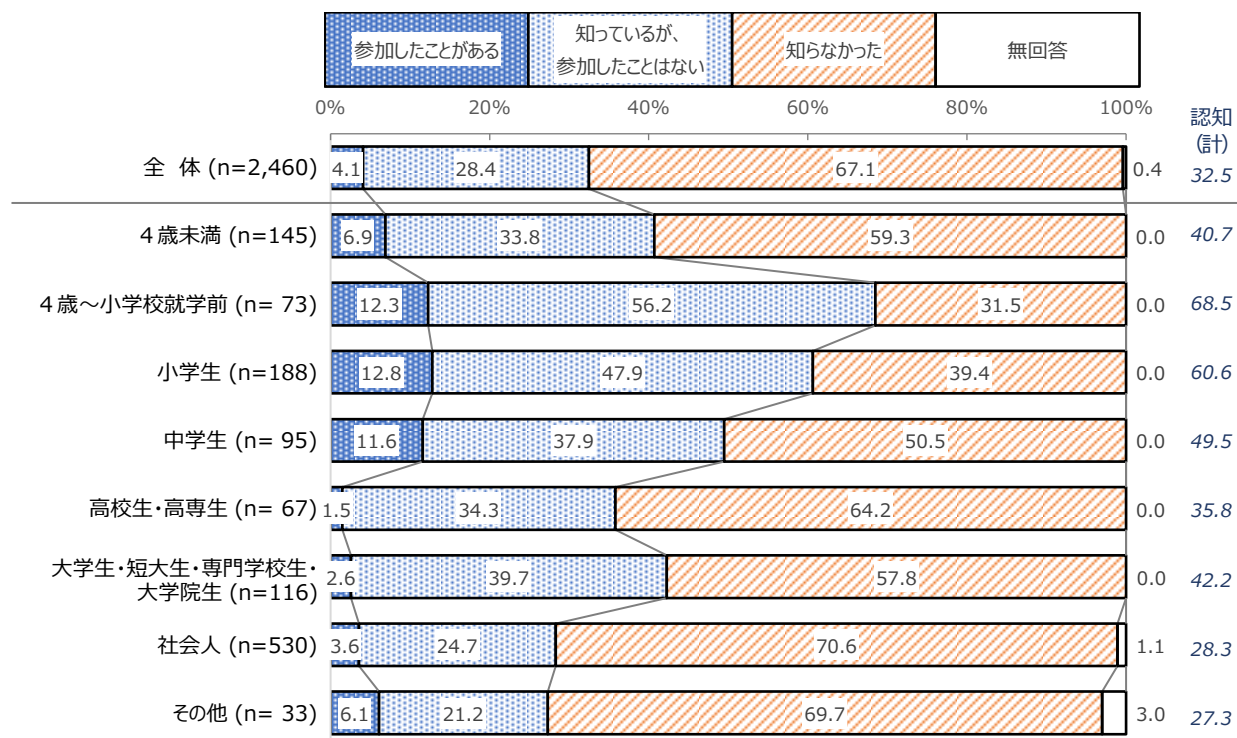
図Ⅲ-10-3 「渋谷区おとなりサンデー」認知度（年齢別）



【長子年齢別】

「参加したことがある」は「4歳～小学校就学前」から「中学生」が1割を超える。認知率は「4歳～小学校就学前」と「小学生」が6割台で高く、次いで「中学生」が約5割で高い。

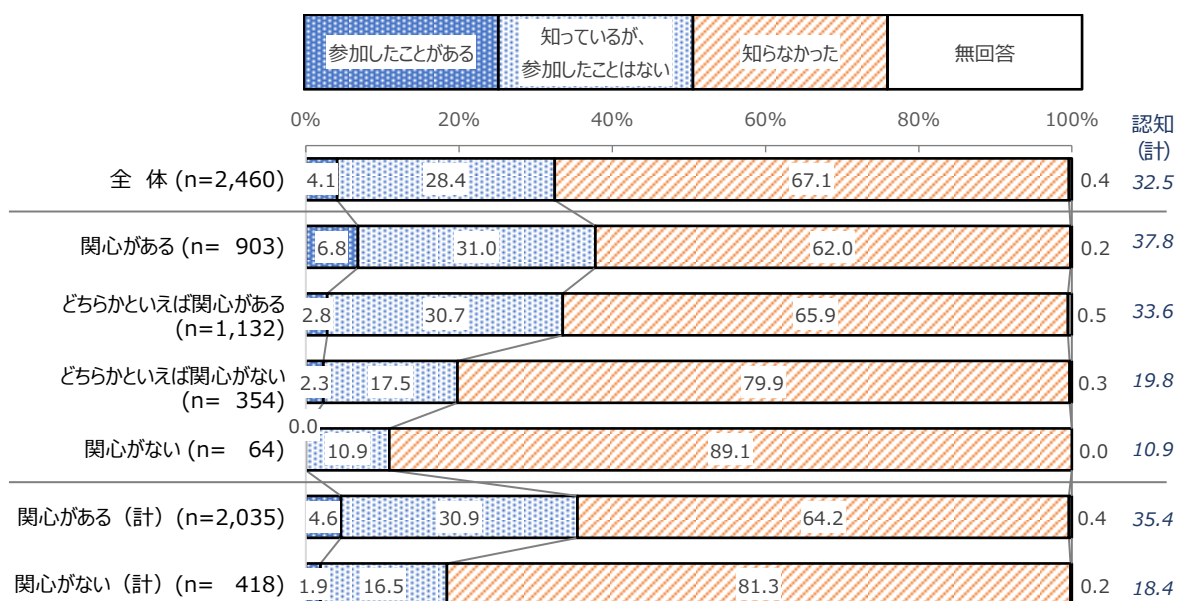
図Ⅲ-10-4 「渋谷区おとなりサンデー」認知度(長子年齢別)



【区政への関心度別】

区政への関心度が高くなるにつれ認知率も高く、「関心がある(計)」の認知率は 35.4%、「関心がない(計)」の認知率は 18.4%である。

図Ⅲ-10-5 「渋谷区おとなりサンデー」の認知度(区政への関心度別)



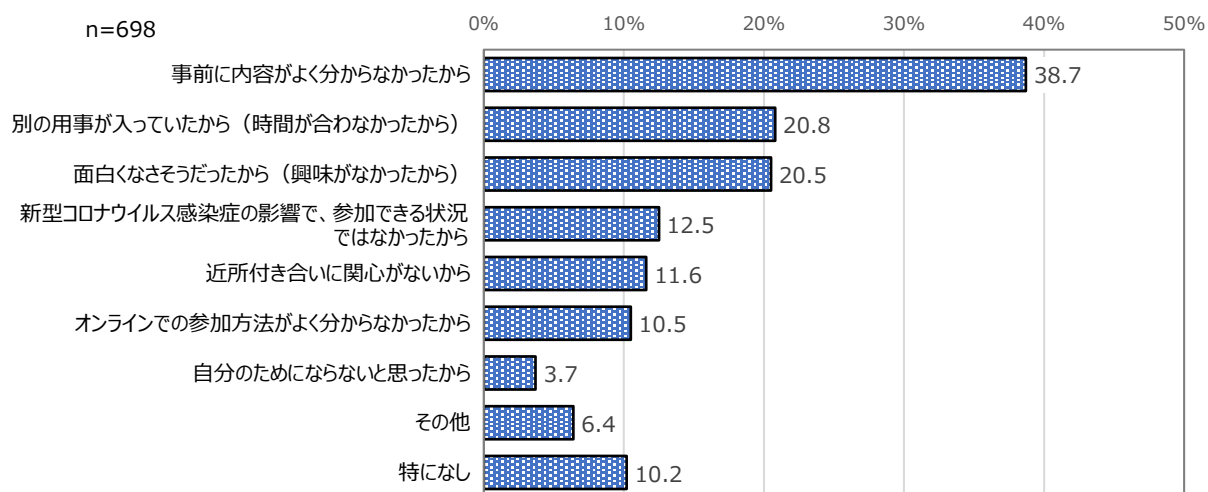
(2) 「渋谷区おとなりサンデー」未参加理由

問 22-1 参加しなかった理由は何ですか。(答は2つまで) [問 22 で「知っているが、参加したことはない」と回答した方対象]

「事前に内容がよく分からなかったから」が 38.7%で最も高い。以下、「別の用事が入っていたから(時間が合わなかったから)」(20.8%)、「面白くなさそうだったから(興味がなかったから)」(20.5%)などが続く。

平成 30 年調査は選択肢が異なるため直接的な比較はできないが、「別の用事が入っていたから(時間が合わなかったから)」は大きく減少している。

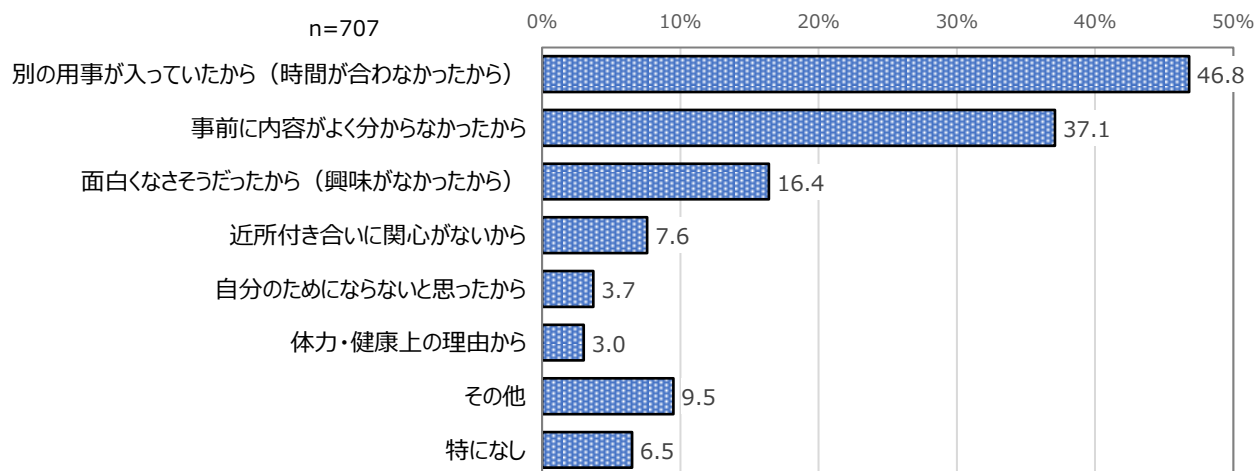
図Ⅲ-10-6 「渋谷区おとなりサンデー」未参加理由



【その他の回答】

仕事・多忙、近くで実施していない/地域に偏りがある、内輪的な雰囲気がある/限られたコミュニティの集い、体調不良、参加することが不安/勇気がなかった、参加するメリットが分からない、近所付き合いを勧められることに違和感 など

<参考資料>平成 30 年調査 「渋谷区おとなりサンデー」未参加理由



【年齢別】

回答数が30以上の20代以上でみると、30代は「別の用事が入っていたから」と「オンラインでの参加方法がよく分からなかったから」が他年代より高い。「事前に内容がよく分からなかったから」は40～50代が4割を超える。「面白くなさそうだったから」は40代と60代が2割半ばでやや高い。

表Ⅲ-10-1 「渋谷区おとなりサンデー」の未参加理由(年齢別)

	近所付き合いに関心がないから	面白くなさそうだったから(興味がなかったから)	自分のためにならないと思ったから	事前に内容がよく分からなかったから	オンラインでの参加方法がよく分からなかったから	別の用事が入っていたから(時間が合わなかったから)	新型コロナウイルス感染症の影響で、参加できる状況ではなかったから	その他	特になし
全体 (n= 698)	11.6	20.5	3.7	38.7	10.5	20.8	12.5	6.4	10.2
18歳・19歳 (n= 3)	-	33.3	-	66.7	-	-	-	-	33.3
20代 (n= 43)	14.0	16.3	7.0	39.5	7.0	18.6	9.3	4.7	14.0
30代 (n=112)	10.7	<u>12.5</u>	5.4	<u>31.3</u>	17.9	33.9	14.3	4.5	6.3
40代 (n=208)	12.5	24.5	3.8	40.4	8.7	25.0	7.7	6.7	6.3
50代 (n=196)	11.7	19.9	3.1	43.4	10.7	<u>13.8</u>	14.3	6.1	11.7
60代 (n= 93)	8.6	23.7	2.2	<u>32.3</u>	<u>5.4</u>	<u>15.1</u>	18.3	7.5	16.1
70歳以上 (n= 43)	14.0	20.9	2.3	39.5	14.0	<u>14.0</u>	14.0	11.6	14.0

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【長子年齢別】

「別の用事が入っていたから」は「4歳未満」～「小学生」が2割半ば～3割半ばで他層に比べ高い。「4歳未満」は「オンラインでの参加方法がよく分からなかったから」と「新型コロナウイルス感染症の影響で、参加できる状況ではなかったから」も2割半ばで他層より高い。

表Ⅲ-10-2 「渋谷区おとなりサンデー」の未参加理由(長子年齢別)

	近所付き合いに関心がないから	面白くなさそうだったから(興味がなかったから)	自分のためにならないと思ったから	事前に内容がよく分からなかったから	オンラインでの参加方法がよく分からなかったから	別の用事が入っていたから(時間が合わなかったから)	新型コロナウイルス感染症の影響で、参加できる状況ではなかったから	その他	特になし
全体 (n= 698)	11.6	20.5	3.7	38.7	10.5	20.8	12.5	6.4	10.2
4歳未満 (n=49)	<u>4.1</u>	<u>8.2</u>	2.0	38.8	26.5	26.5	24.5	8.2	6.1
4歳～小学校就学前 (n= 41)	9.8	22.0	9.8	39.0	7.3	36.6	<u>2.4</u>	7.3	-
小学生(n= 90)	13.3	22.2	1.1	38.9	14.4	32.2	<u>6.7</u>	4.4	5.6
中学生(n=36)	11.1	25.0	5.6	36.1	5.6	22.2	8.3	2.8	13.9
高校生・高専生 (n=23)	13.0	17.4	-	<u>13.0</u>	<u>4.3</u>	17.4	17.4	17.4	17.4
大学生・短大生・専門学校生・大学院生 (n=46)	13.0	19.6	-	45.7	10.9	17.4	17.4	13.0	<u>2.2</u>
社会人 (n=131)	11.5	23.7	0.8	43.5	10.7	<u>15.3</u>	17.6	3.8	13.7
その他 (n= 7)	28.6	28.6	14.3	<u>14.3</u>	-	<u>14.3</u>	14.3	14.3	14.3

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

(3) 地域イベントなどに対する考え

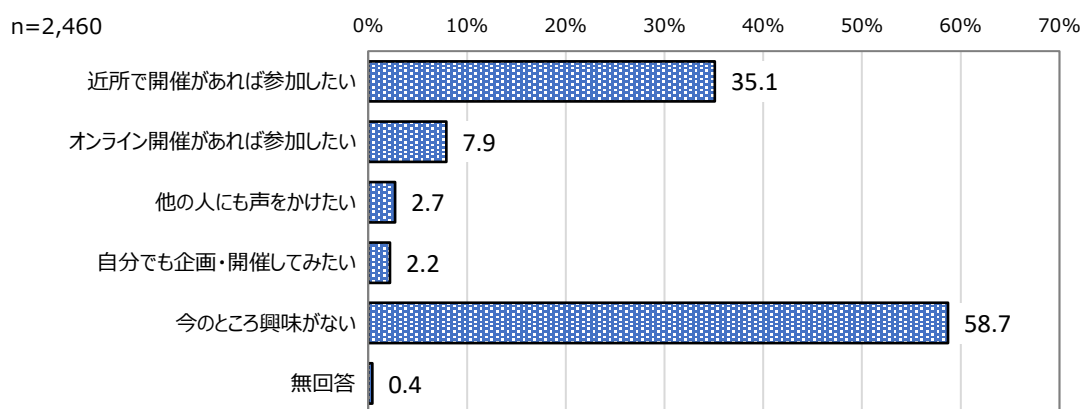
問 23 「渋谷おとなりサンデー」のようなご近所さんと顔見知りになるための様々な地域のイベントや小さなパーティーについての考えをお選びください。(答はいくつでも)

「今のところ興味がない」が 58.7%で最も高い。

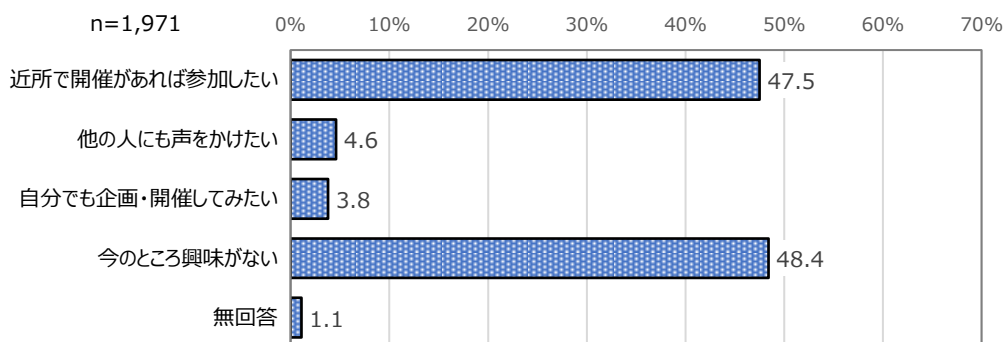
参加意向がある中では、「近所で開催があれば参加したい」が 35.1%で最も高く、次いで、「オンライン開催があれば参加したい」が 7.9%である。

平成 30 年調査は選択肢が異なるため直接的な比較はできないが、「近所で開催があれば参加したい」が減少し、「今のところ興味がない」が増加している。

図Ⅲ-10-7 地域イベントなどに対する考え



<参考資料>平成 30 年調査 地域イベントなどに対する考え



【年齢別】

「近所で開催があれば参加したい」は30代が4割を超え、40代も約4割で他年代より高い。「今のところ興味がない」は60代が7割弱で他年代より高い。

表Ⅲ-10-3 地域イベントなどに対する考え(年齢別)

	(%)					
	近所で開催があれば参加したい	オンライン開催があれば参加したい	他の人にも声をかけたい	自分でも企画・開催してみたい	今のところ興味がない	無回答
全体 (n=2,460)	35.1	7.9	2.7	2.2	58.7	0.4
18歳・19歳 (n=37)	35.1	5.4	5.4	2.7	59.5	-
20代 (n=259)	32.8	8.9	3.9	2.7	60.6	-
30代 (n=414)	43.0	9.2	3.4	2.7	<u>50.7</u>	-
40代 (n=556)	39.6	6.7	2.5	3.1	56.1	-
50代 (n=569)	34.3	9.0	1.8	1.9	59.4	-
60代 (n=400)	<u>25.0</u>	7.5	2.3	1.5	68.0	0.3
70歳以上 (n=222)	32.4	5.9	3.2	0.5	58.6	4.1

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【長子年齢別】

「近所で開催があれば参加したい」は長子年齢が低い層の方が高く、「4歳未満」～「小学生」が5割台である。「4歳～小学校就学前」は「他の人にも声をかけたい」(8.2%)が他層に比べ高い。「今のところ興味がない」は「高校生・高専生」「社会人」「その他」が6割を超える。

表Ⅲ-10-4 地域イベントなどに対する考え(長子年齢別)

	(%)					
	近所で開催があれば参加したい	オンライン開催があれば参加したい	他の人にも声をかけたい	自分でも企画・開催してみたい	今のところ興味がない	無回答
全体 (n=2,460)	35.1	7.9	2.7	2.2	58.7	0.4
4歳未満 (n=145)	58.6	9.0	0.7	2.8	<u>35.9</u>	-
4歳～小学校就学前 (n=73)	52.1	6.8	8.2	2.7	<u>39.7</u>	-
小学生 (n=188)	52.1	8.5	5.3	2.1	<u>42.6</u>	-
中学生 (n=95)	38.9	6.3	1.1	-	56.8	-
高校生・高専生 (n=67)	<u>25.4</u>	6.0	-	6.0	68.7	-
大学生・短大生・専門学校生・大学院生 (n=116)	39.7	9.5	1.7	3.4	<u>53.4</u>	-
社会人 (n=530)	<u>28.1</u>	7.4	2.1	1.3	64.3	0.9
その他 (n=33)	<u>24.2</u>	3.0	3.0	-	72.7	-

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

11. 町会・自治会について

(1) 近所付き合いの望ましい姿

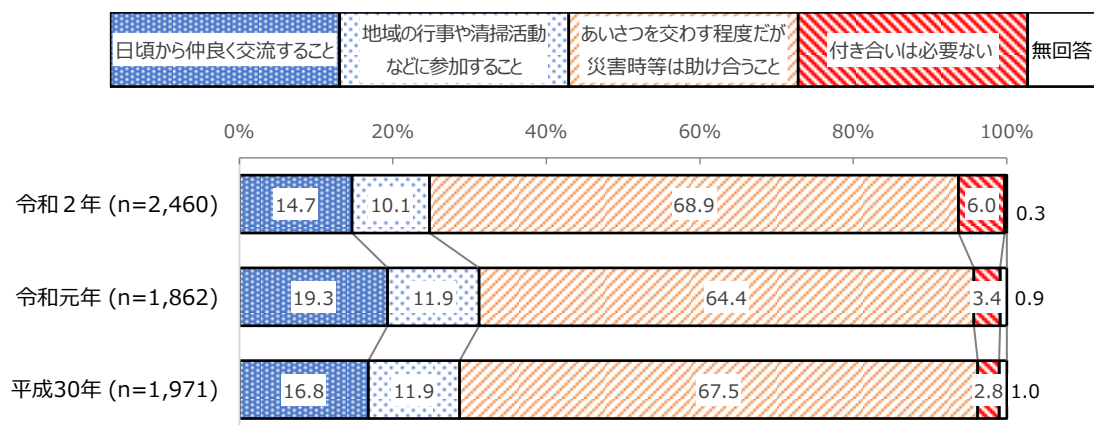
問 24 あなたの考える近所付き合いはどのようなものですか。(答は1つ)

※あてはまるものが無い人も、選択肢の中から比較して最もお気持ちに近いものをお選びください。

「あいさつを交わす程度だが災害時等は助け合うこと」が 68.9%で最も高い。次いで、「日頃から仲良く交流すること」(14.7%)、「地域の行事や清掃活動などに参加すること」(10.1%)である。「付き合いは必要ない」は 6.0%である。

過去2年の調査と比較すると、令和元年より「日頃から仲良く交流すること」はやや減少し、「あいさつを交わす程度だが災害時等は助け合うこと」がやや増加している。「付き合いは必要ない」はわずかではあるが年々高くなる傾向がみられる。

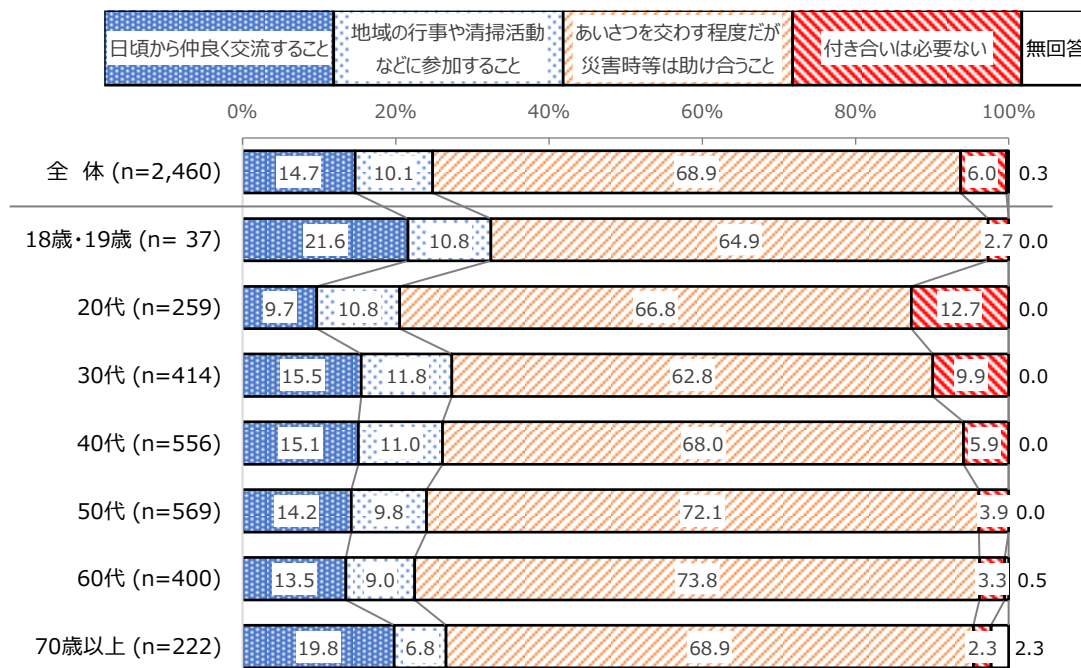
図Ⅲ-11-1 近所付き合いの望ましい姿



【年齢別】

「日頃から仲良く交流すること」は20代が1割未満で最も低く、18歳・19歳と70歳以上が2割前後である。「あいさつを交わす程度だが災害時等は助け合うこと」は50～60代が7割を超える。「付き合いは必要ない」は20代が1割強で最も高く、次いで30代が約1割である。

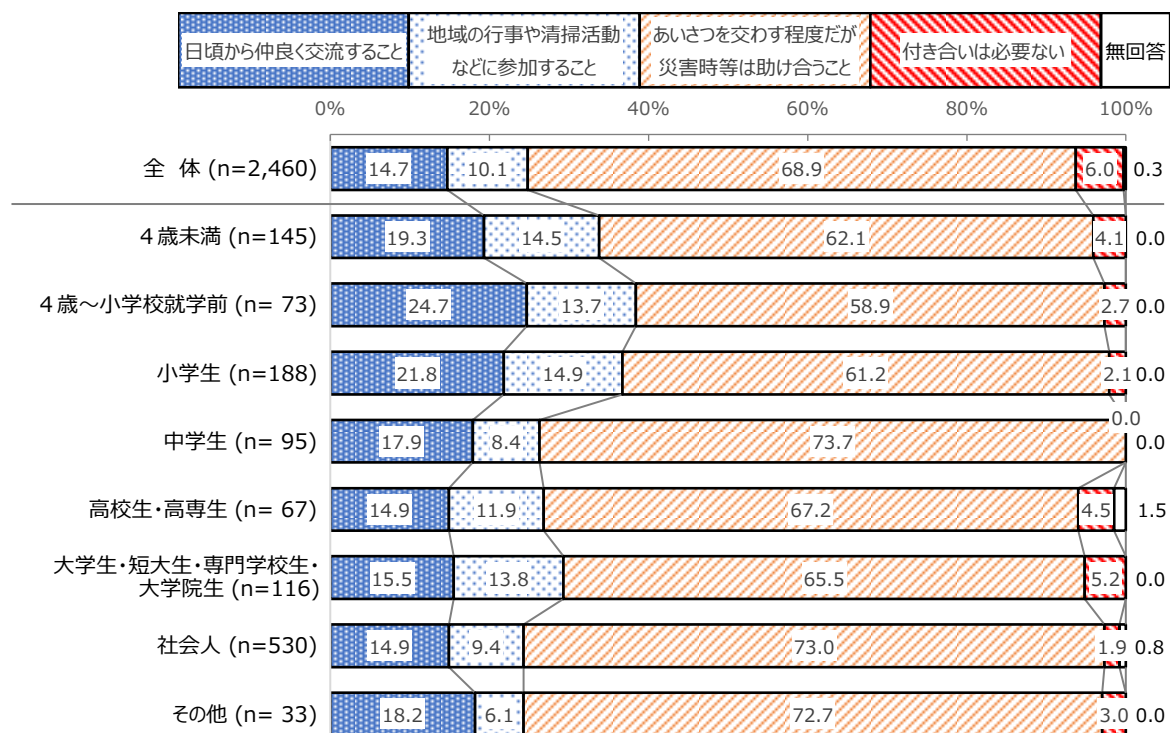
図Ⅲ-11-2 近所付き合いの望ましい姿(年齢別)



【長子年齢別】

「日頃から仲良く交流すること」は「4歳～小学校就学前」と「小学生」が2割を超え、「4歳未満」も2割弱で他層よりやや高い。

図Ⅲ-11-3 近所付き合いの望ましい姿(長子年齢別)

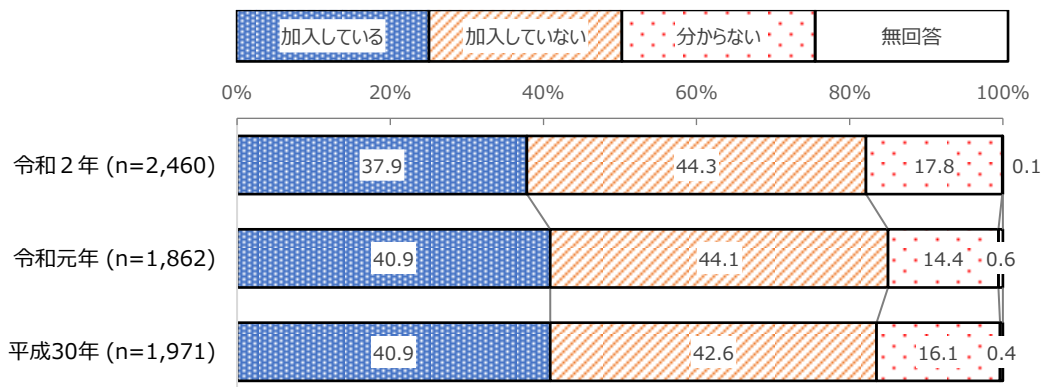


(2) 町会・自治会の加入状況

問 25 あなたは、町会・自治会に加入していますか。(答は1つ)

「加入していない」が44.3%、「加入している」が37.9%、「分からない」が17.8%である。過去2年の調査と比較すると、「加入している」がやや減少している。

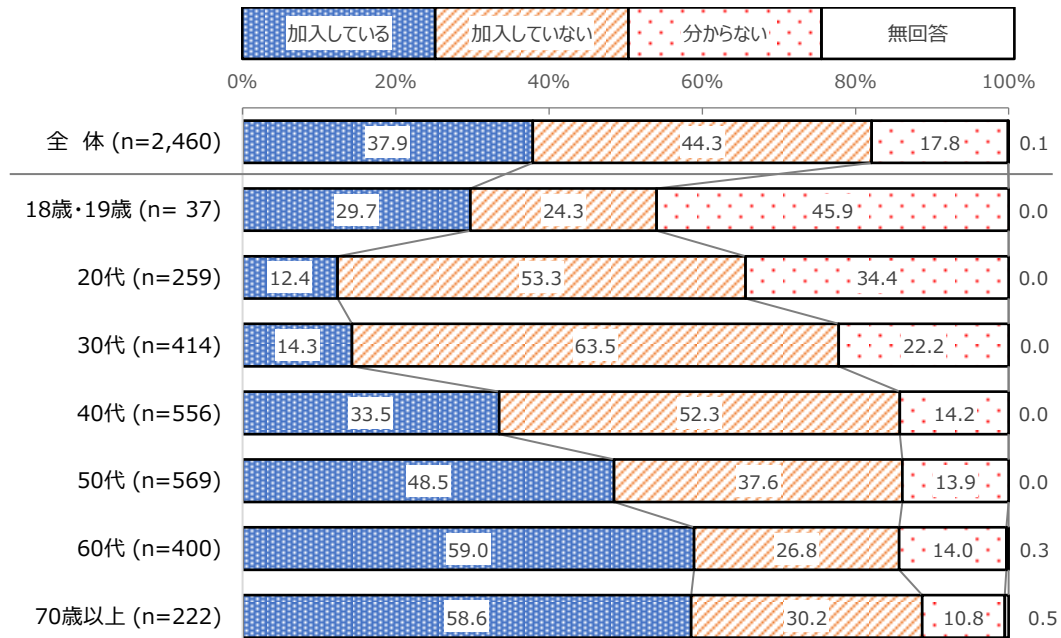
図Ⅲ-11-4 町会・自治会の加入状況



【年齢別】

20代以降は、年代が上がるにつれ加入率が高くなる傾向にあり、20～30代は1割台、60代以上は6割弱である。

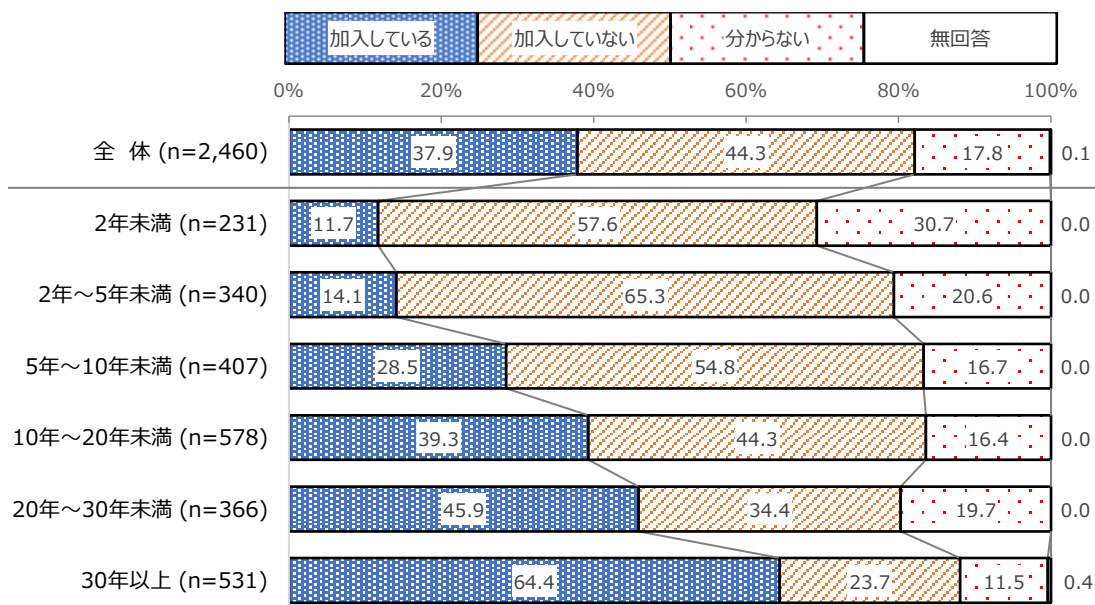
図Ⅲ-11-5 町会・自治会の加入状況(年齢別)



【居住年数別】

居住年数が長くなるにつれ加入率は高くなり、居住年数「2年未満」と「2年～5年未満」は1割台であるのに対し、「30年以上」は6割半ばを占める。

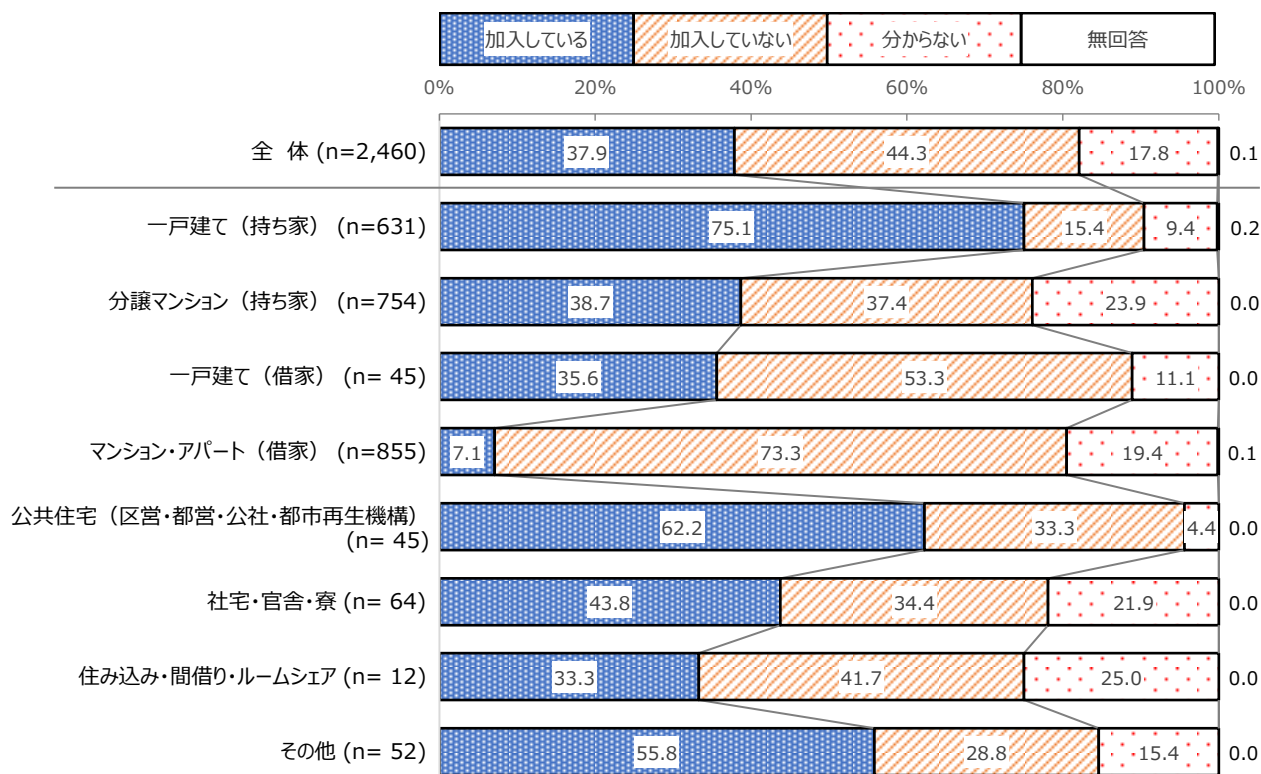
図Ⅲ-11-6 町会・自治会の加入状況(居住年数別)



【住居形態別】

加入率が最も高いのは「一戸建て(持ち家)」の75.1%である。「分譲マンション(持ち家)」と「一戸建て(借家)」の加入率は3割台で、「一戸建て(持ち家)」の半数程度である。「マンション・アパート(借家)」の加入率はわずか7.1%である。

図Ⅲ-11-7 町会・自治会の加入状況(住居形態別)



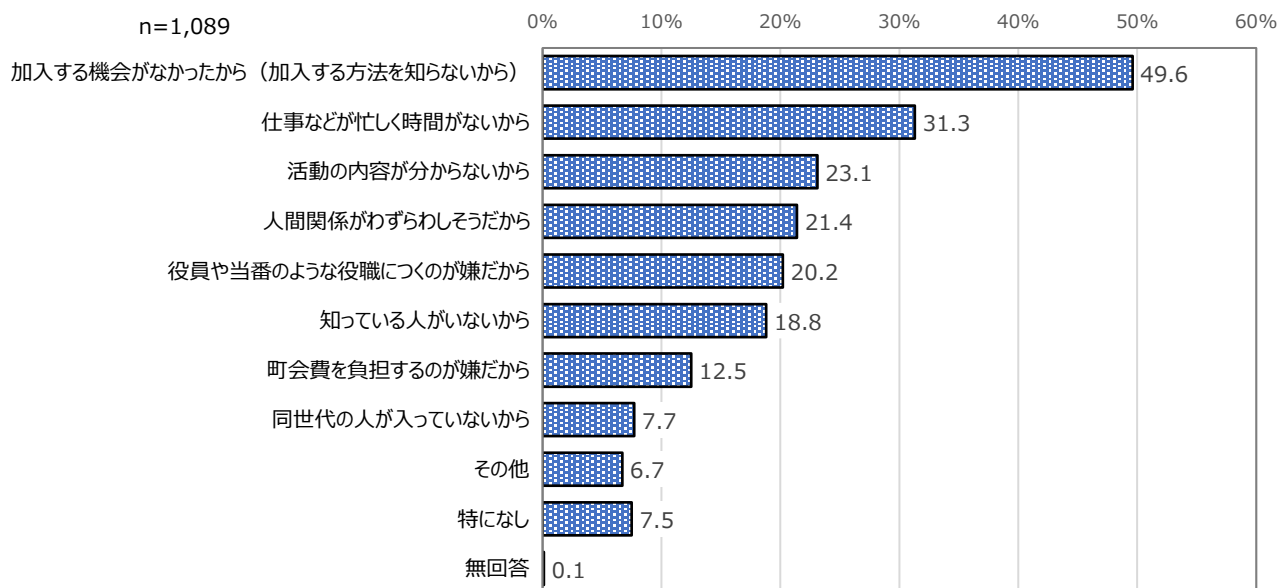
(3) 町会・自治会の未加入理由

問 25-1 加入していない理由は何ですか。(答はいくつでも) [問 25 で「加入していない」と回答した方対象]

「加入する機会がなかったから(加入する方法を知らないから)」が 49.6%で最も高い。以下、「仕事などが忙しく時間がないから」(31.3%)、「活動の内容が分からないから」(23.1%)などが続く。

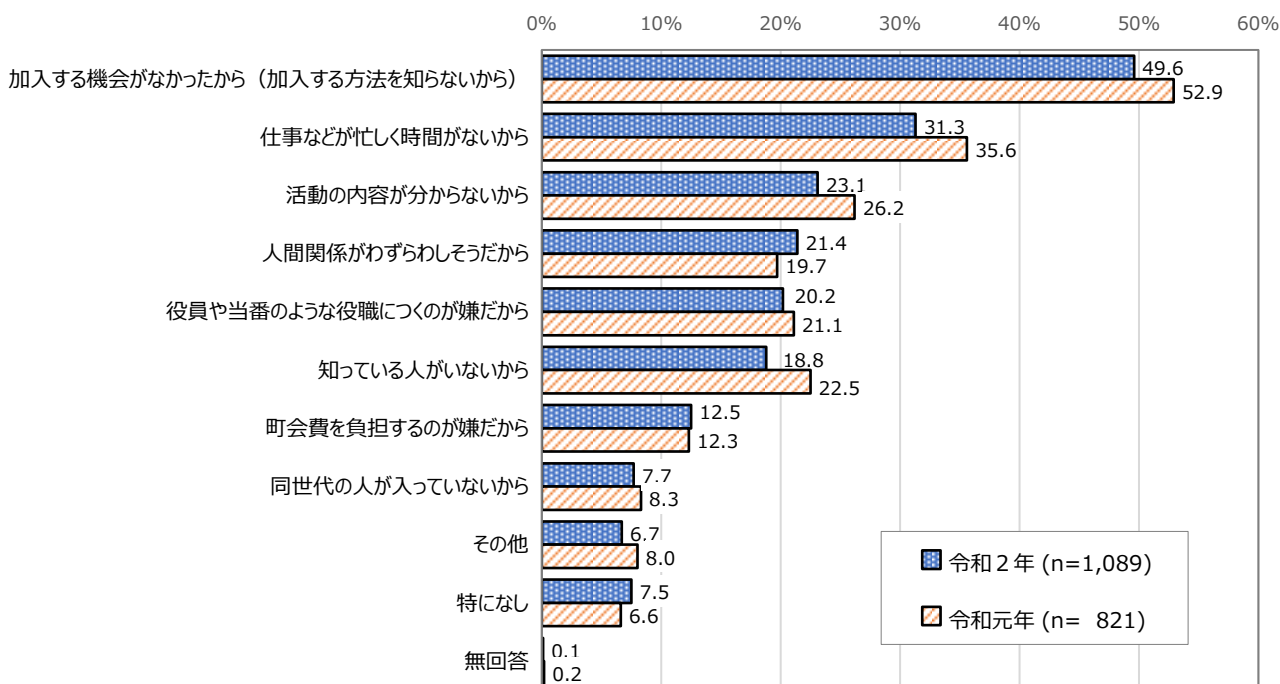
令和元年調査と比較すると、上位3位は同じであり、令和元年では4位の「知っている人がいないから」が6位に後退し、「人間関係がわずらわしそうだから」が4位に上がっている。

図Ⅲ-11-8 町会・自治会の未加入理由

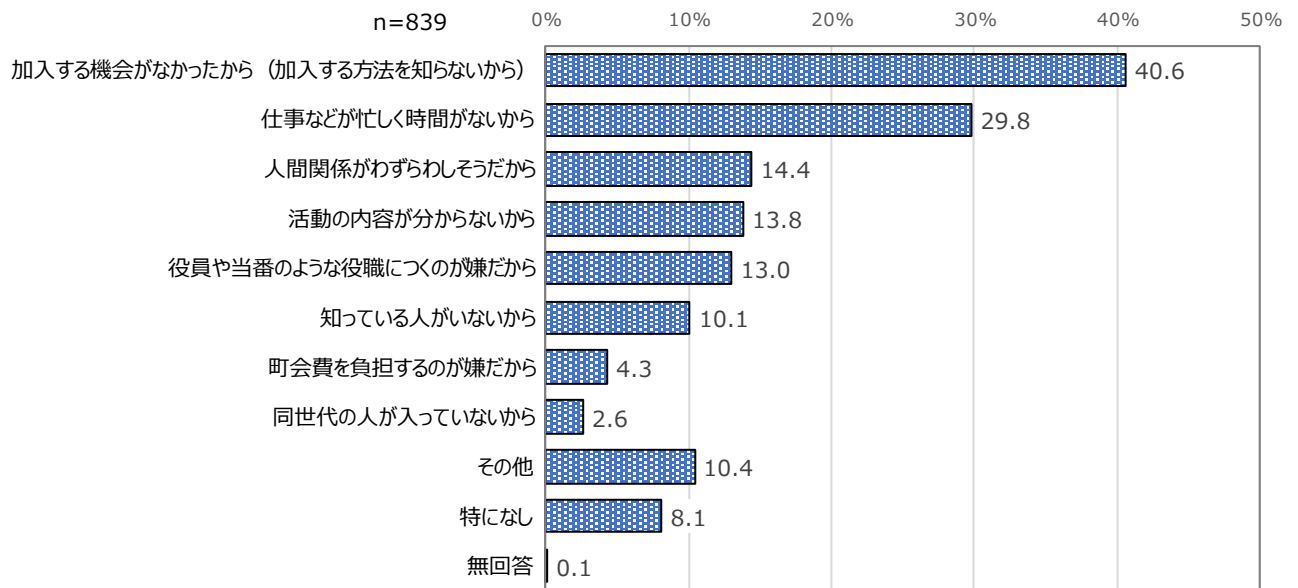


【その他の回答】
 マンション・賃貸だから、必要性を感じない/メリットがない、商店街の人が中心/閉鎖的、長く住むつもりがない、家族・親が加入している、存在を知らない、案内がない、体が不自由/療養中、加入していたがよくなかった など

図Ⅲ-11-9 町会・自治会の未加入理由(平成元年調査との比較)



＜参考資料＞平成 30 年調査 町会・自治会の未加入理由(答は2つまで)



【年齢別】

「加入する機会がなかったから(加入する方法を知らないから)」は40代以下が5割を超え、50代以上に比べ高い。「仕事などが忙しく時間がないから」は20～40代が3割台で他年代より高い。30代は「その他」と「特になし」以外のいずれの項目も全体より高い。

表Ⅲ-11-1 町会・自治会の未加入理由(年齢別)

	(%)										
	仕事などが忙しく時間がないから	知っている人がいないから	同世代の人が入っていないから	人間関係がわずらわしそうだから	活動の内容が分からないから	役員や当番のような役職につくのが嫌だから	町会費を負担するのが嫌だから	加入する機会がなかったから(加入する方法を知らないから)	その他	特になし	無回答
全体(n=1,089)	31.3	18.8	7.7	21.4	23.1	20.2	12.5	49.6	6.7	7.5	0.1
18歳・19歳(n=9)	<u>11.1</u>	<u>11.1</u>	33.3	33.3	<u>11.1</u>	22.2	22.2	66.7	11.1	22.2	-
20代(n=138)	34.1	21.0	14.5	21.0	26.1	19.6	17.4	54.3	2.2	7.2	-
30代(n=263)	39.2	25.5	13.7	24.0	30.0	25.9	18.6	56.7	4.9	6.5	-
40代(n=291)	31.6	14.1	5.8	19.9	22.0	20.3	10.3	52.6	6.9	5.5	-
50代(n=214)	28.0	17.3	3.3	21.5	<u>15.9</u>	19.6	11.2	<u>43.5</u>	10.3	7.5	-
60代(n=107)	<u>25.2</u>	15.0	-	16.8	20.6	<u>15.0</u>	<u>3.7</u>	<u>38.3</u>	8.4	10.3	-
70歳以上(n=67)	<u>16.4</u>	20.9	<u>1.5</u>	23.9	23.9	<u>9.0</u>	<u>4.5</u>	<u>34.3</u>	7.5	14.9	1.5

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【居住年数別】

「加入する機会がなかったから(加入する方法を知らないから)」は居住年数「20年～30年未満」と「30年以上」が低く、「2年未満」と「2～5年未満」が5割半ばと高い。「仕事などが忙しく時間がないから」は「2～5年未満」が4割弱と高く、「人間関係がわずらわしそうだから」は「30年以上」が2割半ばで他層より高い。

表Ⅲ-11-2 町会・自治会の未加入理由(居住年数別)

	(%)										
	仕事などが忙しく時間がないから	知っている人がいないから	同世代の人が入っていないから	人間関係がわずらわしそうだから	活動の内容が分からないから	役員や当番のような役職につくのが嫌だから	町会費を負担するのが嫌だから	加入する機会がなかったから(加入する方法を知らないから)	その他	特になし	無回答
全体(n=1,089)	31.3	18.8	7.7	21.4	23.1	20.2	12.5	49.6	6.7	7.5	0.1
2年未満(n=133)	35.3	19.5	9.8	19.5	27.8	21.8	14.3	57.1	3.8	8.3	-
2年～5年未満(n=222)	39.2	21.6	10.4	23.9	23.9	20.7	15.8	57.2	4.1	6.3	-
5年～10年未満(n=223)	30.0	14.3	4.9	19.7	19.7	22.0	13.9	48.0	6.3	7.2	-
10年～20年未満(n=256)	<u>25.4</u>	18.4	7.0	17.6	21.1	17.2	9.8	52.0	7.8	9.0	-
20年～30年未満(n=126)	31.0	17.5	9.5	23.0	23.8	21.4	10.3	<u>36.5</u>	12.7	4.0	-
30年以上(n=126)	28.6	23.0	4.8	27.8	27.0	19.8	9.5	<u>40.5</u>	7.1	10.3	0.8

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

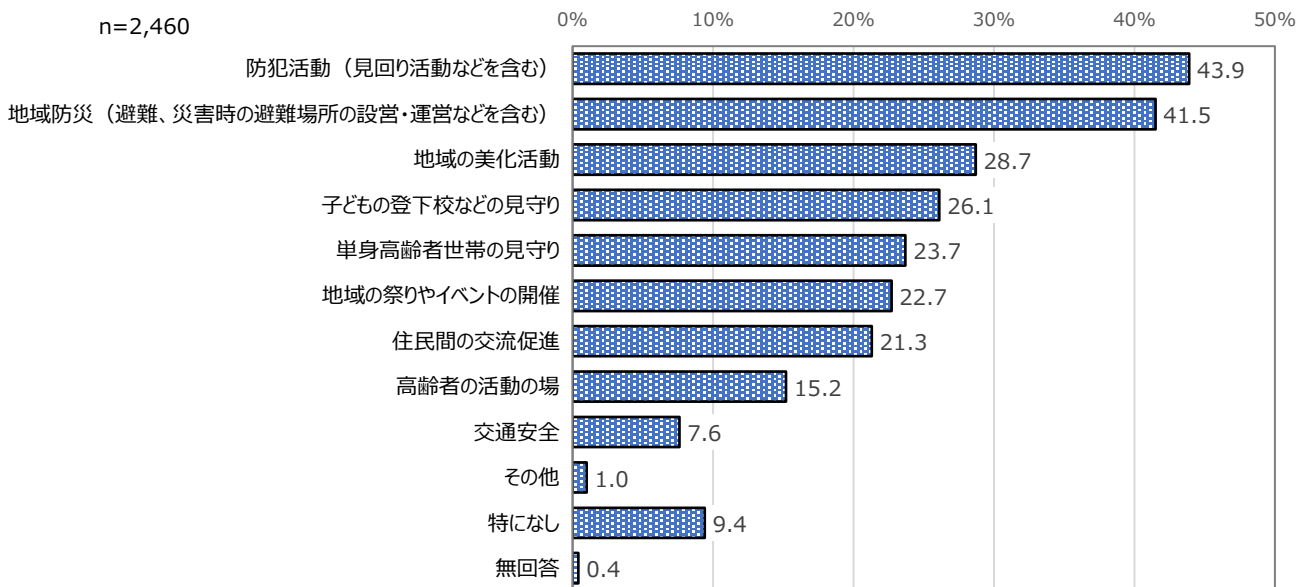
(4) 町会・自治会へ期待する役割

問 26 町会・自治会の役割としてどのようなことを期待しますか。(答は3つまで)

「防犯活動(見回り活動などを含む)」(43.9%)や「地域防災(避難、災害時の避難場所の設営・運営などを含む)」(41.5%)が高く、防災・防犯への期待が高いことがわかる。

平成元年調査と比較すると、「防犯活動」と「地域防災」は順位は逆転しているが、いずれも4割台と高い。

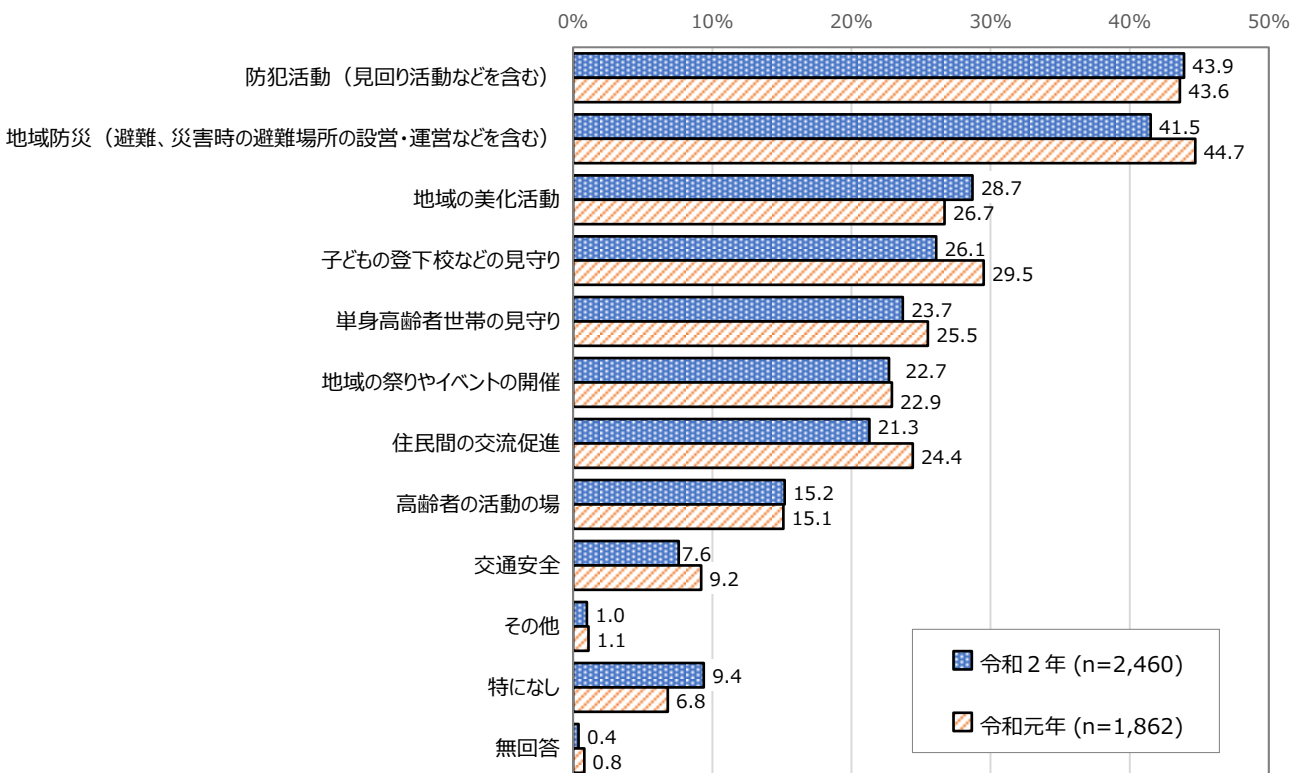
図Ⅲ-11-10 町会・自治会へ期待する役割



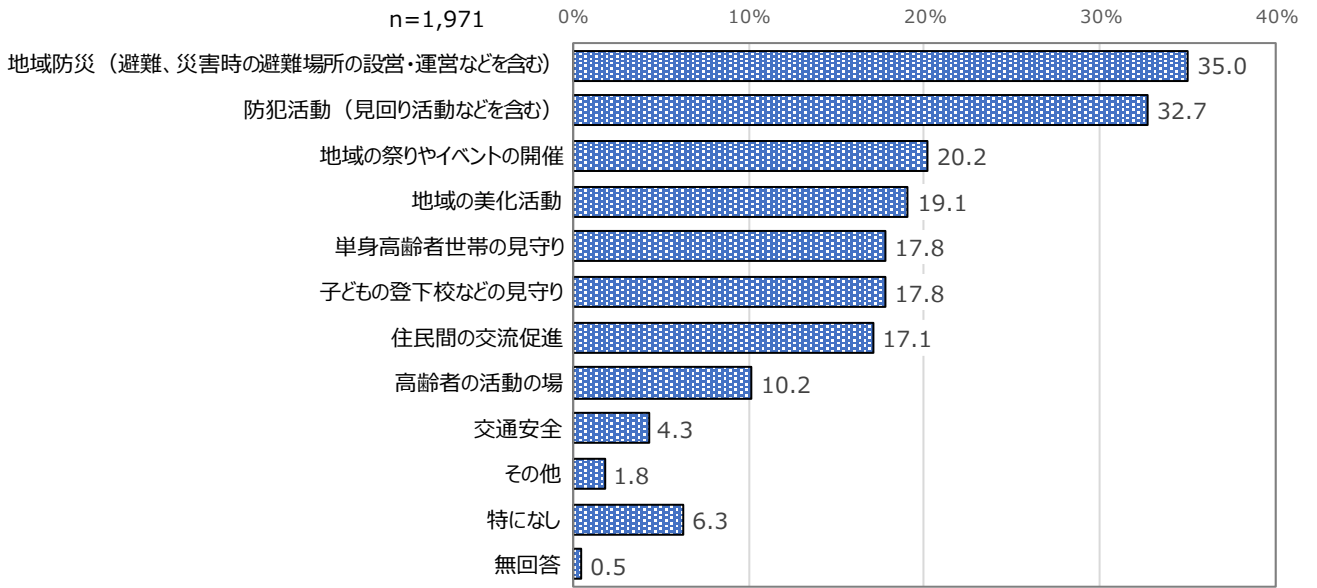
[その他の回答]

教育支援、迷惑行為の抑止、役所と住民の橋渡し、子供預かりの助け合い、情報交換、地域独特の問題の対応 など

図Ⅲ-11-11 町会・自治会へ期待する役割(平成元年調査との比較)



<参考資料>平成30年調査 町会・自治会へ期待する役割(答は2つまで)



【年齢別】

「地域防災」は40代以下が3割台であるのに比べ、60代以上は5割を超える。「防犯活動」は20代を除く全ての年代で4割を超え、特に50代は5割を超える。「子どもの登下校などの見守り」は30代が4割を超え、20代と40代も3割前後で、子どもを持つ世代の要望が高い。「単身高齢者世帯の見守り」は50代以上が3割前後、「地域の祭りやイベントの開催」は30～40代が3割弱で高い。

表Ⅲ-11-3 町会・自治会へ期待する役割(年齢別)

	高齢者の活動の場	住民間の交流促進	単身高齢者世帯の見守り	防犯活動	子どもの登下校などの見守り	地域の美化活動	地域防災	交通安全	地域の祭りやイベントの開催	その他	特になし	無回答
全体 (n=2,460)	15.2	21.3	23.7	43.9	26.1	28.7	41.5	7.6	22.7	1.0	9.4	0.4
18歳・19歳 (n=37)	16.2	<u>13.5</u>	18.9	43.2	21.6	32.4	37.8	10.8	<u>16.2</u>	-	21.6	-
20代 (n=259)	12.4	22.8	<u>12.0</u>	<u>34.0</u>	28.2	30.5	<u>34.7</u>	10.8	22.4	0.4	13.5	-
30代 (n=414)	13.3	22.5	<u>16.4</u>	40.8	40.1	26.1	<u>31.9</u>	9.4	28.3	-	12.6	-
40代 (n=556)	15.5	20.7	21.9	42.6	30.4	31.5	37.1	5.9	28.1	1.3	9.0	-
50代 (n=569)	17.9	19.2	30.6	51.5	<u>20.7</u>	27.9	44.8	5.4	19.2	1.9	7.0	-
60代 (n=400)	13.5	22.8	28.3	46.8	<u>18.0</u>	30.3	50.5	7.3	19.0	0.8	7.5	0.5
70歳以上 (n=222)	18.0	22.5	30.2	40.5	<u>16.2</u>	23.9	54.5	9.5	<u>16.2</u>	0.9	7.2	3.2

注) 表中の **■** は全体より5ポイント以上高い、■ は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【居住年数別】

居住年数30年以上は「防犯活動」と「地域防災」が5割弱と高い。「子どもの登下校などの見守り」は「5年～10年未満」が3割を超え、「単身高齢者世帯の見守り」は「20年～30年未満」が3割を超え高い。一方、居住年数5年未満は「特になし」が1割半ばで、5年以上に比べ高い。

表Ⅲ-11-4 町会・自治会へ期待する役割(居住年数別)

	高齢者の活動の場	住民間の交流促進	単身高齢者世帯の見守り	防犯活動	子どもの登下校などの見守り	地域の美化活動	地域防災	交通安全	地域の祭りやイベントの開催	その他	特になし	無回答
全体 (n=2,460)	15.2	21.3	23.7	43.9	26.1	28.7	41.5	7.6	22.7	1.0	9.4	0.4
2年未満 (n=231)	<u>10.0</u>	22.1	<u>14.7</u>	45.5	26.4	31.6	<u>35.9</u>	8.2	20.3	0.9	15.2	-
2年～5年未満 (n=340)	15.9	23.5	<u>18.2</u>	<u>35.6</u>	28.8	26.2	<u>35.3</u>	5.9	27.6	0.3	14.4	-
5年～10年未満 (n=407)	16.2	19.2	21.1	43.0	32.2	30.0	36.6	8.6	20.9	1.0	9.1	0.2
10年～20年未満 (n=578)	16.4	22.7	23.5	42.0	26.0	30.8	42.9	7.1	26.8	1.0	7.1	0.3
20年～30年未満 (n=366)	13.4	18.0	30.3	47.3	27.9	29.5	43.4	7.1	21.6	1.1	6.8	0.8
30年以上 (n=531)	16.2	22.0	28.6	49.2	<u>19.0</u>	25.8	49.0	8.3	18.3	1.3	8.3	0.4

注) 表中の **■** は全体より5ポイント以上高い、■ は全体より5ポイント以上低いことを示す。

【町会・自治会加入有無別】

「加入している」層は第1位が「地域防災」(49.1%)、第2位が「防犯活動」(47.6%)、第3位が「地域の美化活動」(28.0%)、第4位が「住民間の交流促進」(27.9%)であり、「地域防災」と「住民間の交流促進」は「加入していない／分からない」層との差が大きい。「加入していない／分からない」層は第1位が「防犯活動」(41.6%)、第2位が「地域防災」(36.9%)、第3位が「地域の美化活動」(29.2%)、第4位が「子どもの登下校などの見守り」(27.7%)である。

表Ⅲ-11-5 町会・自治会へ期待する役割(町会・自治会加入有無別)

	(%)											
	高齢者の活動の場	住民間の交流促進	単身高齢者世帯の見守り	防犯活動	子どもの登下校などの見守り	地域の美化活動	地域防災	交通安全	地域の祭りやイベントの開催	その他	特になし	無回答
全 体 (n=2,460)	15.2	21.3	23.7	43.9	26.1	28.7	41.5	7.6	22.7	1.0	9.4	0.4
加入している (n= 932)	15.2	27.9	24.1	47.6	23.6	28.0	49.1	6.9	25.1	1.3	5.8	0.2
加入していない/分からない (n=1,526)	15.3	17.2	23.5	41.6	27.7	29.2	36.9	7.9	21.2	0.8	11.6	0.5

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

12. 広報紙「しづや区ニュース」について

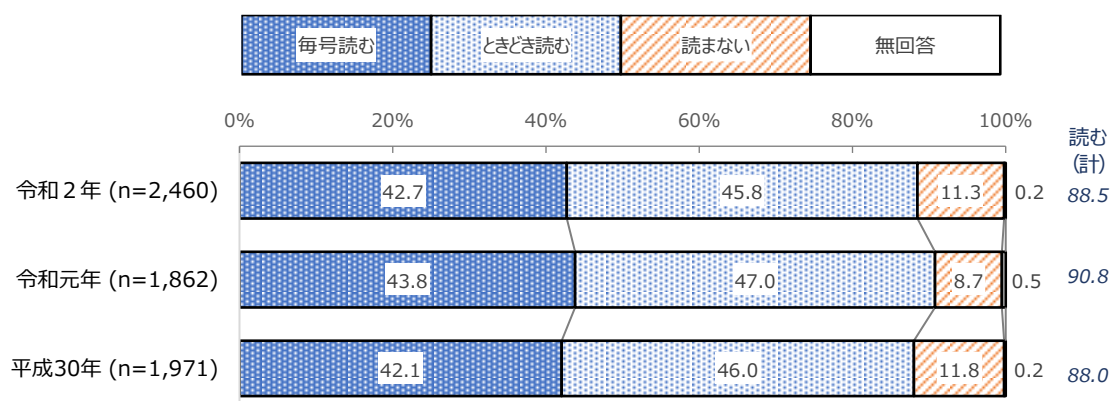
(1) 広報紙「しづや区ニュース」の閲読状況

問 27 あなたは、広報紙「しづや区ニュース」を読んでいますか。(答は1つ)

「ときどき読む」が 45.8%、「毎号読む」が 42.7%、「読まない」が 11.3%である。「読む(計)」「(「毎号読む」+「ときどき読む」)は 88.5%を占める。

過去2年の調査と比較すると、閲読率(「読む(計)」)は令和元年がやや高いが、令和2年は平成30年とほぼ同じである。

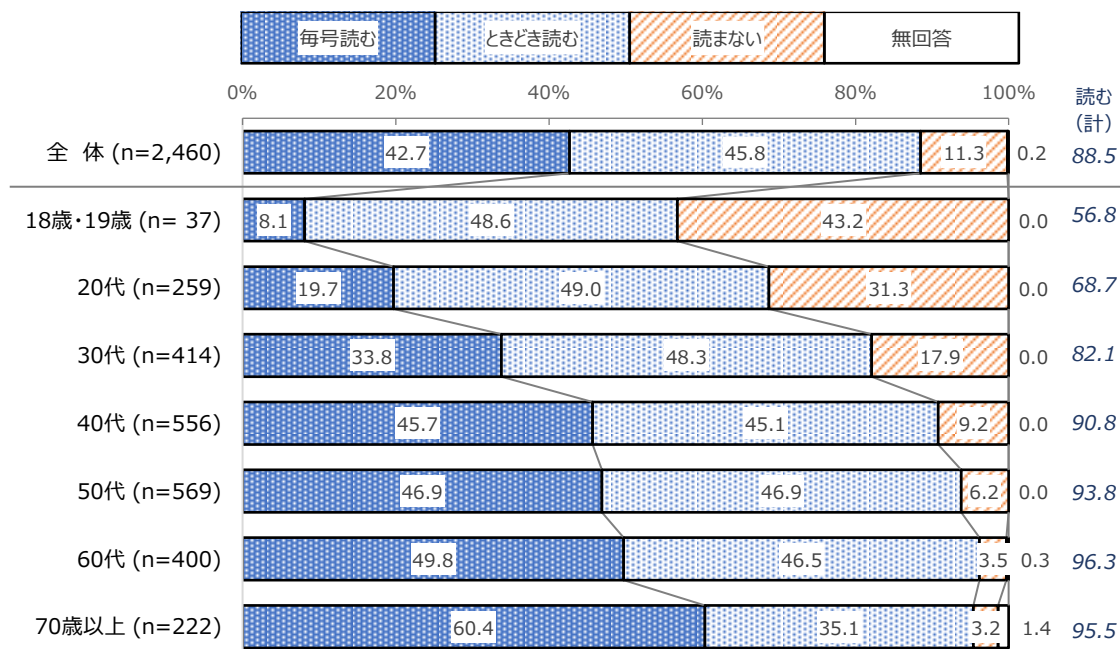
図Ⅲ-12-1 広報紙「しづや区ニュース」の閲読状況



【年齢別】

「毎号読む」は年代が上がるにつれ高くなる傾向にあり、60代が約5割、70歳以上は約6割を占める。閲読率も年代が上がるにつれ高くなっており、30代で8割を超え、40代以上は9割を超える。

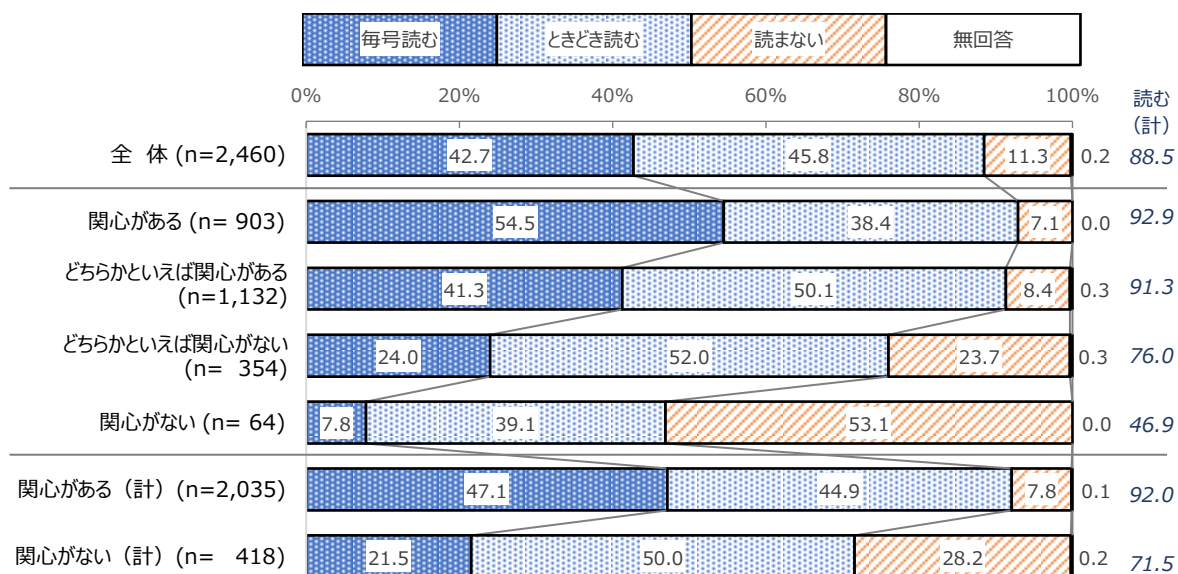
図Ⅲ-12-2 広報紙「しぶや区ニュース」の閲読状況（年齢別）



【区政への関心度別】

区政に対する関心度が高いほど閲読率は高くなっており、「関心がある(計)」は「毎号読む」が47.1%、閲読率も92.0%に達するが、「関心がない(計)」は「毎号読む」が21.5%、閲読率は71.5%である。

図Ⅲ-12-3 広報紙「しぶや区ニュース」の閲読状況（区政への関心度別）



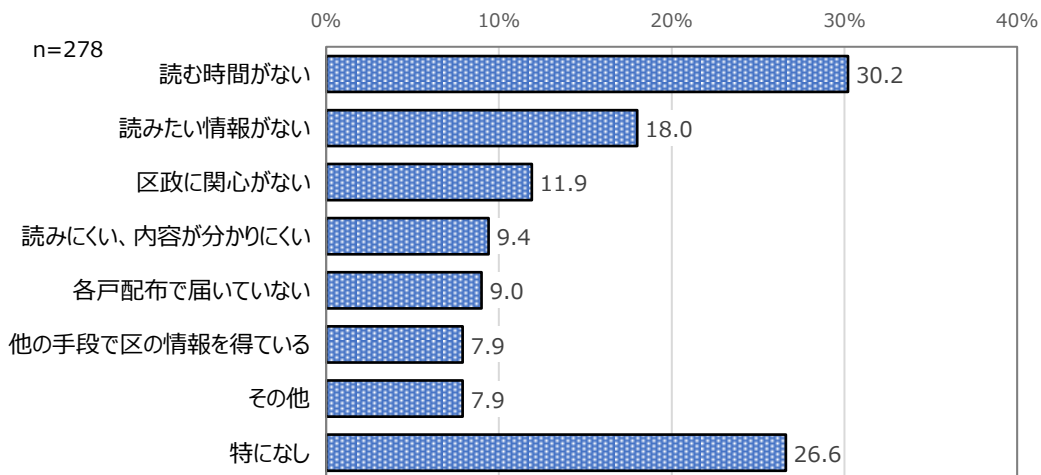
(2) 広報紙「しぶや区ニュース」の非読読理由

問 27-1 「しぶや区ニュース」を読まない理由は何ですか。(答はいくつでも) [問 27 で「読まない」と回答した方対象]

「読む時間がない」が 30.2%で最も高く、以下、「読みたい情報がない」(18.0%)、「区政に関心がない」(11.9%)などが続く。

令和元年調査と比較すると、「各戸配布で届いていない」は令和元年より5ポイント以上減少している。

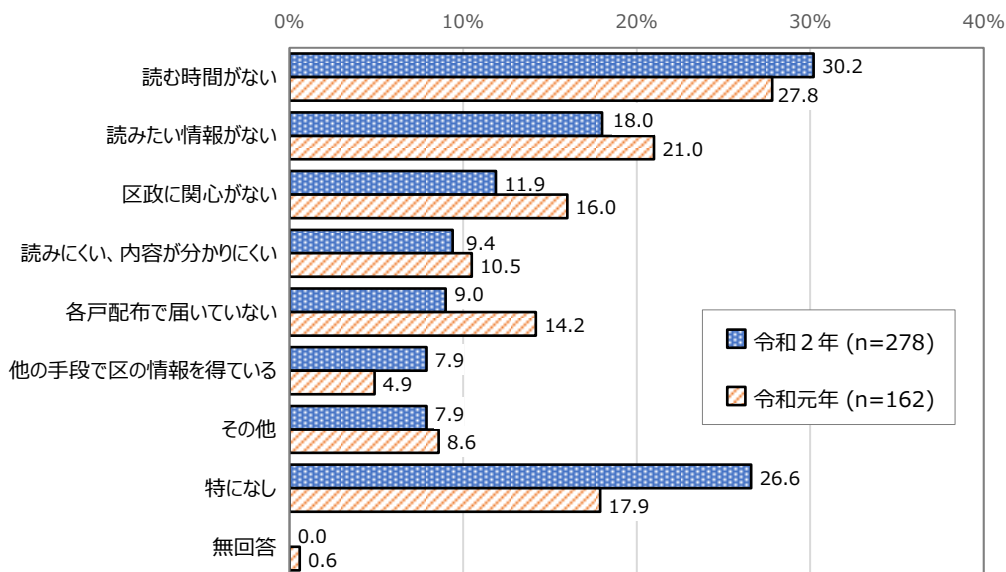
図Ⅲ-12-4 広報紙「しぶや区ニュース」の非読読理由



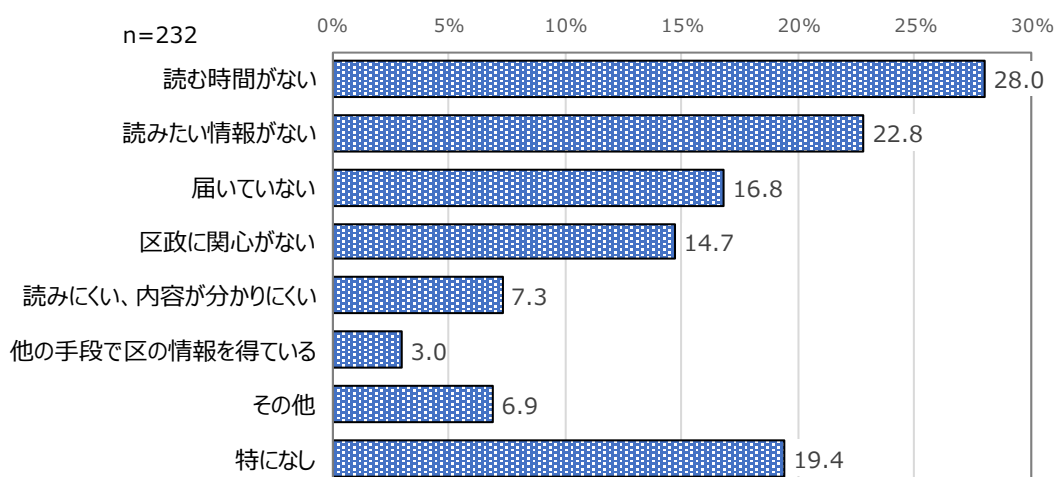
[その他の回答]

存在を知らない、頻繁すぎる、配布はやめてほしい、新聞類は手が汚れる、他のチラシと混ざってしまう、日本語のみ、欲しい情報があるかわからない、新聞に入らなくなった、親から回ってこない、区が提供するサービスがわかりづらい

図Ⅲ-12-5 広報紙「しぶや区ニュース」の非読読理由(令和元年調査との比較)



<参考資料>平成30年調査 広報紙「しぶや区ニュース」の非閲読理由(答は2つまで)



【年齢別】

回答数が30以上の20～50代についてみると、「読む時間がない」は若年層の方が高い傾向にあり、20～30代は3割台である。「区政に関心がない」は50代が1割半ば、「読みにくい、内容が分かりにくい」は40代が2割弱で他年代より高い。

表Ⅲ-12-1 広報紙「しぶや区ニュース」の非閲読理由(年齢別)

	(%)							
	各戸配布で届いていない	読みたい情報がない	読む時間がない	区政に関心がない	読みにくい、内容が分かりにくい	他の手段で区の情報を得ている	その他	特になし
全体 (n=278)	9.0	18.0	30.2	11.9	9.4	7.9	7.9	26.6
18歳・19歳 (n=16)	-	25.0	43.8	12.5	12.5	-	6.3	43.8
20代 (n= 81)	11.1	<u>12.3</u>	33.3	13.6	<u>3.7</u>	3.7	4.9	34.6
30代 (n= 74)	8.1	17.6	37.8	10.8	8.1	10.8	8.1	<u>21.6</u>
40代 (n= 51)	5.9	21.6	27.5	7.8	19.6	9.8	11.8	<u>21.6</u>
50代 (n= 35)	11.4	14.3	<u>17.1</u>	17.1	5.7	8.6	8.6	22.9
60代 (n= 14)	21.4	28.6	<u>14.3</u>	14.3	7.1	7.1	7.1	<u>14.3</u>
70歳以上 (n= 7)	-	42.9	-	-	28.6	28.6	14.3	28.6

注) 表中の は全体より5ポイント以上高い、下線は全体より5ポイント以上低いことを示す。

13. コミュニティFM・SNSについて

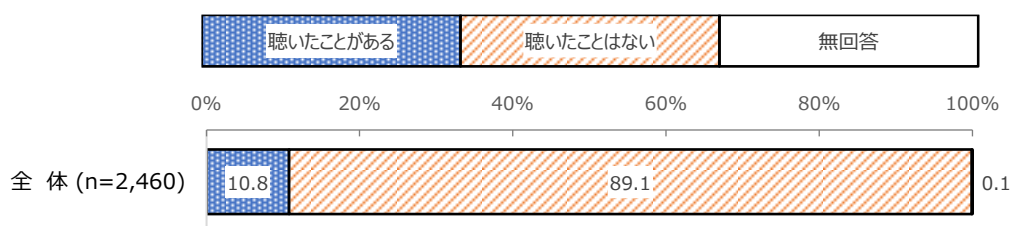
(1) 地域コミュニティFM「渋谷のラジオ」の聴取状況

問 28 渋谷区内では、平成28年4月から地域コミュニティ FM「渋谷のラジオ」(87.6MHz)が放送を開始しましたが、聞いたことがありますか。(答は1つ)

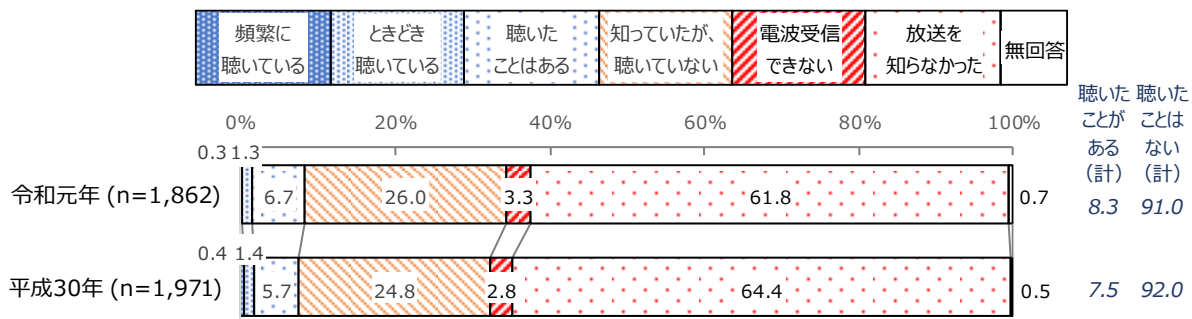
「聞いたことはない」が 89.1%を占める。「聞いたことがある」は 10.8%である。

過去2年の調査では選択肢が異なるため直接的な比較はできないが、平成 30 年、令和元年とも「聞いたことがある(計)」は1割未満で、聴取経験者は微増していることがうかがえる。

図Ⅲ-13-1 地域コミュニティFM「渋谷のラジオ」の聴取状況



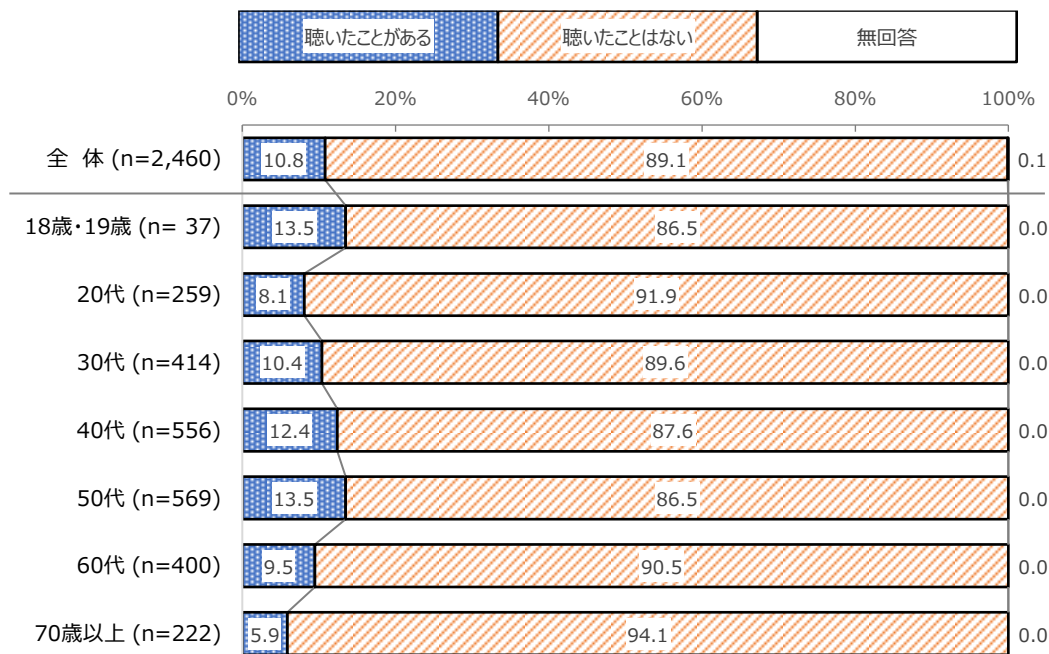
<参考資料> 地域コミュニティFM「渋谷のラジオ」の聴取状況



【年齢別】

各年代とも「聴いたことはない」が8割半ば～9割半ばを占める。「聴いたことがある」は18歳・19歳、30～50代が1割を超える。

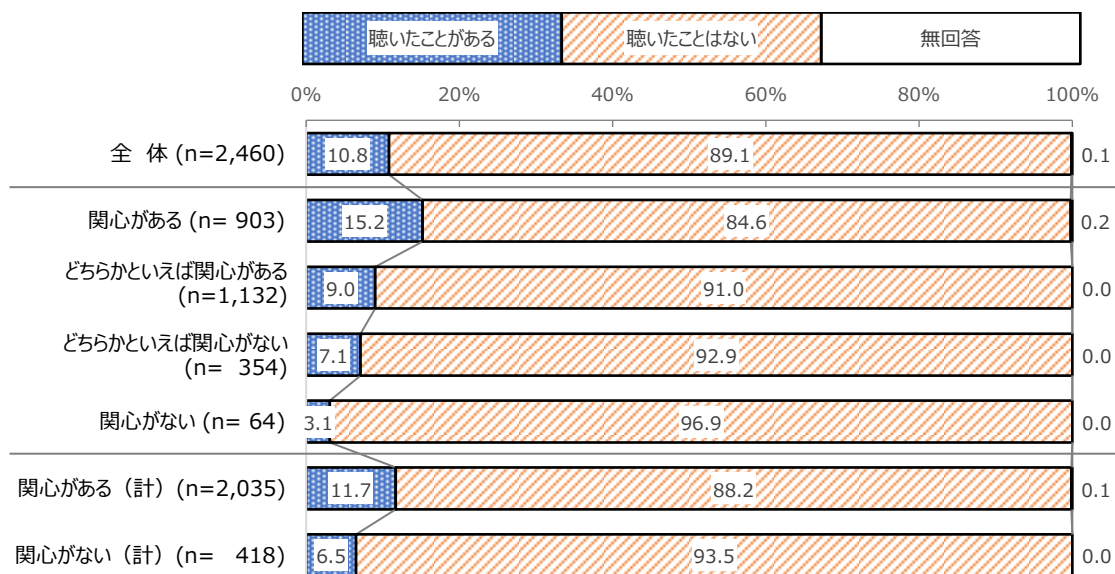
図Ⅲ-13-2 地域コミュニティFM「渋谷のラジオ」の聴取状況（年齢別）



【区政への関心度別】

「聴いたことがある」は区政に対する関心度が高いほど高くなっている。

図Ⅲ-13-3 地域コミュニティFM「渋谷のラジオ」の聴取状況（区政への関心度別）

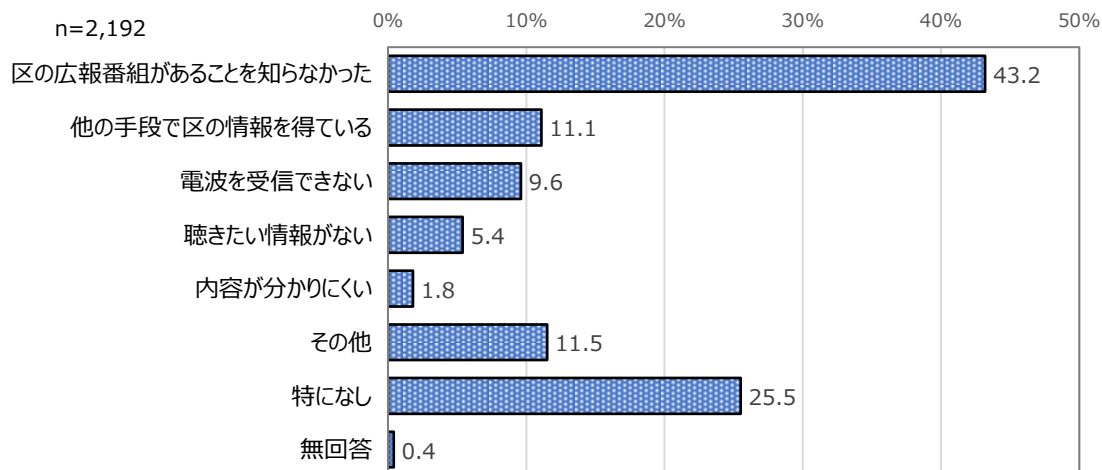


(2) 「渋谷のラジオ」非聴取理由

問 28-1 「渋谷のラジオ」を聴いていない理由は何ですか。(答はいくつでも) [問 28 で「聴いたことはない」と回答した方対象]

「区の広報番組があることを知らなかった」が 43.2%で最も高い。以下、「他の手段で区の情報を得ている」(11.1%)、「電波を受信できない」(9.6%)などが続く。「特になし」も 25.5%を占める。

図Ⅲ-13-4 「渋谷のラジオ」非聴取理由



【その他の回答】

ラジオを聴く習慣がない/ラジオを持っていない、時間がない/忙しい、存在を知らなかった、聴き方がわからない（ラジオの操作、周波数、スマホで聞く方法、アプリで受信できない）、興味がない/必要性を感じない、他局を聞いている、聴覚障害/耳が悪い、日本語が不自由 など

【年齢別】

「区の広報番組があることを知らなかった」は 18 歳・19 歳と 60 代以上が5割台で他年代より高い。「聴きたい情報がない」は年代が下がるにつれ高くなる傾向にあり、18 歳・19 歳は1割強である。「特になし」は 20 代以下が3割台で高い。

表Ⅲ-13-1 「渋谷のラジオ」非聴取理由（年齢別）

	区の広報番組があることを知らなかった	他の手段で区の情報を得ている	聴きたい情報がない	電波を受信できない	内容が分かりにくい	その他	特になし	無回答
全体 (n=2,192)	43.2	11.1	5.4	9.6	1.8	11.5	25.5	0.4
18歳・19歳 (n= 32)	50.0	6.3	12.5	<u>3.1</u>	3.1	<u>6.3</u>	37.5	-
20代 (n=238)	43.3	8.8	8.4	11.3	1.3	<u>5.9</u>	30.7	-
30代 (n=371)	39.4	12.1	6.2	8.4	2.2	12.4	27.0	-
40代 (n=487)	<u>34.9</u>	12.7	6.0	7.6	0.8	15.0	29.0	-
50代 (n=492)	42.7	9.3	4.5	10.4	2.4	11.6	25.6	-
60代 (n=362)	51.4	9.9	3.9	9.1	2.2	9.1	21.5	0.3
70歳以上 (n=209)	55.0	14.8	2.9	13.9	1.4	12.9	<u>13.4</u>	3.8

注) 表中の は全体より 5 ポイント以上高い、 は全体より 5 ポイント以上低いことを示す。

(3) 渋谷区SNSの認知・利用度

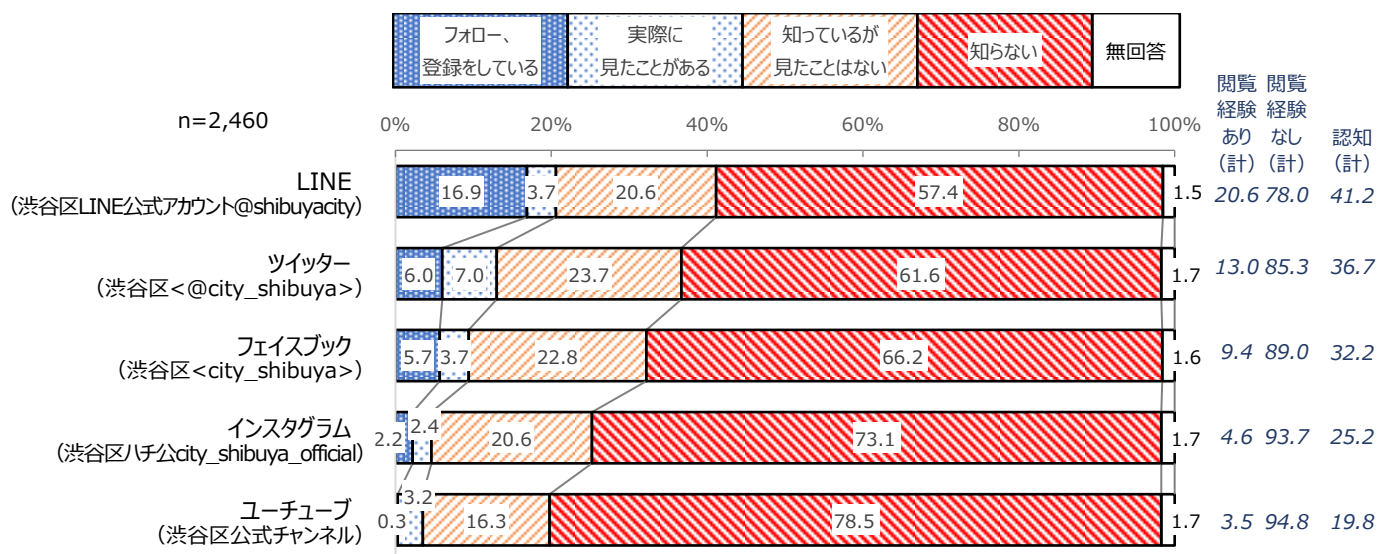
問 29 渋谷区では、LINE、Twitterなどソーシャルメディアを通じて情報を発信しています。あなたの利用状況を教えてください。(答はそれぞれ1つ)

「認知(計)」(「フォロー、登録をしている」+「実際に見たことがある」+「知っているが見たことはない」)は、「LINE(渋谷区 LINE 公式アカウント@shibuyacity)」が 41.2%で最も高く、次いで、「ツイッター(渋谷区<@city_shibuya>)」(36.7%)、「フェイスブック(渋谷区<city_shibuya>)」(32.2%)が3割を超える。

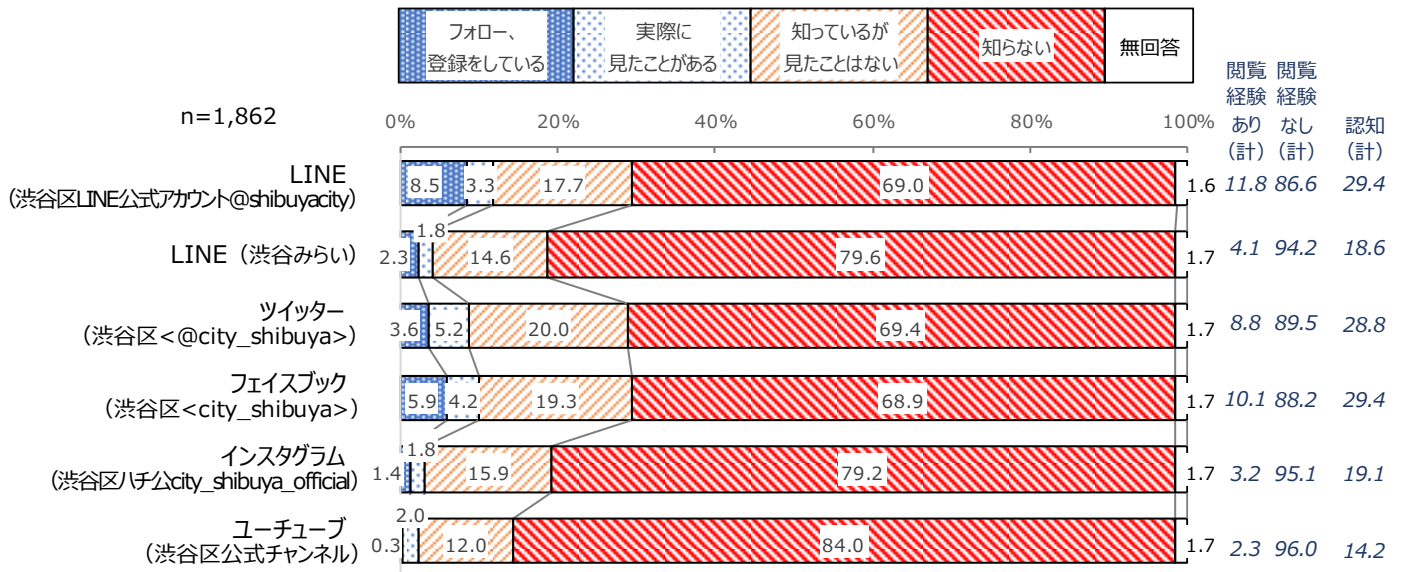
「閲覧経験あり(計)」(「フォロー、登録をしている」+「実際に見たことがある」)は、「LINE(渋谷区 LINE 公式アカウント@shibuyacity)」(20.6%)が2割強、「ツイッター(渋谷区<@city_shibuya>)」(13.0%)が1割半ばである。

過去2年の調査と比較すると、「認知(計)」はいずれの媒体も年々高くなっている。「閲覧経験あり(計)」は「フェイスブック(渋谷区<city_shibuya>)」が令和元年よりやや下がっているものの、その他の媒体は年々高くなっている。

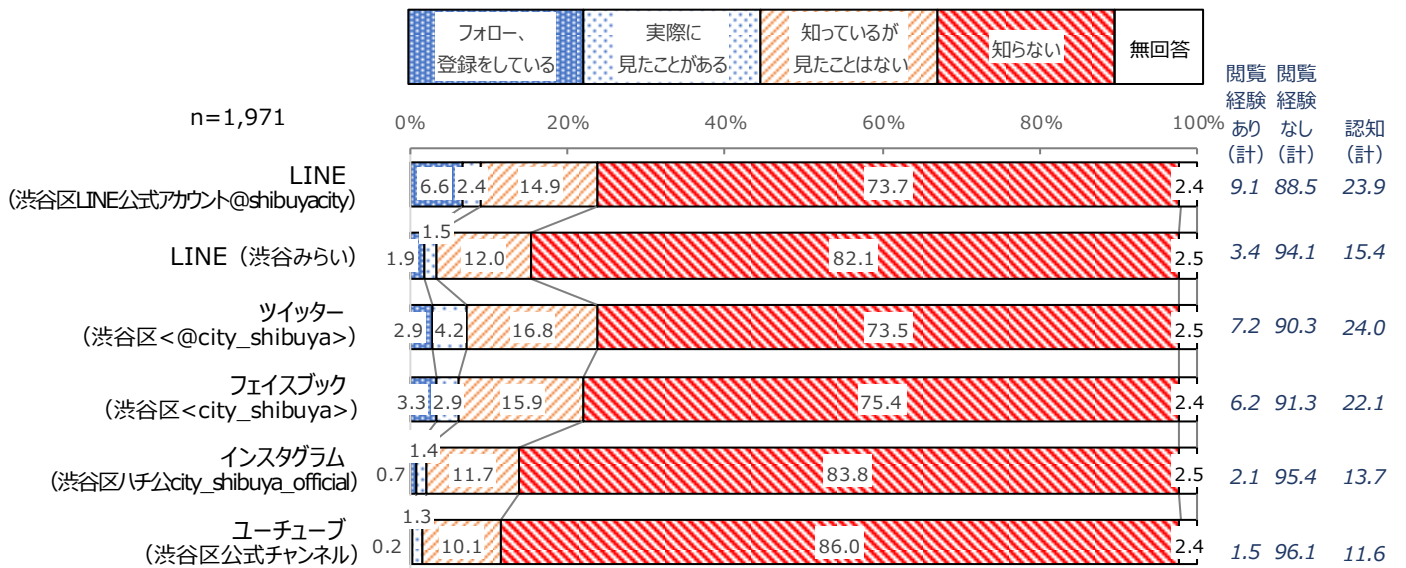
図Ⅲ-13-5 渋谷区SNSの認知・利用度



図Ⅲ-13-6 平成元年調査 渋谷区SNSの認知・利用度



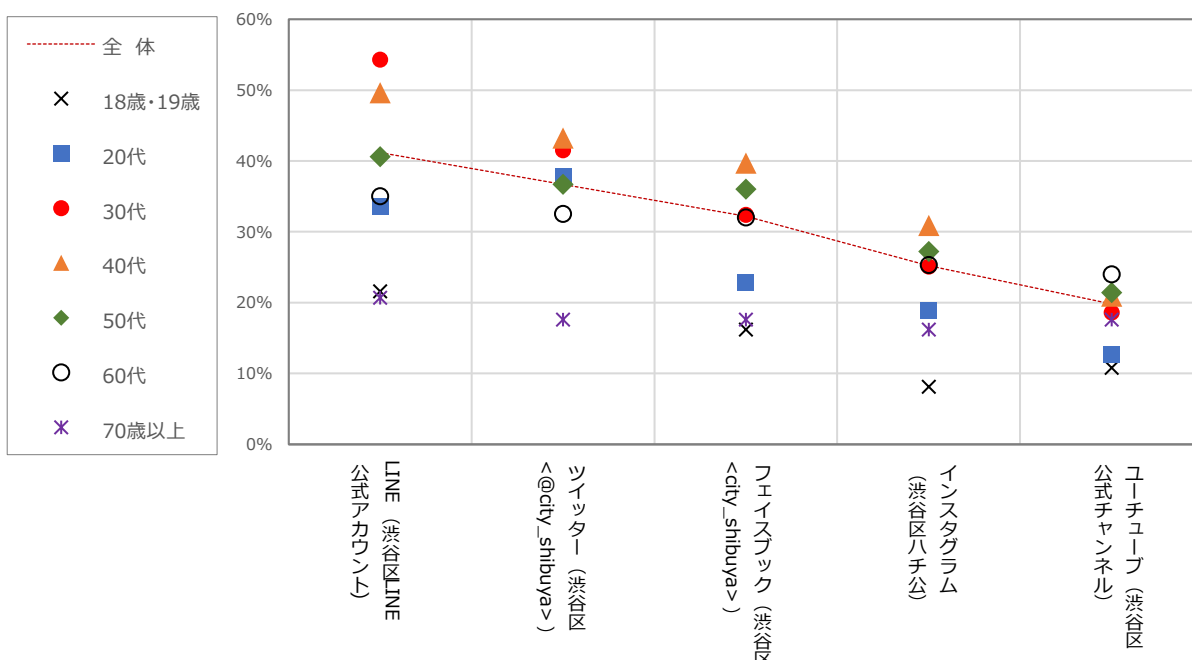
図Ⅲ-13-7 平成30年調査 渋谷区SNSの認知・利用度



【年齢別の認知率】

「LINE(渋谷区LINE公式アカウント)」の「認知(計)」は30代が5割半ば、40代も5割弱で他年代より高い。「ツイッター(渋谷区<@city_shibuya>)」は30~40代が4割台、その他の年代も70歳以上を除きいずれも3割台で、幅広い年代で認知率が高い。「フェイスブック(渋谷区<city_shibuya>)」は30~60代が3割台と高い。

図Ⅲ-13-8 渋谷区SNSの認知・利用度(年齢別の認知率)

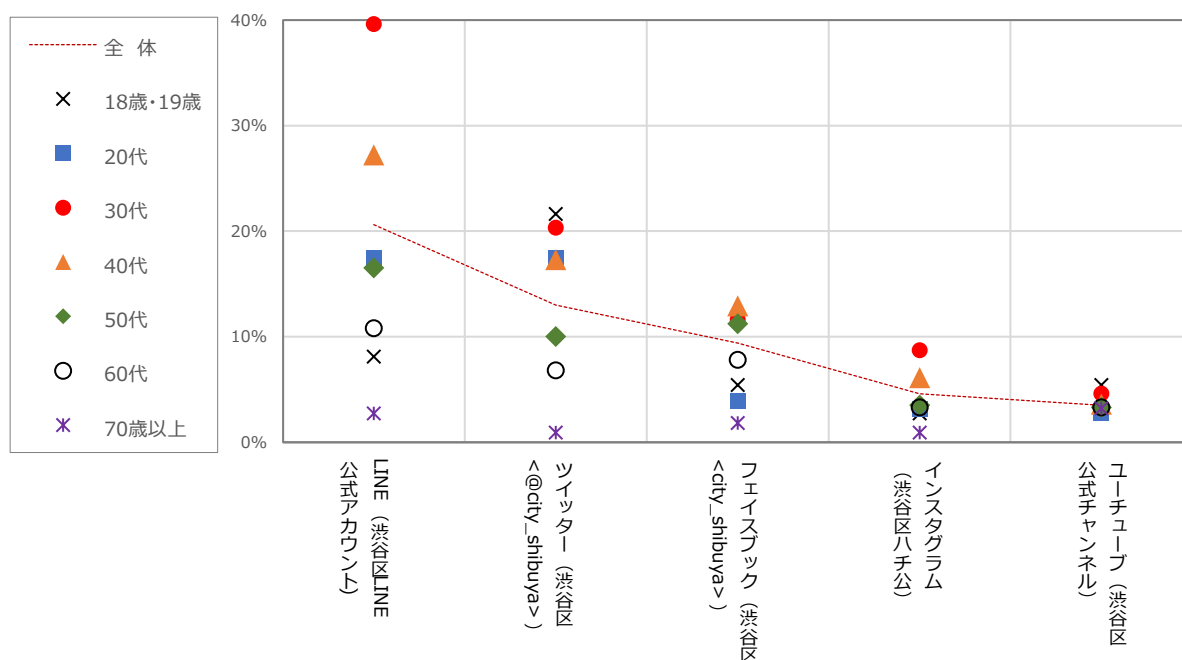


全 体 (n=2,460)	41.2	36.7	32.2	25.2	19.8
18歳・19歳 (n= 37)	21.6	37.8	16.2	8.1	10.8
20代 (n=259)	33.6	37.8	22.8	18.9	12.7
30代 (n=414)	54.3	41.5	32.4	25.1	18.6
40代 (n=556)	49.6	43.2	39.7	30.9	20.9
50代 (n=569)	40.6	36.7	36.0	27.2	21.4
60代 (n=400)	35.0	32.5	32.0	25.3	24.0
70歳以上 (n=222)	20.7	17.6	17.6	16.2	17.6

【年齢別の閲覧率】

「LINE(渋谷区 LINE 公式アカウント)」の「閲覧経験あり(計)」は30代が約4割で、全体より倍近く高い。40代も2割半ばで他年代より高い。「ツイッター(渋谷区<@city_shibuya>)」は18歳・19歳と30代が2割台、20代と40代も1割半ばと高い。「フェイスブック(渋谷区<city_shibuya>)」は30～50代が1割を超える。

図Ⅲ-13-9 渋谷区SNSの認知・利用度(年齢別の閲覧率)



全体 (n=2,460)	20.6	13.0	9.4	4.6	3.5
18歳・19歳 (n= 37)	8.1	21.6	5.4	2.7	5.4
20代 (n=259)	17.4	17.4	3.9	3.1	2.7
30代 (n=414)	39.6	20.3	11.6	8.7	4.6
40代 (n=556)	27.2	17.3	12.9	6.1	3.6
50代 (n=569)	16.5	10.0	11.2	3.5	3.3
60代 (n=400)	10.8	6.8	7.8	3.3	3.3
70歳以上 (n=222)	2.7	0.9	1.8	0.9	3.2

令和2年度 渋谷区区民意識調査 ご協力をお願い

日頃、渋谷区政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本区では、区民の皆さまの区政に対するご要望やニーズを区政に反映させるために、毎年区民意識調査を実施しております。新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、日常ご不便、ご面倒の多いこととお察し申し上げますが、何卒調査へのご協力をお願いいたします。

意識調査は無記名式です。個人のお名前やご住所が特定されることはありませんので、安心してお答えください。意識調査の結果は、今後の区政運営のための基礎資料として活用させていただきます。お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、渋谷区のより良い発展のために、区民の皆さまどうかご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年11月

渋谷区長 **長谷部 健**

※本調査に関するお問い合わせがございましたら、下記までご連絡ください。

渋谷区 経営企画部 広報コミュニケーション課 広聴相談係
〒150-8010 渋谷区宇田川町1番1号
電話:03-3463-1211(代表) FAX:03-5458-4920
E-mail: sec-kocho@shibuya.tokyo

ご回答にあたってのお願い

回答は「郵送」または「インターネット」のいずれかの方法で行うことができます。

郵送で回答する方へ

- 1 この用紙の2ページ目より回答をお願いいたします。
- 2 回答は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いいたします。
- 3 回答は、あてはまる”番号”に○印をつけてください。(一部、番号を記入する質問もあります。)
「その他()」を選ばれた場合は、()内に具体的な内容をご記入ください。
- 4 回答していただく方が限られる質問がありますので、()内の指示に従ってお答えください。
- 5 質問によって、答えの数を(1つ)(2つまで)などと指定しておりますので、その範囲内でお答えください。

インターネットで回答する方へ

- 1 パソコン、スマートフォン、携帯電話から回答できます。
(※携帯電話の機種によっては回答できない場合がありますのでご了承ください。)
- 2 右のQRコードを読み取るか、下のURLを入力してください。
- 3 アンケート画面が表示されますので、画面の指示に従ってご回答ください。

URL : https://www.city.shibuya.tokyo.jp/2020_survey.html
パスワード : ishiki2020

QRコード



令和2年12月3日(木)までにご回答ください。

定住性について

(全員の方に)

問1 あなたは、渋谷区に住んで何年になりますか。(答は1つ)

※直近の居住年数についてお答えください。過去の居住については含みません。

1 2年未満	4 10年～20年未満
2 2年～5年未満	5 20年～30年未満
3 5年～10年未満	6 30年以上

(全員の方に)

問2 お住まいの地域はどちらですか。(答は1つ) ※番号に○をつけてください。

笹塚・幡ヶ谷・ 初台・本町周辺	1 初台	2 本町	3 笹塚	4 幡ヶ谷
代々木上原・ 代々木八幡周辺	5 代々木神園町	6 上原	7 富ヶ谷	8 西原
	9 元代々木町	10 大山町		
千駄ヶ谷・原宿・ 神宮前周辺	11 代々木	12 千駄ヶ谷	13 神宮前	
	14 鉢山町	15 鶯谷町	16 渋谷	17 桜丘町
渋谷駅周辺	18 南平台町	19 道玄坂	20 円山町	21 神泉町
	22 松濤	23 神山町	24 宇田川町	25 神南
	26 恵比寿	27 広尾	28 東	29 恵比寿南
代官山・恵比寿・ 広尾周辺	30 恵比寿西	31 代官山町	32 猿楽町	

(全員の方に)

問3 これからも渋谷区に住みつづけたいと思いますか。(答は1つ)

1 ずっと住み続けたい	→問4へ
2 できれば住み続けたい	
3 できたら区外に転出したい	→問3-1へ
4 すぐにでも転出したい	

(問3で「3」か「4」と答えた方に)

問3-1 あなたが区外に転出したい理由は何ですか。

一番大きな理由、次に大きな理由、三番目に大きな理由を、それぞれ教えてください。

※下の枠内にあてはまる番号を記入してください。

(答はそれぞれ1つ)

1 現在の住宅が狭いから	8 買い物が不便だから(近くに商店がない、物価が高いなど)
2 家賃、地代が高いから	
3 固定資産税、相続税が高いから	9 他の区市町村に住んでいる親族と同居するため
4 住まい周辺の環境が悪くなってきたから	10 転勤、就職、通学のため
5 震災対策が不安だから	11 社宅だから
6 近隣の住民(友人・知人)が減り生活が不安だから	
7 子どもの教育環境が悪いから	12 その他
	()



上記の中から、あてはまる番号を1つ下の枠内に記入してください。

一番大きな理由

次に大きな理由

三番目に大きな理由

※一番目は必ずご記入ください。二番目以降はあてはまるものがある場合のみご記入ください。

区政について

(全員の方に)

問4 あなたは、渋谷区政に関心がありますか。(答は1つ)

1 関心がある
2 どちらかといえば関心がある
3 どちらかといえば関心がない
4 関心がない

(全員の方に)

問5 あなたは、渋谷区の以下の施策について充実していると思いますか。(答はそれぞれ1つ)

	充実している	どちらかといえ ば充実している	どちらかといえ ば充実していない	充実していない
(記入例) A 学校教育 	1	②	3	4
A 学校教育	1	2	3	4
B 子育て支援	1	2	3	4
C 高齢者施策	1	2	3	4
D 障害者支援	1	2	3	4
E 健康(健康・医療・運動不足解消など)のための支援	1	2	3	4
F 防災対策・避難場所	1	2	3	4
G 防犯・風紀対策	1	2	3	4
H まちの美化	1	2	3	4
I まちのバリアフリー化	1	2	3	4
J 広場や公園	1	2	3	4
K 路上喫煙・タバコ対策	1	2	3	4
L ごみ減量・リサイクルの推進	1	2	3	4
M 街の景観	1	2	3	4
N 駐輪場・自転車対策・シェアサイクルなど 多様な交通手段の利用	1	2	3	4

(全員の方に)

問6 あなたは日頃、区政に関する情報をどのような方法で入手していますか。(答はいくつでも)

1 広報紙「しぶや区ニュース」(各戸配布)	7 町会・自治会の掲示板、回覧板
2 渋谷区のホームページ	8 テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア
3 渋谷区公式 Twitter(ツイッター)	9 SNS やWebのニュースサイトの情報 (渋谷区公式以外)
4 渋谷区公式 LINE	10 家族や友人・知人などからの口コミ
5 渋谷区公式 Facebook(フェイスブック)	11 その他()
6 渋谷のラジオ(地域コミュニティFM)	

コロナについて

(全員の方に)

問7 現在、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症について、
今後、対策として渋谷区に望むことはどのようなことですか。

最も望むこと、次に望むこと、三番目に望むことを、それぞれ教えてください。(答はそれぞれ1つ)

※下の枠内にあてはまる番号を記入してください。

- | |
|-----------------------------------|
| 1 スマートフォンや郵送を活用した非来庁による各種申請手続きの拡大 |
| 2 マイナンバーカードを活用した各種申請手続きの拡大 |
| 3 証明書等のコンビニ交付の拡大 |
| 4 医療や福祉分野におけるオンライン技術の活用 |
| 5 区独自の給付金や助成の拡大 |
| 6 区独自のPCR検査体制の強化 |
| 7 陽性者に関する情報(行動履歴等)の公開 |
| 8 区関連部署の体制、電話による受付体制の強化 |
| 9 区施設における十分な感染症対策 |
| 10 その他() |



上記の中から、あてはまる番号を1つ
下の枠内に記入してください。

最も望むこと

次に望むこと

三番目に望むこと

※一番目は必ずご記入ください。二番目以降はあてはまるものがある場合のみご記入ください。

(全員の方に)

問8 あなたは日頃、新型コロナウイルス感染症に関する情報をどのような方法で入手していますか。

(答はいくつでも)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア |
| 2 SNSやWebのニュースサイトの情報(官公庁公式を除く) |
| 3 厚生労働省等の国のWebサイトの情報 |
| 4 東京都のWebサイトの情報 |
| 5 渋谷区のホームページ |
| 6 渋谷区公式SNS(Twitter、LINE、Facebook)の情報 |
| 7 家族や友人・知人などからの口コミ |
| 8 その他() |
| 9 特に入手していない |

渋谷区基本構想について

(全員の方に)

問9 渋谷区では平成28年10月に渋谷区の未来像として、「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」というスローガンを掲げる新しい基本構想を策定しました。この基本構想またはスローガンをご存知ですか。

※このアンケートに答える前の事についてお答えください。 (答は1つ)

1 スローガンも基本構想の内容も知っている	→	問9-1へ
2 スローガンは知っているが、基本構想は知らない		
3 スローガンは知らないが、基本構想は知っている		
4 両方とも知らない	→	問10へ

(問9で「1」か「2」か「3」と答えた方に)

問9-1 スローガンまたは基本構想を何からお知りになりましたか。(答はいくつでも)

1 広報紙「しぶや区ニュース」(各戸配布)	7 町会・自治会の掲示板、回覧板
2 渋谷区のホームページ	8 テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア
3 渋谷区公式 Twitter(ツイッター)	9 SNS やWebのニュースサイトの情報 (渋谷区公式以外)
4 渋谷区公式 LINE	10 家族や友人・知人などからの口コミ
5 渋谷区公式 Facebook(フェイスブック)	11 その他()
6 渋谷のラジオ(地域コミュニティFM)	

(全員の方に)

問10 スローガン、基本構想がどのようなところで紹介されれば目にふれやすいと思いますか。

最も目にふれやすいもの、次に目にふれやすいもの、三番目に目にふれやすいものを、それぞれ教えてください。(答はそれぞれ1つ)

※下の枠内にあてはまる番号を記入してください。

1 広報紙「しぶや区ニュース」(各戸配布)	7 町会・自治会の掲示板、回覧板
2 渋谷区のホームページ	8 テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア
3 渋谷区公式 Twitter(ツイッター)	9 SNS やWebのニュースサイトの情報 (渋谷区公式以外)
4 渋谷区公式 LINE	10 家族や友人・知人などからの口コミ
5 渋谷区公式 Facebook(フェイスブック)	11 その他()
6 渋谷のラジオ(地域コミュニティFM)	

上記の中から、あてはまる番号を1つ下の枠内に記入してください。

↓

最も 目にふれやすいもの

次に 目にふれやすいもの

三番目に 目にふれやすいもの

※一番目は必ずご記入ください。二番目以降はあてはまるものがある場合のみご記入ください。

高齢者施策について

(全員の方に)

問11 あなたご自身またはご家族に介護が必要となった場合、不安はありますか。

すでに介護が必要な場合を含めてお答えください。(答は1つ)

1 不安がある	→問11-1へ
2 不安はない	→問12へ

(問11で「1」と答えた方に)

問11-1 具体的にはどのような不安がありますか。(答はいくつでも)

1 金銭面	6 育児との両立
2 介護の方法	7 他の家族との関係
3 自分の心身の状況	8 介護サービスに関する手続き
4 仕事との両立	9 その他()
5 家事との両立	

(全員の方に)

問12 これからの高齢者施策で渋谷区が優先的に取り組む必要があるものは何ですか。

最も必要なもの、次に必要なもの、三番目に必要なものを、それぞれ教えてください。

※下の枠内にあてはまる番号を記入してください。

(答はそれぞれ1つ)

1 生きがいづくり・社会参加の支援(就労の支援や社会貢献活動・ボランティアなどの社会参加)
2 健康づくり(介護予防事業、健康体操・講座)
3 在宅介護の支援(在宅で生活が続けられる介護・医療サービス、家族介護者への支援)
4 介護保険対象外サービス (区独自ホームヘルプサービス、介護予防デイサービスの回数上乘せなど)
5 認知症高齢者への支援(正しい知識の普及啓発、早期発見・予防)
6 高齢者施設の拡充 (特別養護老人ホーム、通いで介護を受けられる(デイサービス等)施設の充実)
7 高齢者向け住宅の充実
8 相談・支援体制の充実(相談窓口・情報提供の充実、ひとり暮らし高齢者等の見守り)
9 防犯対策、権利擁護(悪質商法など犯罪の防止、高齢者虐待の防止、成年後見制度の普及)
10 終活(人生の終焉に向けての事前準備:相続、葬儀、お墓等)に関する支援
11 その他()

上記の中から、あてはまる番号を1つ下の枠内に記入してください。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">最も必要なもの</div> <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">次に必要なもの</div> <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">三番目に必要なもの</div> <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>
---	---	---

※一番目は必ずご記入ください。二番目以降はあてはまるものがある場合のみご記入ください。

(全員の方に)

問13 あなたが将来介護を必要とする状況になった場合、どのような介護を最も望みますか。

現在介護を受けている方も、最も望む介護をお選びください。(答は1つ)

- 1 在宅のままで家族や親族からの介護
- 2 在宅のままで友人・知人からの介護
- 3 在宅のままで訪問看護やホームヘルプサービスなどを利用
- 4 高齢者福祉施設(特別養護老人ホームなど)に入所
- 5 民間の有料老人ホーム等に入所
- 6 その他()
- 7 分からない

アクティブシニアについて

(全員の方に)

問14 あなたは、渋谷区に住む高齢者が、地域の多様な活動や区主催の事業への参加などを通じて、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思いますか。

若年層の方は、ご家族や近所の方など、身の回りの高齢者を想定してお答えください。(答は1つ)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 そう思う | 3 どちらかといえばそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 4 そう思わない |
| | 5 分からない |

(全員の方に)

問15 プレシニア世代からアクティブシニア世代の方がいつまでも楽しく元気に活躍し続けられるように、皆様がお持ちの経験や能力を活かすことができる機会や新たな学びの場などを提供する「渋谷生涯活躍ネットワーク・シブカツ(通称シブカツ)」を、令和元年7月から渋谷ヒカリエ8階に開設しました。また、シブカツでは区内の大学や民間企業等と連携し、今までにない新しい学びのカタチ「渋谷ハチコウ大学」を開講しています。

あなたは、今後どのようなことをシブカツに期待しますか。(答はいくつでも)

- 1 経験や能力を活かせる場の情報提供
- 2 渋谷ハチコウ大学の講座の充実
- 3 働くための情報
- 4 スマホなどのデジタル機器の初期設定や操作方法の相談窓口
- 5 シブカツの活動紹介を含めた専用Webサイトの充実
- 6 その他()
- 7 特になし

渋谷区喫煙ルールについて

(全員の方に)

問16 渋谷区では、平成31年4月より『きれいなまち渋谷をみんなで作る条例』改正に伴い、「屋外の公共の場所では喫煙しない」「たばこは決められた場所のみで吸うことができる」という『渋谷区喫煙ルール』を新たに定めました。

あなたは、この『渋谷区喫煙ルール』をどの程度知っていますか。(答はいくつでも)

- 1 「指定喫煙所」以外の屋外の公共の場所(区内の道路・公園・広場・その他公共の場所)が終日禁煙であることを知っている
- 2 屋外の公共の場所での喫煙は過料の対象であることを知っている
- 3 渋谷区では加熱式たばこもタバコ葉を加熱する製品は規制対象であることを知っている
- 4 内容は知らないが、ルールがあることだけは知っている
- 5 知らなかった(この調査で初めて知った)

(全員の方に)

問17 今後、喫煙ルールについて、渋谷区にどのようなことを期待しますか。

最も期待すること、次に期待すること、三番目に期待することを、それぞれ教えてください。

※下の枠内にあてはまる番号を記入してください。

(答はそれぞれ1つ)

- 1 受動喫煙による健康への悪影響についての普及啓発
- 2 喫煙者へのマナー向上のための普及啓発
- 3 指導員の巡回による指導、過料徴収などの着実な運用
- 4 受動喫煙防止のために必要な環境の整備
- 5 渋谷区喫煙ルールの緩和や規制によらない自主的な取組みの促進
- 6 加熱式たばこを規制対象外とすること
- 7 その他()



上記の中から、あてはまる番号を1つ下の枠内に記入してください。

最も期待すること

次に期待すること

三番目に期待すること

※一番目は必ずご記入ください。二番目以降はあてはまるものがある場合のみご記入ください。

ネウボラについて

(全員の方に)

問18 保健師があらゆる相談の窓口になって、妊娠中から子どもが18歳になるまで支援する「渋谷区子育てネウボラ」についてどのようなことを期待しますか。(答は2つまで)

- 1 保健師に気軽に相談できること
- 2 保健師に相談することで、適切な窓口につないでもらえること
- 3 訪問して支援してもらえること
- 4 妊娠中から子育て中の子育てサービスの紹介
- 5 その他()
- 6 特になし

(全員の方に)

問19 平成31年度からすべての妊婦の方を対象とした保健師による面接を始めています。「妊婦面接」にどのようなことを期待しますか。(答はいくつでも)

- 1 妊娠中の体の変化や家族のことを相談できること
- 2 出産後の子育てについて相談できること
- 3 利用できるサービスの紹介
- 4 育児パッケージをもらえること
- 5 その他()
- 6 特になし

(全員の方に)

問20 「渋谷区子育てネウボラ」では、「妊娠から出産、子育てを通じて家族みんながいつでも相談できる場をつくる。子育てを通じて、出会う、集う、語る、つながる。そして地域みんなで子どもを育てる。」ことを目指しています。

あなたも地域の子育てに参加したいと思いますか。(答は1つ)

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1 ぜひ参加したい | 3 参加したいとは思わない |
| 2 機会があれば参加したい | 4 すでに子育てグループやNPOに参加している |

スマートフォンについて

(全員の方に)

問21 あなたはスマートフォンを持っていますか。(答は1つ)

- | | |
|------------------|---------|
| 1 スマートフォンを持っている | →問22へ |
| 2 スマートフォンを持っていない | →問21-1へ |

(問21で「2」と答えた方に)

問21-1 スマートフォンを持っていない理由は何ですか。(答はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 教えてくれる人がいないから | 5 詐欺等の犯罪が不安 |
| 2 費用がかかるから | 6 必要がないから |
| 3 手続きが面倒だから | 7 その他() |
| 4 個人情報への漏洩が不安 | |

(問21で「2」と答えた方に)

問21-2 渋谷区から、購入費用や操作方法の支援が受けられる場合、利用してみたいスマートフォンの機能はどんなことですか。(答はいくつでも)

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1 通話や電子メール | 6 マイナポイント等ポイントサービス |
| 2 インターネット | 7 フードデリバリーサービス |
| 3 LINE | 8 その他の機能() |
| 4 その他SNS | 9 支援があっても利用したくない |
| 5 キャッシュレス決済 | |

おとなりサンデーについて

(全員の方に)

問22 渋谷区では、平成29年から毎年6月に“ふだん話す機会の少ない近隣の人ととも顔見知りになる「渋谷おとなりサンデー」(渋谷区版隣人まつり)”を実施しています。

この「渋谷おとなりサンデー」を知っていますか。(答は1つ)

- | | |
|--------------------|---------|
| 1 参加したことがある | →問23へ |
| 2 知っているが、参加したことはない | →問22-1へ |
| 3 知らなかった | →問23へ |

(問22で「2」と答えた方に)

問22-1 参加しなかった理由は何ですか。(答は2つまで)

- | |
|------------------------------------|
| 1 近所付き合いに関心がないから |
| 2 面白くなさそうだったから(興味がなかったから) |
| 3 自分のためにならないと思ったから |
| 4 事前に内容がよく分からなかったから |
| 5 オンラインでの参加方法がよく分からなかったから |
| 6 別の用事が入っていたから(時間が合わなかったから) |
| 7 新型コロナウイルス感染症の影響で、参加できる状況ではなかったから |
| 8 その他() |
| 9 特になし |

(全員の方に)

問23 「渋谷おとなりサンデー」のようなご近所さんと顔見知りになるための様々な地域のイベントや小さなパーティーについての考えをお選びください。(答はいくつでも)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 近所で開催があれば参加したい | 4 自分でも企画・開催してみたい |
| 2 オンライン開催があれば参加したい | 5 今のところ興味がない |
| 3 他の人にも声をかけたい | |

町会・自治会について

(全員の方に)

問24 あなたの考える近所付き合いはどのようなものですか。(答は1つ)

※あてはまるものが無い人も、選択肢の中から比較して最もお気持ちに近いものをお選びください。

- | |
|---------------------------|
| 1 日頃から仲良く交流すること |
| 2 地域の行事や清掃活動などに参加すること |
| 3 あいさつを交わす程度だが災害時等は助け合うこと |
| 4 付き合いは必要ない |

(全員の方に)

問25 あなたは、町会・自治会に加入していますか。(答は1つ)

- | | |
|-----------|---------|
| 1 加入している | →問26へ |
| 2 加入していない | →問25-1へ |
| 3 分からない | →問26へ |

(問25で「2」と答えた方に)

問25-1 加入していない理由は何ですか。(答はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 1 仕事などが忙しく時間がないから |
| 2 知っている人がいないから |
| 3 同世代の人が入っていないから |
| 4 人間関係がわずらわしそうだから |
| 5 活動の内容が分からないから |
| 6 役員や当番のような役職につくのが嫌だから |
| 7 町会費を負担するのが嫌だから |
| 8 加入する機会がなかったから(加入する方法を知らないから) |
| 9 その他() |
| 10 特になし |

(全員の方に)

問26 町会・自治会の役割としてどのようなことを期待しますか。(答は3つまで)

- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 1 高齢者の活動の場 | 7 地域防災(避難、災害時の避難場所の
設営・運営などを含む) |
| 2 住民間の交流促進 | 8 交通安全 |
| 3 単身高齢者世帯の見守り | 9 地域の祭りやイベントの開催 |
| 4 防犯活動(見回り活動などを含む) | 10 その他() |
| 5 子どもの登下校など見守り | 11 特になし |
| 6 地域の美化活動 | |

広報紙「しぶや区ニュース」について

(全員の方に)

問27 あなたは、広報紙「しぶや区ニュース」を読んでいますか。(答は1つ)

- | | |
|----------|---------|
| 1 毎号読む | →問28へ |
| 2 ときどき読む | |
| 3 読まない | →問27-1へ |

(問27で「3」と答えた方に)

問27-1 「しぶや区ニュース」を読まない理由は何ですか。(答はいくつでも)

- | |
|-------------------|
| 1 各戸配布で届いていない |
| 2 読みたい情報がない |
| 3 読む時間がない |
| 4 区政に関心がない |
| 5 読みにくい、内容が分かりにくい |
| 6 他の手段で区の情報を得ている |
| 7 その他() |
| 8 特になし |

コミュニティFM・SNSについて

(全員の方に)

問28 渋谷区内では、平成28年4月から地域コミュニティFM「渋谷のラジオ」(87.6MHz)が放送を開始しましたが、聞いたことがありますか。(答は1つ)

1 聞いたことがある	→問29へ
2 聞いたことはない	→問28-1へ

(問28で「2」と答えた方に)

問28-1 「渋谷のラジオ」を聞いていない理由は何ですか。(答はいくつでも)

1 区の広報番組があることを知らなかった
2 他の手段で区の情報を得ている
3 聴きたい情報がない
4 電波を受信できない
5 内容が分かりにくい
6 その他()
7 特になし

(全員の方に)

問29 渋谷区では、LINE、Twitterなどソーシャルメディアを通じて情報を発信しています。あなたの利用状況を教えてください。(答はそれぞれ1つ)

	登録 フォロー している	見 実 た に こ と が あ る	見 知 た こ と は な い	知 ら な い
(記入例) A LINE(渋谷区LINE公式アカウント@shibuyacity) →	1	②	3	4
A LINE(渋谷区LINE公式アカウント@shibuyacity)	1	2	3	4
B ツイッター(Twitter/渋谷区<@city_shibuya>)	1	2	3	4
C フェイスブック(Facebook/渋谷区<city_shibuya>)	1	2	3	4
D インスタグラム (Instagram/渋谷区ハチ公city_shibuya_official)	1	2	3	4
E ユーチューブ (YouTube/渋谷区公式チャンネル https://www.youtube.com/channel/UCIHS6GaXu7XpLlgG6Om1fEg)	1	2	3	4

あなたご自身について

(全員の方に)

問30 あなたの性別をお答えください。(答は1つ)

- 1 男性
- 2 女性
- 3 その他

(全員の方に)

問31 あなたの年齢をお答えください。(答は1つ)

- | | |
|-----------|---------|
| 1 18歳・19歳 | 5 50代 |
| 2 20代 | 6 60代 |
| 3 30代 | 7 70歳以上 |
| 4 40代 | |

(全員の方に)

問32 あなたのご職業をお答えください。(答は1つ)

- | | |
|-----------------|------------|
| 1 自営業 | 6 専業主婦(主夫) |
| 2 会社員 | 7 学生 |
| 3 公務員 | 8 無職 |
| 4 会社役員 | 9 その他 |
| 5 アルバイト・パートタイマー | |

(全員の方に)

問33 配偶者はいらっしゃいますか。(答は1つ)

- | | |
|----------------|-------|
| 1 あり | →問34へ |
| 2 なし(離婚・死別を含む) | →問35へ |

(問33で「1」と答えた方に)

問34 あなたと配偶者は共働きですか。(答は1つ)

- 1 共働き
- 2 共働きではない

(全員の方に)

問35 あなたご自身にお子様はいらっしゃいますか。(答は1つ) ※別居を含む

1 いる

→問36へ

2 いない

→問37へ

(問35で「1」と答えた方に)

問36 長子は次のどれにあたりますか。(答は1つ)

1 4歳未満

5 高校生・高専生

2 4歳～小学校就学前

6 大学生・短大生・専門学校生・大学院生

3 小学生

7 社会人

4 中学生

8 その他

(全員の方に)

問37 現在のあなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。(答は1つ)

1 一人暮らし

4 三世代家族(親と子どもと孫)

2 夫婦のみ

5 パートナーなどとの共同生活

3 二世代家族(親と子ども)

6 その他

(全員の方に)

問38 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(答は1つ)

1 一戸建て(持ち家)

5 公共住宅(区営・都営・公社・都市再生機構)

2 分譲マンション(持ち家)

6 社宅・官舎・寮

3 一戸建て(借家)

7 住み込み・間借り・ルームシェア

4 マンション・アパート(借家)

8 その他

(全員の方に)

問39 あなたの世帯の一年間の収入の合計額(税込み)をお選びください。(答は1つ)

1 300万円未満

5 1,000万円～2,000万円未満

2 300万円～500万円未満

6 2,000万円以上

3 500万円～700万円未満

7 分からない

4 700万円～1,000万円未満

ご協力ありがとうございました。

※ご記入いただいた調査用紙は同封の返信用封筒に封入のうえ、

12月3日(木)までにご投函ください。

令和元2年度 渋谷区 区民意識調査 報告書

発行： 渋谷区 経営企画部 広報コミュニケーション課
〒150-8010 東京都渋谷区宇田川町 1-1
電話：03-3463-1211 FAX：03-5458-4920

実施： 株式会社アダムスコミュニケーション
〒168-0074 東京都杉並区上高井戸 1-8-17
ブライトコアビル新館 6階
電話：03-6847-5757 FAX：03-6847-5756